# 佐賀県農業基盤整備事業に係る 文化財調査報告書 9

1991年3月

佐賀県教育委員会

# 佐賀県農業基盤整備事業に係る 文化財調査報告書 9

1991年3月

佐賀県教育委員会

## はじめに

この報告書は、佐賀県農業基盤整備事業の実施に先立ち、埋蔵文化財の確認調査を行なった 結果についてまとめたものです。

県教育委員会では、文化財の保護と農業生産基盤の整備事業との調整を図るため、事業実施 に先立って確認調査を行い、その結果に基づいて文化財の保護行政を進めております。

平成元年度につきましても関係各位のご協力のもとに、事業計画予定地内における埋蔵文化 財の存否について確認調査を行ったところ、旧石器時代から近世に至る多くの遺跡の存在が確 認されました。この調査結果を踏まえ、県及び関係市町村の農林担当部局との間で文化財の保 護と農業基盤整備事業との調和について協議し、関係各位の御努力によって、多くの遺跡を後 世に伝えることが可能となりました。

また、同時掲載しております発掘調査(本調査)の記述については、昭和63年度に実施した 確認調査によってその所在を確認した遺跡のうち、基盤整備の設計変更等による文化財の保護 措置を尽くした結果、最終的に平成元年度において発掘調査に至ったものの概要報告であり、 その調査成果の一端を紹介するものです。

調査にあたって、文化庁・県農林部・関係市町村の教育委員会・土地改良担当課並びに地元 の皆様から深い御理解とご協力を賜り、お陰をもちまして埋蔵文化財の保護について所期の使 命を果すことができました。関係各位に対し、心からお礼申し上げます。

平成3年3月31日

佐賀県教育委員会 教育長 志 岐 常 文

## 例 言

- 1. 本書は国庫補助を受け、平成元年度及び翌2年度に施工計画の佐賀県農業基盤整備事業に 先行して、平成元年度に実施した確認調査並びに本調査の成果をまとめたものである。
- 2. 確認調査は関係市町村教育委員会の協力を得て、佐賀県教育委員会が実施した。
- 3. 遺構の実測及び写真撮影は各調査員が行った。
- 4. 遺物の整理・実測・製図・報告書作成作業は佐賀県教育委員会文化財課で行った。
  - 遺物整理……中島美須三・田中ハルミ
  - 遺物実測………上瀧光子・野田典子・光石逸子・宮地正子・山口美佐子
  - ・製 図……徳永貞紹・三好文子・鳥谷智子
- 5. 本書の執筆は下記の分担で行った。また、執筆に当たっては各調査担当者より提出された 「確認調査結果報告書」並びに「発掘調査実績報告書」を参考にした。なお各調査担当者 には必要に応じてご教示を戴いた。
  - I、II、III、V···········---------------- 秀信

IV-1、2·······石橋	新次	IV-3、4…山田正・田□	中正弘	IV-5、6······太田	睦
IV-7·····中尾	修二	IV-8、9······原田	大介	IV-10 ······久保	伸洋
IV-11、12·······緒方社	谷次郎	IV-13~15 ·····八尋	実	IV-16 ······	安信
IV-17、18········前田	達男	IV-19…木島慎治·加藤	秦元信	IV-20 木島慎治·加藤元信·	西田 巌
IV-21、22······福田	義彦	IV-23 ······平嶋	文博	IV-24、25 原田保則•坂丸	‡義哉
IV-26 ······加田	隆志	IV-27、28·······渡部	俊哉	IV-29、30······船井	向洋
IV-31 ··········	秀信	IV-32、33·······田島	龍太	IV-34 ·······有光	宏之
IV-35 ···········藤井	浩司				

6. 本書の編集は樋口秀信が担当した。

## 凡例

1. 遺構番号に用いた分類記号は、

SB:住居跡・建物跡、SH:竪穴住居跡、SE:井戸跡、SD:溝跡、SG:集石遺構、SJ:甕棺・壺棺、SK:土壙、SX:自然谷・性格不明の遺構・その他、P:柱穴・小穴、SC:石棺墓、ST:周溝墓を示す。

- 2. 用いた方位は地図が座標北、遺構図は磁北である。
- 3. 挿図中の記号で、■は遺構・遺物包含層が検出された試掘溝
  - □は遺構・遺物包含層が検出されなかった試掘溝 を示す。

## 目 次

I	. 調	査に至	[る経過⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯	1
	1. 平原	成2年度	施行予定の農業基盤整備事業計画に伴う文化財確認調査	1
	(1)	農業基	盤整備事業施行計画に係る協議	1
	(2)	文化財	確認調査	1
	(3)	農業基	盤整備事業と文化財保護に係る協議	2
II	. 調	查組織	ξ	11
III.	. 平	成元年	度文化財確認調査の内容	13
	〈 佐賀	東部地区	区における調査 》	13
	(1)	鳥栖市		14
	(2)	中原町	·	19
	(3)	北茂安	町	22
	(4)	上峰町		22
	(5)	三根町		27
	(6)	東脊振	村	29
	(7)	三瀬村		29
	(8)	神埼町		32
	(9)	千代田	町」	34
	〈 佐賀	西部地区		36
	(10)	佐賀市		37
	(11)	多久市		45
	(12)	大和町		48
	(13)	川副町		51
	(14)	小城町		51
	〈 佐賀	南部地区	《における調査 》	53

	(18)	白石町	58
	(19)	嬉野町	63
	(20)	太良町	63
-	佐賀	北部地区における調査 》	66
	(21)	伊万里市 ·····	67
	(22)	有田町	67
	(23)	西有田町	69
	(24)	厳木町	69
	(25)	相知町	70
(	佐賀	上場地区における調査 》	73
	(26)	唐津市	74
	(27)	浜玉町	83
	(28)	鎮西町	83
	(29)	肥前町	86
(	筑後	川下流用水事業(佐賀東部導水路)に係る調査 〉	87
	(30)	佐賀市	87
	(31)	北茂安町	87
IV	717.0		00
ıv.	T-)-	以九千及光伽詞重の似安	00
	佐賀	東部地区における調査 》	88
	(1)	山浦新町遺跡(鳥栖市)	88
	(2)	柳の元遺跡(鳥栖市)	90
	(3)	立花西遺跡(基山町)	92
	(4)	本竿遺跡(基山町)	94
	(5)	原古賀遺跡群 (原古賀一本谷 I ・ II ・ III 遺跡) (中原町)	96
	(6)	原古賀遺跡群 (原古賀三本谷 II • III 遺跡) (中原町) ·······	98
	(7)	宝満谷遺跡(北茂安町)	100
	(8)	三浦遺跡(北茂安町)	100
	(9)	原遺跡(北茂安町)	100
	(10)	八藤遺跡 (上峰町)	102
	(11)	船石遺跡(上峰町)	104
	(12)	上石動遺跡(東脊振村)	106
	(13)	姉川十二本松遺跡(神埼町)	108

(14) 姉川十三本松遺跡 (神埼町)
(15) 岩田遺跡群 (神埼町)
(16) 右原祇園町遺跡(神埼町)
(17) 船塚遺跡 (神埼町)
(18) 貴別当神社遺跡 (千代田町)
《 佐賀西部地区における調査 》120
(19) 本村遺跡 (佐賀市)
(20) 南宿遺跡 (佐賀市)
(21) 村徳永遺跡 (佐賀市)124
(22) 古村遺跡 (佐賀市)
(23) 阿高遺跡 (佐賀市)
(24) 牟田寄遺跡(佐賀市)130
(25) 四下大丹遺跡 (多久市)
《 佐賀南部地区における調査 》134
(26) 南永野遺跡 (武雄市)
(27) 天神裏遺跡 (武雄市)
(28) 不動遺跡 (鹿島市)
(29) 多田遺跡 (白石町)
(30) 湯崎東遺跡 (白石町)
《 佐賀北部地区における調査 》144
(31) 川内野遺跡 (伊万里市)
(32) 平山遺跡 (伊万里市)
(33) 牧の土塁・石塁跡 (西有田町)
《 佐賀上場地区における調査 》150
(34) 唐ノ川高峰遺跡 (唐津市)150
(35) 唐ノ川丸尾遺跡 (唐津市)
(36) 唐ノ川西ノ吹遺跡 (唐津市)
(37) 木下利房陣跡(玄海町)
(38) 殿木場遺跡 (肥前町)
《 筑後川下流用水事業に係る調査 》
(39) 本村遺跡(県教育委員会の調査区は佐賀市教育委員会の調査区に隣接するため、調
査成果については佐賀市教育委員会の報告中に併記)120

## 挿 図 目 次

図	1	平成元年度農業基盤整備事業に伴う文化財調査地区位置図3-	~4
図	2	佐賀東部地区周辺地形図	13
図	3	鳥栖市:鳥栖北部地区(山浦地区)試掘溝設定図(1)	15
図	4	鳥栖市:鳥栖北部地区(山浦地区)試掘溝設定図(2)	16
図	5	鳥栖市:鳥栖北部地区(原古賀地区)試掘溝設定図	17
図	6	鳥栖市:鳥栖北部地区(養父地区)試掘溝設定図	18
図	7	鳥栖市:鳥栖西部地区(立石吉原地区)試掘溝設定図	20
図	8	鳥栖市:鳥栖西部地区(立石惣楽地区)試掘溝設定図	21
図	9	中原町:中原北部地区試掘溝設定図 (1)	23
図	10	中原町:中原北部地区試掘溝設定図 (2)	24
図	11	上峰町:上峰北部地区試掘溝設定図	26
図	12	三根町:大善寺北部地区試掘溝設定図	28
図	13	三瀬村:井手野地区(井手野遺跡)出土遺物実測図	30
図	14	三瀬村:井手野地区(井手野遺跡) 試掘溝No1遺物出土状況	31
図	15	神埼町:神埼工区(祇園原工区)試掘溝設定図	33
図	16	千代田町:千代田工区(柳島地区)試掘溝設定図	35
図	17	佐賀西部地区周辺地形図	36
図	18	佐賀市:久保泉東部地区(第二換地工区)試掘溝設定図	38
図	19	佐賀市:久保泉東部地区(第三換地工区)試掘溝設定図(1)	39
図	20	佐賀市:久保泉東部地区(第三換地工区)試掘溝設定図 (2)	40
図	21	佐賀市:久保泉西部地区(泉工区)試掘溝設定図	41
図	22	佐賀市:金立南部地区試掘溝設定図	42
図	23	佐賀市:北川副地区試掘溝設定図	44
図	24	佐賀市:兵庫南部地区試掘溝設定図	46
図	25	多久市:多久東部地区(別府地区)試掘溝設定図	47
図	26	大和町:久池井地区(久池井一本松遺跡)甕棺出土状況	49
Ø	27	大和町: 久池井地区(久池井一本松遺跡) 出土甕棺及び縄文土器実測図	50
図	28	川副町:川副中部地区(鯔江南遺跡)S D001出土遺物実測図	52

図	29	佐賀南部地区周辺地形図	53
Ø	30	武雄市:川登地区 (第1工区) 試掘溝設定図	55
図	31	鹿島市:鹿島西部地区(南川地区)試掘溝設定図(1)	56
Ø	32	鹿島市:鹿島西部地区(南川地区)試掘溝設定図(2)	57
図	33	白石町:白石西第一地区(3工区)試掘溝設定図	60
図	34	白石町:白石西第三地区(1工区)試掘溝設定図	61
図	35	白石町:白石西第四地区(3工区)試掘溝設定図	62
図	36	嬉野町:不動山地区(皿屋谷遺跡)出土遺物実測図	64
図	37	太良町:糸岐川南地区試掘溝設定図	
図	38	佐賀北部地区周辺地形図	66
図	39	伊万里市:伊万里地区(大里地区)試掘溝設定図	68
図	40	相知町:岸岳2期地区試掘溝設定図	71
図	41	相知町:岸岳 2 期地区(おまん塚)検出遺構実測図	71
図	42	相知町:岸岳 2 期地区(おまん塚)出土遺物実測図	72
図	43	佐賀上場地区周辺地形図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	73
図	44	唐津市:上場Ⅱ期地区(湊工区)試掘溝設定図(1)	75
図	45	唐津市:上場Ⅱ期地区(湊工区)試掘溝設定図(2)	76
図	46	唐津市:上場Ⅱ期地区(湊工区)試掘溝設定図(3)	77
図	47	唐津市:上場Ⅱ期地区(湊工区)試掘溝設定図(4)	78
図	48	唐津市:上場IV期地区(梨川内工区)試掘溝設定図	79
図	49	唐津市:上倉幹線用水路(唐ノ川高峰地区)試掘溝設定図	81
図	50	唐津市:新成渕幹線用水路(竹木場前田地区)試掘溝設定図	82
図	51	唐津市:新成渕幹線用水路(菅牟田西山地区)試掘溝設定図	82
図	52	唐津市:新成渕幹線用水路(山田団六地区)試掘溝設定図 (1)	84
図	53	唐津市:新成渕幹線用水路(山田団六地区)試掘溝設定図(2)	85
図	54	山浦新町遺跡周辺地形図	88
図	55	(1)山浦新町遺跡検出土塁並びに石積状態 (2)空堀全景 (3)空堀の状態	
		(4) 第 1 地点出土土壙・1 (5) 第 1 地点出土土壙・2 (6) 第 2 地点全景	89
図	56	柳の元遺跡周辺地形図	90
図	57	(1)柳の元遺跡検出住居跡・1 (2)住居跡内土器出土状況	
		(3)検出住居跡・2 (4)住居跡内の竈の状況 (5)検出住居跡・3	
		(6) 検出住居跡・4	91
図	58	立花西遺跡周辺地形図	92

义	59	(1)立花西遺跡 I 区近景(南から) (2) II 区近景(南から)
		(3)出土遺物(上:滑石製品、下:鉄剣) (4)出土遺物(石鍋)
		(5)出土遺物(石鍋)
図	60	本竿遺跡周辺地形図・・・・・・94
Z	61	(1)本竿遺跡調査区全景(東から) (2) 1 号甕棺墓(東から)
		(3) 2 号甕棺墓(北から) (4) 3 号甕棺墓(西から)95
×	62	原古賀遺跡群 (原古賀一本谷 I・II・III遺跡) 周辺地形図96
図	63	(1)原古賀一本谷 II · III遺跡調査区全景 (2)原古賀一本谷 I 遺跡調査区全景
		(3) Ⅰ 遺跡調査区北側中央部 (4)Ⅲ遺跡ピット内出土遺物
		(5) I 遺跡 S K 007内出土遺物 (6) I 遺跡 S K 041内出土遺物
		(7) I 遺跡 P 139内出土遺物 (8) I 遺跡 S K 010内出土遺物
		(9) I 遺跡 S K 007内出土遺物 97
図	64	原古賀遺跡群(原古賀三本谷II・III遺跡)周辺地形図98
図	65	(1)原古賀三本谷Ⅱ遺跡調査区全景 (2)原古賀三本谷Ⅲ遺跡調査区全景 99
図	66	宝満谷遺跡・三浦遺跡・原遺跡周辺地形図100
図	67	(1)三浦遺跡調査区南側全景 (2)宝満谷遺跡Ⅲ区全景
		(3)宝满谷遺跡II区全景 (4)三浦遺跡調査区北側掘立柱建物跡
		(5)宝满谷遺跡IV区全景 (6)三浦遺跡調査区北側全景101
义	68	八藤遺跡周辺地形図・・・・・102
図	69	(1)八藤遺跡 I 区全景 (2) I · II 区全景 (3) II 区甕棺墓集中部分
		(4) II区S H241(古墳時代)・S H242(弥生時代)竪穴住居跡
		(5) I 区 S K 011土壙(縄文時代) (6) II 区 S J 225甕棺墓103
図	70	船石遺跡周辺地形図104
図	71	(1) 船石遺跡 XI 区繩文時代遺物包含層上面出土土器 (2) XI 区 1 号埋甕
		(3)包含層完掘状態 (4)2号埋甕 (5)包含層上面 (6)SH035竪穴住居跡
		(7) SK032土壙 ·······105
図	72	上石動遺跡周辺地形図106
図	73	(1)上石動遺跡第2地区全景(南から)(2)第2・第3地区全景(上から)
		(3)第2地区SC037石棺墓(北から)(4)第3地区ST048周溝墓(北西から)107
図	74	姉川十二本松遺跡周辺地形図108
図	75	(1)姉川十二本松遺跡調査区全景(南から) (2)掘立柱建物跡柱穴内遺物出土状況
		(3)井戸跡(北から) (4)調査作業の状況 (5)土壙
		(6)掘立柱建物跡(東から)

図	76	姉川十三本松遺跡周辺地形図110
<b>3</b>	77	(1)姉川十三本松遺跡1区全景(西から) (2)2区全景(西から)
		(3)井戸跡(南から) (4)姉川十三本松遺跡調査区全景(南から)
		(5) 掘立柱建物跡柱穴内遺物出土状況 (6) 土壙内遺物出土状況111
<b>3</b>	78	岩田遺跡群周辺地形図112
図	79	(1)岩田遺跡群(岩田芦ノ元遺跡)調査区全景(南から)
		(2) 掘立柱建物跡 (南から) (3) 調査区近景 (4) 溝跡検出状況113
図	80	右原祇園町遺跡周辺地形図114
図	81	(1)右原祇園町遺跡竪穴住居跡(南から) (2)竪穴住居跡(南から)
		(3) 方形区画溝跡内土器出土状況(東から)
		(4) 方形区画内掘立柱建物跡(東から)
図	82	船塚遺跡周辺地形図116
図	83	(1) 船塚遺跡土層堆積状況 (2) 経塚全景(東から) (3) 縄文晩期の溝跡
		(4) 遺物出土状況
図	84	貴別当神社遺跡周辺地形図・・・・・118
図	85	(1) 貴別当神社遺跡調査区北側全景 (2) 調査区中央部全景
		(3)調査区東側全景 (4)調査区南西側全景 (5)調査区南側全景119
×	86	本村遺跡周辺地形図120
×	87	(1)本村遺跡調査区全景・1 (2)本村遺跡調査区全景・2
		(3)方形区画 I 全景 (4)方形区画 II 全景 (5)SE301井戸枠板出土状況
		(6) S P170 (7) P1001遺物出土状況 (8) S P232 ······121
図	88	南宿遺跡周辺地形図122
図	89	(1) S R 002 (2) S E 001土層断面 (3) S E 001遺物出土状況
		(4) S R 008遺物出土状況 (5) II 区全景
図	90	村德永遺跡周辺地形図124
図	91	(1)村徳永遺跡F地区全景 (2)周溝状遺構群 (3)掘立柱建物群
		(4) S B 011掘立柱建物跡 (5) S B 015掘立柱建物跡 (6) S B 072掘立柱建物跡
		(7) G地区SB333掘立柱建物跡(南から)125
図	92	古村遺跡周辺地形図126
図	93	(1) 古村遺跡 1 区全景 (2) 2 区全景 (3) S K226
		(4) S K225 (5) S K209 (6) S H220127
図	94	阿高遺跡周辺地形図128
図	95	(1)阿高遺跡調査区(A地区)全景(西から) (2) S K006土壙

	(3) S K 041土壙 (4) S K 073土壙129
図 96	牟田寄遺跡周辺地形図130
図 97	(1)牟田寄遺跡調査区(B・C地区)全景 (2)S K015遺物出土状況
	(3) S K 042遺物出土状況(近景) (4) S K 042遺物出土状況(全景)
	(5) S E 047遺物出土状況131
図 98	四下大丹遺跡周辺地形図132
図 99	(1)四下大丹遺跡調査区全景 (2)出土遺物(縄文土器)
	(3)出土遺物(縄文土器)
図100	南永野遺跡周辺地形図134
図101	(1)南永野遺跡 1 区全景(北から) (2) 2 区全景(西から)
	(3) 1 区 S B 101掘立柱建物跡(東から) (4) 2 区 S E 204出土遺物(黄釉の陶盤)
	(5) 2 区 S E 209・210掘立柱建物跡 (6) 2 区 S E 204出土遺物(黄釉の陶盤)······135
図102	天神裏遺跡周辺地形図136
図103	(1) 天神裏遺跡調査区全景(北から) (2) S K 101土壙(南から)137
図104	不動遺跡周辺地形図138
図105	不動遺跡A地区(1) A地区全景(南西から) (2) 掘立柱建物群(東から)
	(3) S K 09 (南から) (4) S D 05遺物出土状況 (5) S D 04 (北西から)
	不動遺跡B地区(6) B地区全景(南西から) (7)遺構検出状況(南から)
	(8)土壙・井戸群(南から) (9)SD10検出状況(北東から)
	不動遺跡C地区(10) C地区全景(南から) (11)土壙・柱穴群(東から)
	(12) S X 101土壙検出状況(東から) (13) 青銅製蓋出土状況(S X 101内出土)
	(14)滑石製分銅出土状況(SK43内出土)139
図106	多田遺跡周辺地形図140
図107	(1)多田遺跡 I 区全景(東から) (2) I 区内検出木棺墓(蓋除去後:南から)
	(3) G区SK209 (4) G区SK209出土V字形木製品(赤外線カメラを使用)
	(5) G区S K207出土木簡(赤外線カメラを使用)141
図108	湯崎東遺跡周辺地形図142
図109	(1)湯崎東遺跡調査区全景(東から)
	(2)SK440出土付札木簡(赤外線カメラを使用) (3)SK430土器出土状況
	(4) S K596へラ書き「大」蓋出土状況 (5) S K592木器出土状況
	(6) S E 223田舟(?)出土状況143
図110	川内野遺跡周辺地形図・・・・・144
図111	(1)川内野遺跡 c 区全景(西から) (2) e 区全景(西から)

	(3) b 区 S P 55 (西から) (4) c 区 S K 4 ・ 5 ・ 6 検出状況 (南西から)						
	(5) c 区 S P 83 (北西から)145						
図112	平山遺跡周辺地形図146						
図113	(1)平山遺跡A地区全景(東から) (2) B地区全景(北から)						
	(3) B地区土壙検出状況(北西から)147						
図114	牧の土塁・石塁跡周辺地形図148						
図115	(1)牧の土塁・石塁跡所在地(牧山全景:西から)						
	(2)牧の土塁・石塁跡(手前より1・2・3号石塁:北から)						
	(3)石塁の接続部分(南から) (4)1号石塁・東面						
	(5) 2 号石塁・北面 (6) 3 号石塁・東面149						
図116	唐ノ川高峰遺跡周辺地形図・・・・・・150						
図117	(1) 唐ノ川高峰遺跡調査区全景 (2) 遺構分布状況(貯蔵穴群)						
	(3) S K8920貯蔵穴(ドングリピット) (4) S K8922土壙(木材貯蔵穴(?))151						
図118	唐ノ川丸尾遺跡・唐ノ川西ノ吹遺跡周辺地形図152						
図119	(1)唐ノ川丸尾遺跡遺構検出状況(北西から) (2)唐ノ川丸尾遺跡下層面						
	グリット全景(東南から) (3)唐ノ川西ノ吹遺跡調査区全景(東から)						
	(4) 唐ノ川西ノ吹遺跡検出土壙						
図120	唐ノ川高峰遺跡・唐ノ川丸尾遺跡遺構分布図154						
図121	唐ノ川丸尾遺跡・唐ノ川西ノ吹遺跡出土遺物実測図155						
図122	木下利房陣跡周辺地形図・・・・・156						
図123	(1)木下利房陣跡調査区全景(真上から) (2)西区石垣遺構(南から)						
	(3)東区石垣遺構(南から)157						
図124	殿木場遺跡周辺地形図158						
図125	(1)殿木場遺跡調査区全景(西から) (2)土壙(西から)						
	(3)調査区全景(南西から) (4)遺物出土状況(ナイフ形石器)						
	(5) 遺物出土状況 (6) 土壙(東から)						
	表目次						
表 1	農業基盤整備事業施工予定地区内文化財確認調査一覧表						
	(平成元年度実施)5~8						
表 2	農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査一覧表						
	(平成元年度実施) 9~10						

## I. 調査に至る経過

#### 1. 平成2年度施行予定の農業基盤整備事業計画に伴う文化財確認調査

#### (1)農業基盤整備事業施行計画に係る協議

本県においては、県農林部所管及び市町村所管の農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護 については、県農林部と県教育委員会との間で確認した「農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財 の保護に関する確認事項」(昭和53年締結、昭和59年改正)に基づき、協議調整を行っている。 平成2年度農業基盤整備事業施行計画については、平成元年9月下旬に農地整備課・農業振興 課・建設鉱害課から施行予定地の図面を添え、文化課に協議があった。

この施行計画に係る埋蔵文化財確認調査の対象面積は合計1058.3haに達した。地区別で見ると、佐賀東部地区(鳥栖市・中原町・北茂安町・上峰町・三根町・東脊振村・三瀬村・神埼町・千代田町)462.33ha、佐賀西部地区(佐賀市・多久市・大和町・川副町・小城町)333.36ha、佐賀南部地区(武雄市・鹿島市・江北町・白石町・嬉野町・太良町)206.32ha、佐賀北部地区(伊万里市・有田町・西有田町・厳木町・相知町)24.04ha、佐賀上場地区(唐津市・浜玉町・鎮西町・肥前町)32.25haである。関係する農業基盤整備事業として、県営圃場整備事業・干拓地等農地整備事業・県営土地改良総合整備事業・団体営圃場整備事業・団体営土地改良総合整備事業をはじめ、農業構造改善事業・山村振興農林漁業対策事業・農道整備事業・農地等鉱害復旧事業・民有林林道開設事業など多岐にわたっている。

また九州農政局所管の、国営上場水利事業に伴う文化財の取り扱いに関する協議(唐津市・ 鎮西町・肥前町)、水資源開発公団所管の筑後川下流用水事業に伴う文化財協議(佐賀市・北茂 安町)もなされた。

#### (2) 文化財確認調査

協議を受けた事業計画地区(工区)の設計図に関して、まず工区内に周知の文化財が所在しているかどうかを遺跡地図等によって確認するとともに、関係市町村の文化財担当専門職員から埋蔵文化財に関する情報の収集を行うほか、遺跡が立地し得る自然条件にあるかどうかといった点も含めて、事前の検討作業を行った。

そして、各事業計画地区について、関係市町村教育委員会の文化財担当職員とともに現地踏 査を実施して検討を重ね、その資料を基に確認調査が必要な地区・地点(表1)を決定した。

確認調査の実施にあたり、関係市町村の教育委員会・土地改良担当課、及び県農林部の関係 諸課・各農林事務所との『平成2年度農業基盤整備事業に係る文化財の保護に関する協議会』 (第1回)を、県教育委員会の主催により上場地区については9月27日、下場地区については 10月17日にそれぞれ開催した。協議会においては全体協議の後、市町村毎に関係者による個別 協議の場を設け、事業計画の概要説明、現地踏査等の検討結果の報告、確認調査の円滑な実施 等に当たっての打ち合わせを行った。

文化財確認調査は、上場地方及び西松浦郡等の稲刈りが早く終了する市町村では10月下旬から開始し、その他の市町村でも麦の種蒔き時期との関係で、11月中旬までには実施した。確認調査には、原則として2m×2mの試掘溝(トレンチ)を20m間隔に碁盤目状に設定し、埋蔵文化財の有無、性格、分布範囲等を調査する方法を採用した。

#### (3) 農業基盤整備事業と文化財保護に係る協議

調査によって事業計画地 (工区) 内で確認された遺跡は、佐賀東部地区576,035㎡、佐賀西部 地区161,401㎡、佐賀南部地区48,170㎡、佐賀北部地区1,800㎡、佐賀上場地区8,400㎡の合計 795,806㎡である。

この確認調査の結果をもとに、関係市町村教育委員会が主体となって個別協議を実施し、基 盤整備工事が遺跡に影響を及ぼす地点については、水路位置の変更・盛土による田高面の嵩上 げ・圃場の区画変更等の設計変更を中心に、技術的・経済的に可能な保存方法を検討し、事業 計画と文化財保護に関する調整を図った。この間、農林側には数度にわたる設計変更に関して 積極的に対処していただいた。

このような個別協議を経て、12月26日に第2回目の「農業基盤整備事業に係る文化財の保護 に関する協議会」を開催し、平成2年度の事業計画と文化財保護との最終的な調整を行った。 この結果、遺跡の存在が確認された地区の大部分については盛土工法等の採用による遺跡の現 状保存が可能となり、一方工法上の保護措置が困難な117,439㎡については平成2年度に発掘調 査を実施して記録保存を行うことになった。

また平成元年度に関係各市町村教育委員会が実施した発掘調査(表2)は、昭和63年度に確認調査を実施し、農業基盤整備事業担当部局との協議を経た結果、記録保存で対応することになったものの一覧である。

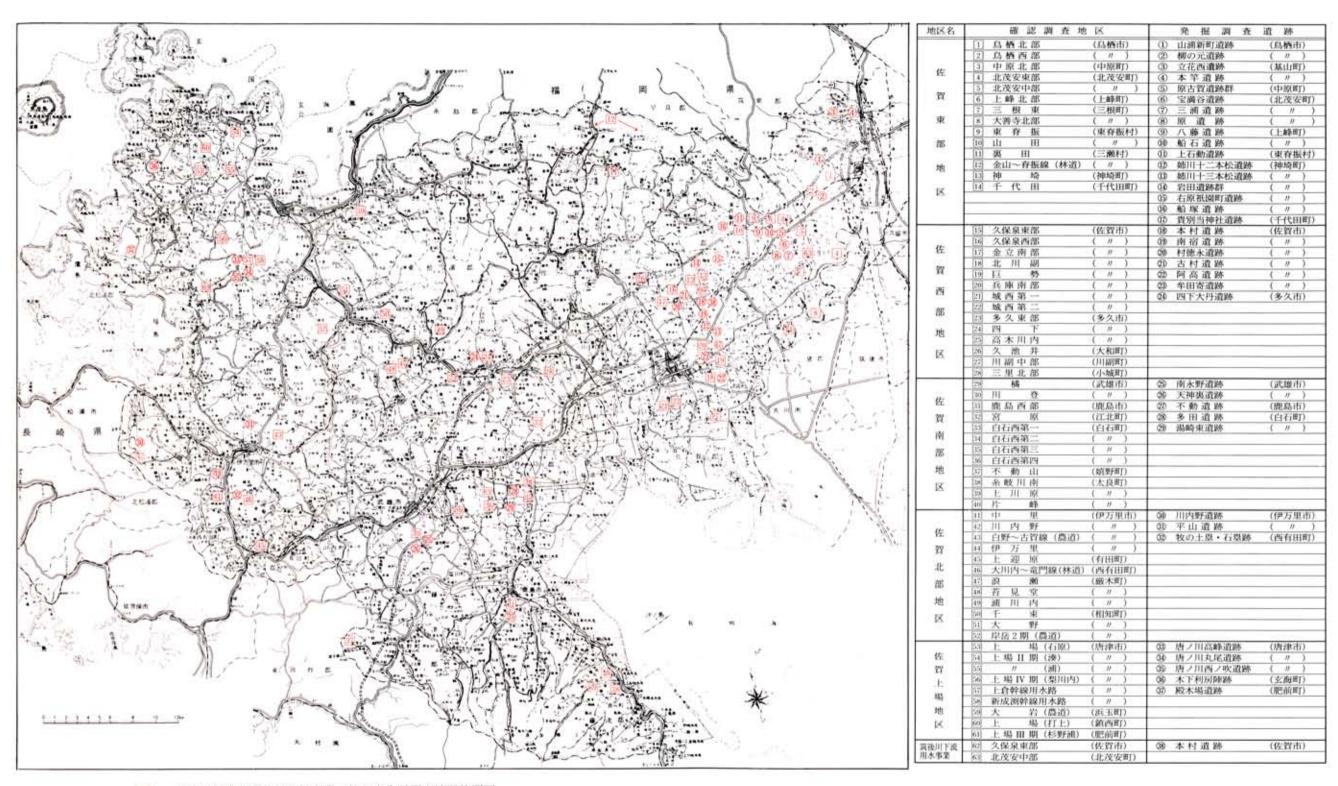


図1 平成元年度農業基盤整備事業に伴う文化財調査地区位置図

## 表 1 農業基盤整備事業施行予定地区内文化財確認調査一覧表(平成元年度実施)

地区	市町村名	工事地区名	所 在 地	確認調查対象面積(ha)	調 査 結 果	担当	備考
	島栖市	鳥 栖 北 部 (山 浦)	鳥栖市山浦町字本村	0.8	古墳時代及び中世の集落跡	石 橋	本村遺跡、西田遺跡、四の坪遺跡、山浦西北方古墳群
		鳥 栖 北 部 (原古賀)	鳥栖市原古賀町字原古賀	9.9	弥生時代~近世の集落跡	石 橋	原古賀遺跡
佐		鳥 栖 北 部 (養 父)	鳥栖市養父町字古蓮輪、宮前	12.7	縄文時代及び奈良~平安時代の集落跡	石 橋	養父遺跡
281770		鳥 栖 西 部 (立石木の元)	鳥栖市立石町字木の元	4.0	遺跡は確認されなかった	石 橋	
		鳥栖西部(立石吉原)	鳥栖市立石町字吉原	2.9	古墳時代及び奈良~平安時代の集落跡	石 橋	山田遺跡
智		鳥栖西部(立石惣楽)	鳥栖市立石町字惣楽	5.2	奈良~平安時代の集落跡	石 橋	
.54	中原町	中 原 北 部	三菱基郡中原町大字原古賀字二本桜、三本桜、六本谷	30.2	弥生~中世の集落跡	太 田	上地八本谷遺跡、拾德遺跡、高柳三本桜遺跡、上地西方丘陵遺跡
	北茂安町	北茂安東部	三養基郡北茂安町大字白壁字一本杉、新土井内一の角	18.0	遺跡は確認されなかった	中尾	
東		北茂安中部	三養基郡北茂安町大字東尾字三倉塚、大薮、久保田	21.2	遺跡は確認されなかった	中尾	
ж	上峰町	上 蜂 北 部	三養基郡上峰町大字堤字八藤外	30.0	弥生~中世時代の集落跡及び奈良時代の土塁	鶴田・原田	堤土塁
	三根町	三 根 東	三養基郡三根町大字西島字田中	20.5	遺跡は確認されなかった	天本・池田	
The second		大 善 寺 北 部	三養基郡三根町大字天建寺字宮村、市場(土居外)	51.0	平安時代~中世の集落跡	天本・池田	
部	東脊振村	東 脊 振	三養基郡東脊振村大字石動字一本松	1.5	古墳時代の集落跡、墳墓群及び中世の集落跡	久保・森田	
		山 田 (砂防ダム)	三養基郡東脊振村大字三津字山田	0.03	遺跡は確認されなかった	久保・森田	
	三瀬村	- 選	神埼郡三瀬村大字藤原字裏田	4.0	遺跡は確認されなかった	谷 澤	
地		金山~脊振線(長畑:林道)	神埼郡三瀬村大字三瀬字長畑	(0.1)	遺跡は確認されなかった	徳永・谷澤	
		金山~脊振線(井手野:林道)	神埼郡三瀬村大字藤原字井手野	(0,2)	縄文時代の遺物包含層	徳永・谷澤	井手野遺跡
	神埼町	神 埼 (祇園原)	神埼郡神埼町大字尾崎字唐香原外	83.0	古墳時代~近世の集落跡、奈良時代の古代官道	緒方・八尋	野畠遺跡、森ノ木遺跡、塚原遺跡、小林遺跡、祇園原遺跡
区		n (क्षेत्रं मा)	神埼郡神埼町大字姉川字二本松、三本松、五本松外	30.0	遺跡は確認されなかった	緒方	
	千代田町	千 代 田 (柳 島)	神埼郡千代田町大字柳島字九本柳外	90.0	中世の遺物包含層	堤	
		千 代 田(上西)	神埼郡千代田町大字下西字二本松	28.0	弥生時代、中世・近世の集落跡	堤	
	佐賀市	久 保 泉 東 部	佐賀市久保泉町大字川久保字東原口、東高田、原ノ町	42.2	弥生~近世の集落跡	前田	原ノ町遺跡、東高田遺跡、櫟木遺跡
1+-		久 保 泉 西 部	佐賀市久保泉町大字上和泉字村德永	20.0	弥生時代及び中世の集落跡	前田	篠木野遺跡、村徳永遺跡
佐		金 立 南 部	佐賀市金立町大字千布字久富	28.0	古墳時代及び中世の集落跡	前田	久富遺跡、東千布遺跡、千布二本黒木遺跡、大野原遺跡
W		北川副	佐賀市北川副町大字光法字角町、阿高	45.3	古墳~中世の集落跡	福田	梅屋敷遺跡、寺裏遺跡
H		巨 勢	佐賀市巨勢町大字東西字東巨勢	28.0	遺跡は確認されなかった	前田	
西		兵 庫 南 部	佐賀市兵庫町大字瓦町字牟田寄、中牟田	45.0	弥生時代の集落跡	福田	瓦町遺跡
P. S.		城 西 第 一	佐賀市本庄町大字高太郎	38.0	遺跡は確認されなかった	樋口	
部		城 西 第 二	佐賀市本庄町大字鹿ノ子	25.0	遺跡は確認されなかった	樋 口	
qq	多久市	多久東部(別府)	多久市東多久町大字別府字四反田	16.5	中世の集落跡	平嶋	四反田遺跡
地		四下	多久市北多久町大字多久原字申川内	1.05	遺跡は確認されなかった	平响	
地區		高 木 川 内	多久市北多久町大字小侍字高木川内	5.4	遺跡は確認されなかった	平嶋	
区	大和町	久 池 井	佐賀郡大和町大字久池井字一本松	0.01	弥生時代の墳墓 (甕棺墓)	田中	久池井一本松遺跡
14	川副町	川 副 中 部	佐賀郡川副町大字西古賀字二本松八角、屋敷田	45.0	中世〜近世の集落跡	谷 澤	鯔江南遺跡
	小城町	三 里 北 部 (貯水槽)	小城郡小城町大字栗原	4.0	遺跡は確認されなかった	古庄	

地区	市町村名	工事地区名	所 在 地	確認調査対象面積(ha)	調 査 結 果	担当	備考
	武雄市	橘	武雄市橘町大字大日字北楢崎外	36.0	遺跡は確認されなかった	原田	
	2	川 登(第 1)	武雄市東川登町大字永野字焼山、北永野、南永野	20.0	中世の遺物散布地	坂 井	
左	鹿島市	鹿島西部(南川)	鹿島市大字山浦銭篭、大字納富字正願地	13.8	中世の集落跡	加田	則重遺跡、正願地遺跡
ar.		鹿 島 西 部 (若殿分)	鹿島市大字納富分字堤、妙見	2.5	遺跡は確認されなかった	加田	
163	1	鹿 島 西 部 (大殿分)	鹿島市大字山浦字八龍、浄源	14.4	遺跡は確認されなかった	加田	
W.		鹿 島 西 部 (大木庭)	鹿島市大字三河内大木庭	13.0	遺跡は確認されなかった	加田	
6		鹿 島 西 部 (上古枝)	鹿島市大字古枝字上古枝	3.0	遺跡は確認されなかった	加田	
9	江北町	宮 原 (貯水地)	杵島郡江北町大字山口字東百合野	0.2	遺跡は確認されなかった	樋口・徳永	
	白石町	白石西第一(3工区)	杵島郡白石町大字大渡字鳥ノ巣	25.0	平安~中世の溝跡	渡部	鳥ノ巣遺跡、大渡下三本松遺跡
ß		白石西第二(4工区)	杵島郡白石町大字東郷字一本楠	12.0	遺跡は確認されなかった	渡部	
S		白石西第三(1工区)	杵島郡白石町大字今泉字多田	40.0	古墳~奈良時代の集落跡	渡部	多田遺跡
Ē		白石西第四(3工区)	杵島郡白石町大字堤字船野	37.0	弥生~平安時代の遺物包含層	渡部	船野遺跡
N.	嬉 野 町	不 動 山	藤津郡嬉野町大字不動山(乙)	0.02	近世の古窯跡	樋口	皿屋谷遺跡
5	太良町	糸 岐 川 南	藤津郡太良町大字糸岐字川南	7.5	平安~中世の集落跡	徳永・谷澤	糸岐川南遺跡
	100000000000000000000000000000000000000	上 川 原	藤津郡太良町大字多良字上川原、川良	6.0	遺跡は確認されなかった	徳永・谷澤	
		片峰	藤津郡太良町大字多良字片峰	6.6	遺跡は確認されなかった	徳永・谷澤	
П	伊万里市	中 里	伊万里市二里町大字中里字川内、飯盛川内	8.0	遺跡は確認されなかった	盛	
		川 内 野	伊万里市東山代町大字川内野字岩ノ下	1.1	遺跡は確認されなかった	船井	
		白野~古賀線(国見山麓農道)	伊万里市大坪町大字白野	(0.1)	遺跡は確認されなかった	盛	
		伊 万 里(大 里)	伊万里市二里町大字大里字長谷平、多々羅	0.3	縄文時代の遺物包含層	盛	多々羅遺跡
	有田町	上 迎 原	西松浦郡有田町大字西部(甲)字上迎原	0.01	遺跡は確認されなかった	村上・野上	
	西有田町	大川内~竜門線 (民有林林道)	西松浦郡西有田町大字山谷字楠久保	(0.4)	近世の御用牧場跡	樋口	牧の土塁・石塁跡
2	厳木町	浪瀬	東松浦郡厳木町大字浪瀬字岩ノ元	6.4	遺跡は確認されなかった	樋口	
	PERSONAL	苔 見 堂	東松浦郡厳木町大字浪瀬字苔見堂	1.5	遺跡は確認されなかった	樋口	
	1	浦 川 内	東松浦郡厳木町大字浦川内字有ノ木	1.5	遺跡は確認されなかった	樋口	
	相知町	千 東	東松浦郡相知町大字千束字平尾、本川内	2.0	遺跡は確認されなかった	樋口	
		大 野	東松浦郡相知町大字大野字小山、菖蒲ヶ谷	2.1	遺跡は確認されなかった	樋口	
		岸岳2期(農道)	東松浦郡相知町大字佐里字岸岳	(0.63)	近世の墳墓及び岸岳城関連の堅堀跡	樋口	おまん塚、岸岳城跡
	唐津市	上 場(石原)	唐津市大字枝去木字イッカン田、下川、デン田	7.0	遺跡は確認されなかった	田島	
	A4. 715. 785	上場II期(湊)	唐津市大字湊字松本、牟田上、中野、十蓮、大山	23.0	弥生、中世の集落跡	H B	湊松本遺跡
		上場Ⅱ期(浦)	唐津市大字浦字野原	2.5	遺跡は確認されなかった	田島	
ľ	8	上場IV期(梨川内)	唐津市大字梨川内字小十、大久保	8.0	旧石器〜縄文時代及び中世〜近世の遺物包含層	田島	大久保遺跡、村前 I 遺跡、村前 II 遺跡
		上倉幹線(唐ノ川高峰)	唐津市大字唐ノ川字高峰	(0,5)	田石器~縄文時代の集落跡及び田石器~縄文時代、中世の道 物包含層	田島	7.5 (11.02)
,		新成測幹線(竹木場前田外)	唐津市大字唐ノ川字一ノ坂、大字東山字殿切外	(3.6)	物の存所 旧石器~縄文時代及び中世の遺物包含層	田島	竹木場前田遺跡、菅牟田西山遺跡、団六 1 遺跡、団六 11遺跡
	浜玉町	大 岩(農道)	東松浦郡浜玉町大字橋田下字大岩	(0.45)	遺跡は確認されなかった	植口	William Control of the Control of th
				10.0	遺跡は確認されなかった	明瀬	
	鎮西町	上場地区(打上)	東松浦郡鎮西町大字打上字中通		遺跡は確認されなかった	徳永・藤井	
-	肥前町	上場Ⅲ期(杉野浦支線道路)	東松浦郡肥前町大字杉野字上場	(0.2)	The state of the s		* 4+ 30 D#
F水 乾		久保泉東部	佐賀市久保泉町大字上和泉、下和泉	0.37	中世〜近世の集落跡	徳水	本村遺跡
1	北茂安町	北茂安中部	三養基郡北茂安町大字東尾	1.2	遺跡は確認されなかった	徳永	

## 表 2 農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財確認調査一覧表(平成元年度実施)

地区	市町村名	工事地区名	遺 跡 の 所 在 地	調查面積(m²)	調査主体者	調查担当者	遺 跡 の 内 容	略号
TRIC	島栖市	山浦新町遺跡	鳥栖市山浦町字新町	7,200	鳥栖市	石橋	古墳時代の墳墓及び中世の集落跡	FYS
佐賀	209 183 114	柳の元遺跡	鳥栖市立石町字柳の元	6,400	鳥栖市	石橋	平安時代の集落跡	FTY
	基 山 町	立花西遺跡	三養基郡基山町大字園部字立花	6,100	基山町	山田・田中	中世の集落跡	TBN
	SES 111 PG	本等遺跡	三養基郡基山町大字園部字本竿	3,900	基山町	山田・田中	弥生時代の集落跡	MZO
	中原町	原古賀遺跡群	三養基郡中原町原古賀字一本谷、三本谷	3,800	中原町	太田	弥生~平安時代の集落跡、奈良・平安時代の居館跡	HID, HSD
	北茂安町	宝満谷遺跡	三養基郡北茂安町大字中津隈字宝満谷	3,100	北茂安町	中尾	奈良・平安時代の集落跡	KHT
	北及安则	三浦遺跡	三養基郡北茂安町大字中津隈字原口	600	北茂安町	中尾	弥生時代の集落跡	KMU
東		原遺跡	三養基郡北茂安町大字中津隈字一本黒木	300	北茂安町	中尾	奈良時代の集落跡	KHR
	上峰町	八藤遺跡	三養基郡上峰町大字堤八藤	3,800	上峰町	原田	縄文~奈良時代の集落跡、弥生時代の墳墓群	YTO
部	TT wit 141	船石遺跡	三養基郡上峰町大字堤字二本谷	1,100	上峰町	原田	縄文後期の集落跡	FNI
	東脊振村	上石動遺跡	一套差型工作叫入于是于一个钉 神埼郡東脊振村大字石動四本杉、五本杉、一本松	5,200	東脊振村	久 保	縄文、古墳、中世の集落跡及び墳墓群	KIN
:		姉川十二本松遺跡			神埼町		他又、白明、中世の宋帝時及び明霊研 近世の集落跡	AJN
地区	神埼町		神埼郡神埼町大字姉川字十二本松	530	神埼町	緒方緒方	近世の集落跡	AJS
		姉川十三本松遺跡	神埼郡神埼町大字姉川字十三本松	1,500	1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1000		
		岩田遺跡群	神埼郡神埼町大字尾崎字芦ノ元、萩原、横山	2,170	神埼町	八尋・大橋	古墳時代の遺物包含層、近世の集落跡及び窯跡(?)	ITA, ITH, ITY
		右原祇園町遺跡	神埼郡神埼町大字鶴字祇園町	2,300	神埼町	八尋	弥生~古墳時代の集落跡及び居館跡(?)	MBG FNT
	or the see mr	船塚遺跡	神埼郡神埼町大字志波屋字六本松	1,700	神埼町	八尋	旧石器〜近世の集落跡	
	千代田町	貴別当神社遺跡	神埼郡千代田町大字下西字二本松	1,600	千代田町	堤	縄文時代の遺物包含層、弥生時代の集落跡	KBT
佐賀西部地区	佐賀市	本 村 遺 跡	佐賀市久保泉町大字下和泉字本村、永屋	5,966	佐賀市	前田	古墳〜近世の集落跡	HMR
		南宿遗跡	佐賀市久保泉町大字下和泉字南宿、永屋	434	佐賀市	前田	弥生時代の集落跡	NSK
		村德永遺跡	佐賀市久保泉町大字上和泉字村徳永	10,250	佐賀市	木島・加藤	弥生、中世の集落跡	MTN
		古村 遺跡	佐賀市久保泉町大字上和泉字古村	2,306	佐賀市	木島・加藤・西田	古墳~平安時代の集落跡	FMR
		阿高遺跡	佐賀市北川副町大字光法字阿高	2,600	佐賀市	福田	古墳~中世の集落跡	ADK
		车 田 寄 遺 跡	佐賀市兵庫町大字瓦町字车田寄	3,000	佐賀市	福田	弥生~中世の集落跡	MTY
	多久市	四下大升遺跡	多久市北多久町大字多久原字大丹	1,200	多久市	平嶋	縄文時代の遺物包含層及び中世の集落跡	SGO
佐賀南部地区	武雄市	南水野遺跡	武雄市東川登町大字永野字天神皆木	400	武雄市	原田・坂井	中世の集落跡	MNG
		天 神 裏 遺 跡	武雄市東川登町大字永野字今藤	200	武雄市	原田・坂井	中世の集落跡	TGU
	鹿島市	不 動 遺 跡	鹿島市大字山浦字不動	3,200	鹿島市	加田	中世の寺院跡	FDO
地区	白石町	多 田 遺 跡	杵島郡白石町大字今泉字多田	5,000	白石町	渡部	古墳~奈良時代の集落跡、近世の墳墓	TAD
		湯崎東遺跡	杵島郡白石町大字湯崎字湯崎	3,000	白石町	渡部	弥生~奈良時代及び近世の集落跡	YSH
佐 賀 北 地	伊万里市	川内野遺跡	伊万里市東山代町大字川内野字平原、松葉	6,900	伊万里市	船 井	中世〜近世の集落跡	KCN
		平 山 遺 跡	伊万里市脇田町大字平山字瀬堂、抜ノ前	240	伊万里市	船 井	中世〜近世の集落跡	HLY
部 佐賀上場地区	西有田町	牧の土塁・石塁跡	西松浦郡西有田町大字山谷字楠久保	2,000	西有田町	樋口	鍋島藩の御用牧場跡	MAK
	唐津市	唐ノ川高峰遺跡	唐津市唐ノ川字高峰	2,400	唐津市	田島	縄文時代の遺物包含層	TOT
		唐ノ川丸尾遺跡	唐津市唐ノ川字丸尾	110	唐津市	田島	旧石器〜縄文時代の遺物包含層及び弥生・中世の集落跡	TOM
		唐ノ川西ノ吹遺跡	唐津市唐ノ川字西ノ吹	200	唐津市	田島	弥生~古墳時代の集落跡	TON
	玄 海 町	木下利房陣跡	東松浦郡玄海町大字値賀川内字日の出	4,000	玄 海 町	有 光	文禄・慶長の役に係る陣跡	KTF
	肥前町	殿木場遺跡	東松浦郡肥前町大字入野字殿木場	1,700	肥前町	藤 井	旧石器、縄文、古墳、中世の遺物包含層	TOK
年 後 川 下流用水	佐 賀 市	本 村 遺 跡	佐賀市久保泉町大字下和泉字本村、永屋	1,786	佐 賀 県	徳永・谷澤	古墳〜近世の集落跡	HMR

## II. 調査組織

#### 1. 調查主体

佐賀県教育委員会 (事務局;文化課)

## 2. 総 括

事務局長;武藤佐久二(県文化課長)

n 次長;高島忠平 (県文化課参事)・岩崎輝明(県文化課長補佐)

## 3. 庶 務

稲富安徳(県文化課庶務係長) 鶴田明美(県文化課庶務係) 直塚清純(県文化課庶務係) 本山恵悟(県文化課庶務係)

## 4. 調 査

調査主任;藤口健二(県文化課文化財調査第2係長)

調 査 員:天本洋一・森田孝志・樋口秀信・徳永貞紹・谷澤 仁

(以上、県文化課文化財調査第2係)

福田 義彦(佐賀市教育委員会) 前田 達男(佐賀市教育委員会) 田島 龍太 (唐津市教育委員会) 石橋 新次(鳥栖市教育委員会) 平嶋 文博(多久市教育委員会) 盛 蜂雄 (伊万里市教育委員会) 原田 保則 (武雄市教育委員会) 船井 向洋(伊万里市教育委員会) 坂井 義哉 (武雄市教育委員会) 加田 隆志 (鹿島市教育委員会) 田中 稿二(大和町教育委員会) 八尋 実(神埼町教育委員会) 緒方裕次郎(神埼町教育委員会) 堤 安信(千代田町教育委員会) 久保 伸洋(東脊振村教育委員会) 森田 孝一(東脊振村教育委員会) 中尾 修二(北茂安町教育委員会) 太田 睦 (中原町教育委員会) 池田 公一(三根町教育委員会) 原田 大介 (上峰町教育委員会) 古庄 秀樹 (小城町教育委員会) 藤井 浩司 (肥前町教育委員会) 明瀬 慎吾(鎮西町教育委員会) 村上 伸之 (有田町教育委員会) 野上 建紀(有田町教育委員会) 渡部 俊哉 (白石町教育委員会)

## 5. 調査協力

唐津市教育委員会
伊万里市教育委員会
川千代即教育委員会
川千代即教育委員会
中部教育委員会
中部教育委員会
中華町教育委員会
大野町教育委員会
大野町教育委員会
大野町教育委員会
大野町教育委員会

鳥栖市教育委員会 武雄市教育委員会 大和町教育委員会 東脊振村教育委員会 北茂安町教育委員会 小城町教育委員会 相知町教育委員会 白石町教育委員会

九州農政局上場農業水利事業所 九州農政局伊万里開拓建設事務所 水資源開発公団筑後川下流用水建設所

#### 佐賀県農林部

土地改良課 農地整備課

建設鉱害課

農業振興課

林務課

佐賀中部農林事務所

唐津農林事務所

鳥栖農林事務所

伊万里農林事務所

武雄農林事務所

鹿島農林事務所

各市町村土地改良担当課

各市町村土地改良区

地元各位

## III. 平成元年度文化財確認調査の内容

## ( 佐賀東部地区における調査 )

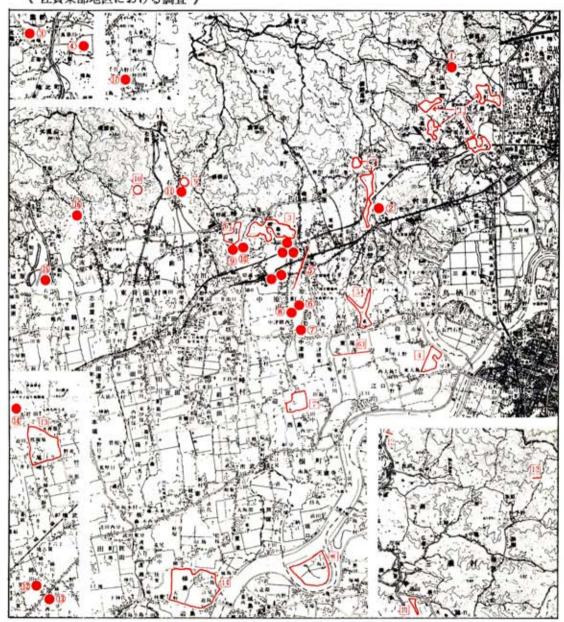


図 2 佐賀東部地区周辺地形図 (1:100,000)

1 鳥栖北部	(島栖市)	12 金山~脊振線(林道)	(三瀬村)	⑧原遺跡	(北茂安町) (上峰町)
2 鳥栖西部	(鳥栖市)	13 神 埼	(神埼町)	⑨ 八藤遺跡	The second secon
3 中原北部	(中原町)	14 千代田	(千代田町)	⑩ 船石遺跡	(上峰町)
1 北茂安東部	(北茂安町)	63 北茂安中部	(北茂安町)	① 上石動遺跡	(東脊振村)
5 北茂安中部	(北茂安町)	① 山浦新町遺跡	(鳥栖市)	② 姉川十二本松遺跡	(神埼町)
6 上峰北部	(上峰町)	② 柳の元遺跡	(鳥栖市)	① 姉川十三本松遺跡	(神埼町)
7三根東	(三根町)	③ 立花西遺跡	(基山町)	₩ 岩田遺跡群	(神埼町)
8 大善寺北部	(三根町)	④ 本竿遺跡	(基山町)	⑤ 右原祇園町遺跡	(神埼町)
9 東 脊 振	(東脊振村)	⑤ 原古賀遺跡群	(中原町)	⑩ 船塚遺跡	(神埼町)
10 山 田	(東脊振村)	⑥ 宝満谷遺跡	(北茂安町)	⑪ 貴別当神社遺跡	(千代田町)
11 裏 田	(三瀬村)	⑦ 三浦遺跡	(北茂安町)		

(1) 鳥栖市(鳥栖北部地区(山浦地区 図3~4、原古賀地区 図5、養父地区 図6)、鳥 栖西部地区(立石木の元地区、立石吉原地区 図7、立石惣楽地区 図8))

鳥栖北部地区に関しては山浦地区、原古賀地区、養父地区の3地域が対象となった。

山浦地区(鳥栖市山浦町字本村:確認調査対象面積0.8ha)は石谷山(標高754.4m)南東麓の原古智上溜池・下溜池の周辺部(標高50~70m)であり、現況は水田である。

当該地区は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、北側の山麓には古墳時代後期の群集墳である山浦西北方古墳群、古野古墳群が立地しており、更に南東方向1㎞の山浦団地周辺には、佐賀県住宅供給公社の住宅建設に関連して調査された山浦古墳群が所在している(木下之治他1973 『鳥栖市山浦古墳群』 佐賀県文化財調査報告書第21集 佐賀県教育委員会)。

当該地区全域を対象に87箇所の試掘溝を設定して確認調査を実施した結果、15箇所で土壌、 溝跡、小穴等を確認したほか、2箇所で集石遺構を確認した。また遺物については30箇所より 縄文時代の押型文土器片、須恵器片、中世の陶磁器片、土鍋片等の遺物を確認した。

なお新発見の遺跡については"本村遺跡"、"西田遺跡"、"四の坪遺跡"として周知化を図った。

文化財の取り扱いに関し個別協議を行った結果、工法上の変更が困難な4,900m²については発 掘調査を実施することとなった。

原古賀地区(原古賀町字原古賀:確認調査対象面積9.9ha)は朝日山(標高132.9m)の北東 部に広がる台地上の、IR九州長崎本線の両側に広がる水田地帯(標高15~17m)である。

当該地区の西側部分は、古墳時代から中世にかけての複合遺跡である原古賀遺跡の分布範囲 内であり、麓遺跡(弥生時代の集落跡)、外精遺跡(中世〜近世の集落跡)が隣接している。

確認調査は58箇所の試掘溝を設定して行った。その結果6箇所の試掘溝で土壌、柱穴、小穴 を確認したほか、22箇所で弥生土器片、土師器片、青磁片、擂鉢片、瓦質湯釜片等を検出した。 このことから当該地区には、弥生時代から近世に至る複合遺跡が存在するものと思われる。

個別協議の結果、工法の変更等による保護措置が困難な水路部分500miについて、本調査を実施することとなった。

養父地区 (養父町字古蓮輪、宮前:確認調査対象面積12.7ha) は安良川によって形成された 氾濫源 (標高30~35m) の、長崎自動車道と県道・佐賀~川久保~鳥栖線、及び県道・久留米 ~基山~筑紫野線に囲まれた一帯である。

当該地区は縄文時代から中世にかけての複合遺跡として、また「養父郡」の推定地として著名な養父遺跡の分布範囲内にあり、牛原前田遺跡、牛原原田遺跡、養父岸田遺跡、下岸田遺跡等の縄文時代から中世にかけての複合遺跡や、後期の円墳である塩塚古墳、横穴式石室を持つ百度塚古墳が隣接しており、鳥栖市内において最も遺跡の集中度の高い地域となっている。

対象地区に56箇所の試掘溝を設定した結果、27箇所で土壙、溝跡、柱穴、小穴を確認し、12



図 3 鳥栖市:鳥栖北部地区(山浦地区)試掘溝設定図(1)

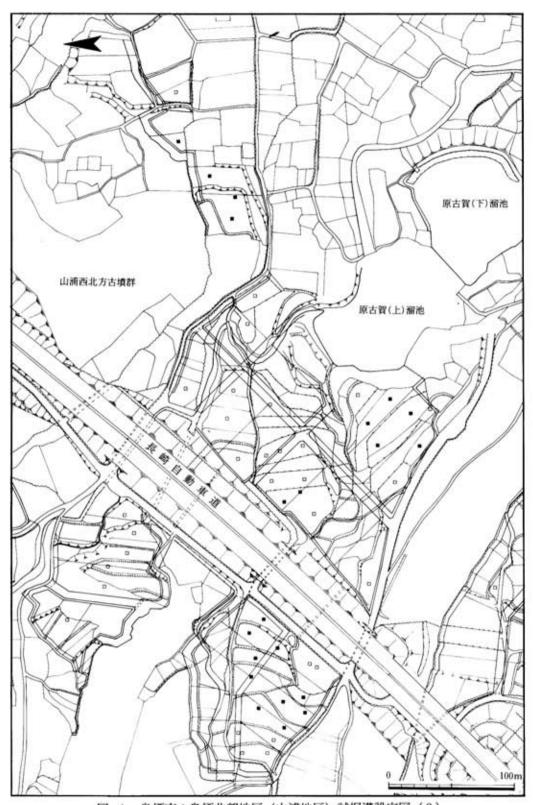


図 4 鳥栖市:鳥栖北部地区 (山浦地区) 試掘溝設定図 (2)

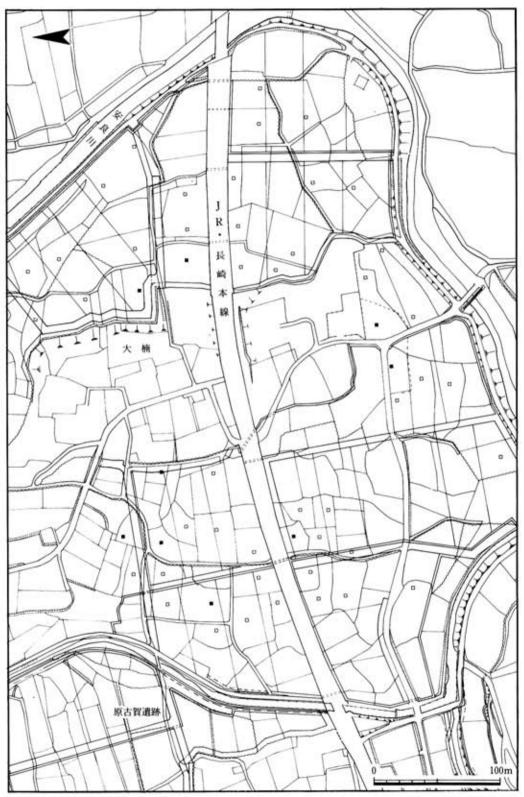


図 5 鳥栖市:鳥栖北部地区(原古賀地区)試掘溝設定図

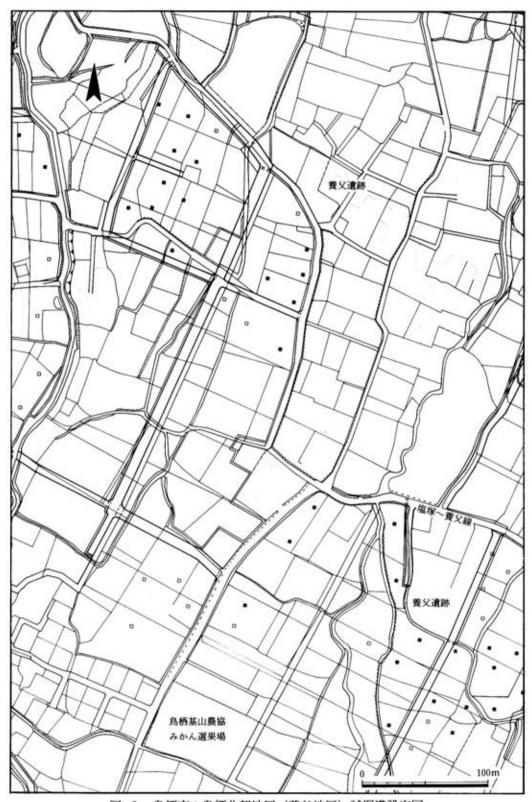


図 6 鳥栖市:鳥栖北部地区 (養父地区) 試掘溝設定図

箇所から縄文時代晩期の土器片、及び土師器小片を検出した。このことから当該地区には縄文 時代、及び奈良時代から平安時代にかけての集落跡が存在すると思われる。

協議の結果、保存措置の困難な地区が、水路掘削予定部分を除いても14,000㎡に達するため、 個別協議を重ね、最終的に2,640㎡の本調査を行うことで合意に至った。

鳥栖西部地区では立石木の元地区、立石吉原地区、及び立石惣楽地区が対象となった。

立石木の元地区(立石町字木の元:確認調査対象面積4.0ha)は鳥栖市西部の独立丘陵である 所熊山(標高113m)の北斜面下の狭隘な扇状地(標高20~30m)に位置する。

当該地区は周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれない(周知外)が、南側に隣接する所熊山の 全域が村田古墳群の分布範囲内であり、更にJR九州長崎本線を挟んで北側には薄尾遺跡(縄文 時代の遺物散布地、古墳時代の墳墓群)が立地している。

19箇所の試掘溝を設定して確認調査を行ったが、遺構については確認できず、遺物について も時期不明の土器細片を数点検出したのみである。

立石吉原地区(立石町字吉原:確認調査対象面積2.9ha)は石谷山(標高754m)の南斜面が 平地へと移行する一帯の、長崎自動車道と県道・佐賀〜川久保〜鳥栖線とに囲まれた扇状地(標 高約60~67m)で、東側には沼川が隣接している。

当該地区は古墳時代の遺物散布地である山田遺跡の分布範囲内で、周辺には立石開拓古墳群、 鳥巣遺跡(弥生~古墳時代の遺物散布地、中世の城館跡)等が隣接している。

25箇所の試掘溝を設定した内、5箇所で住居跡、溝跡、柱穴等を確認し、7箇所より土師器の小皿片、須恵器片、白磁片等を検出した。このことから調査地区内には古墳時代、及び奈良時代から平安時代にかけての集落跡が存在すると思われる。

協議の結果、確認された遺跡の広がりの内、5.100㎡について調査を行うこととなった。

立石惣楽地区(立石町字惣楽:確認調査対象面積5.2ha)は石谷山(標高754m)南東麓の、 国営宝満導水路に沿ってJR九州長崎本線の南北に広がる狭隘な扇状地(標高47~50m)である。 当該地区は周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれないが、西側に隣接する笛吹山丘陵上には笛吹 山遺跡(縄文時代の遺物散布地、奈良~平安時代の墳墓群で、蔵骨器を検出)、笛吹山古墳群が 立地しており、東側には野副遺跡(縄文~弥生時代の遺物散布地)が隣接している。

試掘溝を28箇所設定した結果、12箇所で住居跡、土壙、柱穴、小穴等を確認し、8箇所から 土師器小片等を検出した。これにより当該地区には奈良時代から平安時代にかけての集落跡が 存在すると思われる。

当該地区は平成3年度に工事実施予定であるが、保存工法に関する協議が別途必要である。

#### (2) 中原町(中原北部地区 図9~10)

中原町市街地の南西部に接する中原北部地区(三養基郡中原町大字原古賀字二本桜、三本桜、

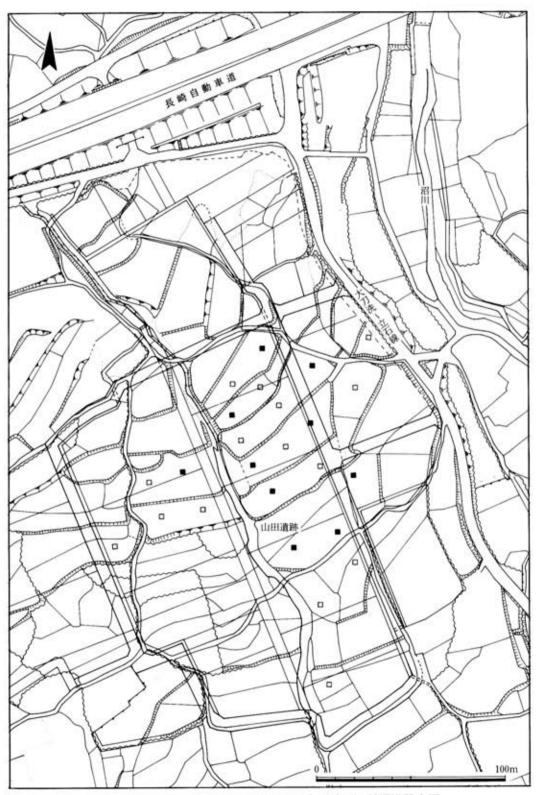


図 7 鳥栖市:鳥栖西部地区(立石吉原地区)試掘溝設定図



図 8 鳥栖市:鳥栖西部地区(立石惣楽地区)試掘溝設定図

六本谷:確認調査対象面積30.2ha) は上峰町境と県道・佐賀〜川久保〜鳥栖線、及びJR九州長 崎本線に囲まれた水田地帯(標高31〜45m)である。

当該地区は弥生時代から中世におよぶ複合遺跡として著名な原古賀遺跡群の分布範囲内で、 上地八本谷遺跡 (弥生時代の集落跡)、高柳三本桜遺跡 (縄文~弥生時代の遺物散布地)、拾徳 遺跡 (縄文~中世の集落跡)、上地西方丘陵遺跡 (弥生時代の墳墓群) 等が所在する。

210箇所の試掘溝を設定した結果、30箇所で溝跡、土壙、小穴等を確認した。また土師器片、 須恵器片、青磁碗の小片等を検出した。

遺跡の分布は東地区15,000㎡、西地区26,000㎡の合計41,000㎡と広範囲に及ぶため、個別協議を重ねた結果、調査面積を4.500㎡まで絞り込むことが可能となった。

#### (3) 北茂安町(北茂安東部工区、北茂安中部工区)

北茂安東部工区(三養基郡北茂安町大字白壁字一本杉、新土井内一の角:確認調査対象面積 18.0ha)は、筑後川の氾濫によってその北西側の嘉村、東大島両集落の周囲に形成された低平 な水田地帯(標高4~5m)である。

当該地区内においては従来遺跡の存在は知られていないが、東側には千栗土居が延びており、 隣接の嘉村、東大島両集落には中世の集落跡である嘉村遺跡、東大島遺跡が立地している。 水路掘削予定地を中心に28箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

北茂安中部工区(大字東尾字三倉塚、大藪、久保田:確認調査対象面積21.2ha) は蛇行しながら筑後川に注ぎ込む寒水川、及び道瀬川により形成された狭隘な平野(標高5~14m)で、 北茂安中学校から県道・小城〜北茂安線に至るまでの、水田として利用されている地域である。

当該地区は金の原遺跡(縄文時代の遺物散布地、及び弥生時代の集落跡)の分布範囲内で、 周辺にも大熊遺跡、伽藍塚遺跡、大塚遺跡等の、縄文時代から古墳時代にかけての集落跡、墳 墓群、遺物散布地が隣接しており、北茂安町内において最も遺跡密度の高い地域となっている。

水路掘削予定地を中心に225箇所の試掘溝を設定したが、寒水川をはじめとする中小河川の氾濫に起因すると思われる砂層の堆積が顕著で、遺構・遺物とも検出できなかった。

## (4) 上峰町 (上峰北部地区 図11)

上峰北部地区における確認調査は、その基盤整備事業予定区域が広範なため、便宜上A地区 からF地区までの6地区に分けて行った。なお調査対象面積は合計30.0haである。

A地区(三養基郡上峰町大字堤字一本谷)は、青柳丘陵から南に向かって延びる小丘陵の先端 部(標高27~30m)で、現況は水田である。

この地区は周知外であるが、北西方向約200mの屋形原集落の周辺には、宅地造成に関連して 調査が実施され、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡、墳墓群が集中的に検出された屋

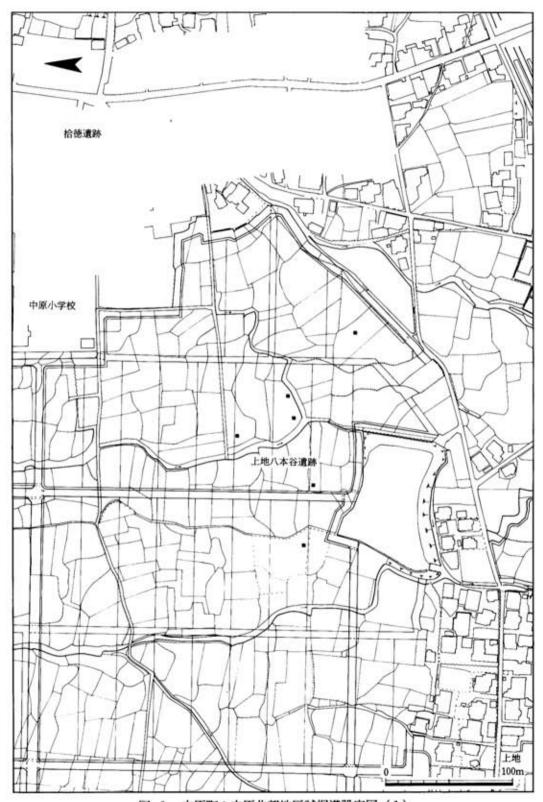


図 9 中原町:中原北部地区試掘溝設定図(1)

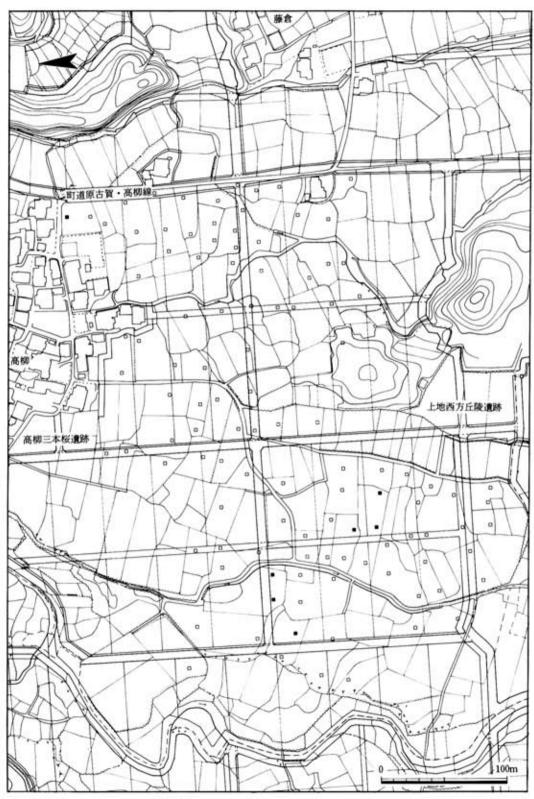


図 10 中原町:中原北部地区試掘溝設定図 (2)

形原遺跡(杠一義 1979 『屋形原遺跡』 上峰村文化財調査報告書第2集 上峰村教育委員会)が隣接し、西側の二塚山丘陵上にも二塚山遺跡(七田忠昭他 1979 『二塚山遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会)をはじめ堤遺跡、松葉遺跡(『二塚山遺跡』所収)等の弥生時代から古墳時代にかけての集落跡、墳墓群が密集している。

5箇所の試掘溝を設定した結果、2箇所で住居跡、柱穴を確認し、2箇所から土師器片、須 恵器片等を検出した。このことから古墳時代より平安時代に至るまでの集落跡の存在が窺える。 また青柳古墳群の縁辺部にあたることから、ここが古墳群の造営にかかわった人々の生活の場 となっていた可能性もある。

B地区(大字堤字五本谷、迎原)は切通川とその支流、及び大谷川によって開析された谷平野(標高20~27m)であり、県道・三瀬~中原停車場線の東側から県営水路・中原西部線に至るまでの、堤集落の北側に広がる水田地帯である。

当該地区の南端部は奈良時代の土塁である堤土塁(杠一義他 1978 『堤土塁跡』 上峰村 教育委員会)の分布範囲内であり、八藤遺跡(弥生~奈良・平安時代の集落跡、縄文時代の遺 物散布地)、五本谷遺跡(弥生時代の墳墓群:『二塚山遺跡』所収)等が隣接している。

34箇所の試掘溝を設定したが、遺構は確認できなかった。また遺物についても3箇所から流れ込みと見られる土師器小片、中世陶器片、近世陶磁器片を検出したに止まった。この地区は 堤土塁の背面にあたるため、関連施設の確認に期待が集まったが、検出には至らなかった。

C地区(大字堤字一本柳、六本谷)は鎮西山南麓から県道・佐賀〜川久保〜鳥栖線の南側へ 舌状に延びる青柳丘陵上の先端部(標高23〜31m)に位置し、現況は水田である。

当該地区は青柳古墳群の分布範囲内であり、狭隘な谷を挟んだ東側の丘陵上には、新立古墳 群が立地している。

18箇所の試掘溝を設定して確認調査を実施した結果、8箇所から住居跡、土壙、溝跡、柱穴等を確認し、2箇所で土師器片、須恵器片、瓦質土器片、近世陶磁器片等を検出した。この地区は谷部を挟んで堤土塁と対峙した位置関係にあるため、当初から堤土塁関連の遺構の存在が想定されたが、今回の確認調査によって時期的に合致する奈良時代の集落跡が検出されたため、相互の関連が今後の検討課題として提起された。

D地区(大字堤字谷渡、五本谷)は鎮西山南麓の、下の新立溜池周辺より南方向に延びる水田部分(標高25~35m)にあたり、中央部を南北に県営水路・中原西部線が横断している。

当該地区の北端部は新立古墳群、南端部は堤土塁の分布範囲に含まれており、周辺にも谷渡 古墳群、青柳古墳群等が集中している。

当該地区は大正年間に耕地整理が行われているが、確認調査の結果、3箇所の試掘溝で住居 跡、土壙、柱穴を確認し、2箇所から弥生土器小片、土師器片等を検出した。これより切り土 を免れた部分については、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡が遺存すると考えられる。

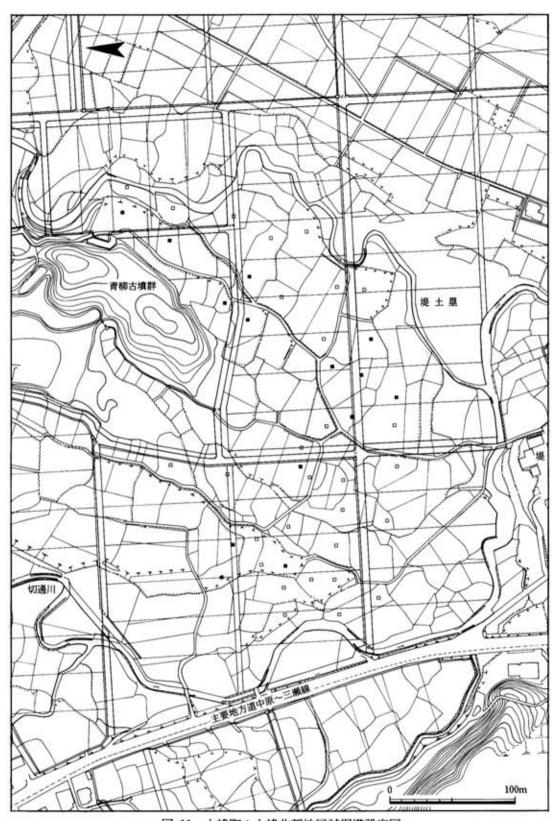


図 11 上峰町:上峰北部地区試掘溝設定図

E地区 (大字堤字舟石外) は D地区の東側隣接地で、中原町との町境に位置する八藤丘陵上 (標高20~30m) であり、舟石集落の北側に隣接する水田地帯である。

当該地区は周知外であるが、堤土塁、八藤遺跡(縄文時代の遺物散布地、及び古墳~平安時 代の集落跡)、船石遺跡(縄文時代の遺物散布地、弥生~古墳時代の集落跡、墳墓群:七田忠昭 1983 『船石遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会)等が隣接している。

試掘溝設定による確認調査の結果、遺構・遺物とも検出できなかった。当該地区一帯は切通 川の支流である大谷川の氾濫原であり、遺構の残存する可能性は低いと考えられる。

F地区(大字堤字五本谷)は堤集落の北東部に隣接する独立丘陵(標高27m)である。

この地区は調査前より堤土塁との関連が指摘されていたが、7箇所の試掘溝の内、2箇所で 70mの土塁版築層を確認し、その版築内から土師器小片、須恵器小片等を検出した。また他の 3箇所からも土壙等の存在を確認した。

A~F地区全域に総数136箇所の試掘溝を設定して、合計40,000㎡にも及ぶ遺跡の広がりを確認したが、個別協議を経て最終的に22,000㎡が本調査の対象となった。また堤土塁、及びその関連施設の遺存が推定されるF地区(7,000㎡)に関しては、基盤整備事業地区から除外し、公有化を図ることで史跡公園化等保存整備への道が開かれた。

## (5) 三根町(三根東地区、大善寺北部地区 図12)

三根東地区(三養基郡三根町大字西島字田中:確認調査対象面積20.5ha) は切通川と寒水川に挟まれた一帯で、両河川、及び筑後川の沖積作用による低平な地域(標高4~5 m)である。調査予定地区は周知外であるが、南側に近接して田中遺跡(弥生時代の集落跡)が立地しており、南西方向1.5kmには本分貝塚(弥生時代中期の貝塚:藤口健二他 1981 『本分貝塚』 佐賀県立博物館調査研究書第7集 佐賀県立博物館)や本分遺跡(田平徳栄 1987 『本分遺跡』 三根町文化財調査報告書第4集 三根町教育委員会)が立地している。

水路掘削予定地を対象に19箇所の試掘溝を設定したが、遺構については確認できなかった。 また遺物に関しても流れ込みに起因すると思われる土師器小片を検出したに止まった。

大善寺北部地区(大字天建寺字宮村、市場外:確認調査対象面積51.0ha)は明治20年から昭和32年までの断続的な工事による天建寺捷水路の完成により、筑後川左岸に残された旧流路(安武川)によって区画されている低平な水田地帯(土居外;標高3~4m)である。

当該地区は従来遺跡の存在がほとんど知られていないが、筑後川を挟んで西側には南島遺跡 (弥生時代の集落跡)、天建寺土井内遺跡(天本洋一 1985 『天建寺土井内遺跡』 三根町文 化財調査報告書第2集 三根町教育委員会)等が点在している。また筑後川西岸には千栗土居 (寛永年間に成富兵庫茂安が北茂安町の千栗神社下から三根町大字坂口に至る12kmの河岸に、 水害防止のために築いた堤防)が残存している。

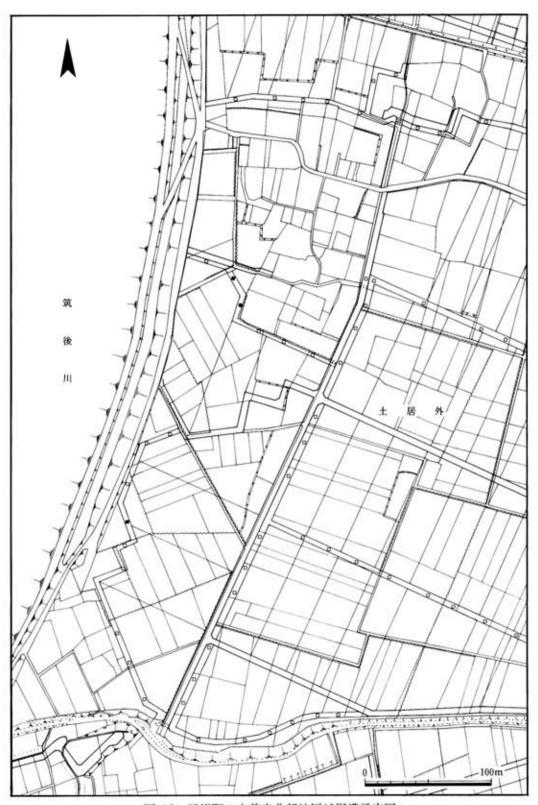


図 12 三根町:大善寺北部地区試掘溝設定図

水路掘削部分を中心に94箇所の試掘溝を設定した結果、4箇所で土壙、柱穴を確認し、同時 に土師器(糸切底)小片、竜泉窯系青磁碗片、白磁片等を検出した。これにより筑後川西岸の 天建寺周辺に分布する中世の集落と同時期に、当地でも集落が存在したと思われる。

個別協議の結果、遺跡が存在する1,100mについて調査を実施することに決定したが、基盤整 備事業自体が平成3年度以降に先送りとなったため、調査もこれに追随することになった。

(6) 東脊振村 (東脊振工区 (第10換地工区)、山田地区 (砂防ダム建設、及び護岸工事))

東脊振工区に関しては第10換地工区が対象となった。第10換地工区(神埼郡東脊振村大字石動字一本松:確認調査対象面積1.5ha)は田手川東岸に形成された河岸段丘上(標高48~53m)に位置しており、現況は水田である。

当該地区は縄文時代から中世に至る複合遺跡である上石動遺跡の分布範囲内であり、更に石動古墳群の分布範囲とも重複している。また周辺には石動二本松遺跡(弥生~古墳時代の集落跡)、石動二本松古墳群、山田谷古墳群などが隣接している。

12箇所の試掘溝を設定した結果、9箇所から土壙、溝跡、柱穴等、及び須恵器片、土師器片、 陶磁器片等を検出した。このことから対象地区全域に古墳時代の集落跡・墳墓群、及び中世の 集落跡が存在すると考えられ、特に中世の遺構については、これより北方の山麓に所在する霊 仙寺跡(田平徳栄 1980 『霊仙寺跡』 東脊振村文化財調査報告書第4集 東脊振教育委員 会)との関連も想定される。

山田地区(大字石動字一本松:確認調査対象面積0.03ha)は権現山から南南東に派生した丘 陵部に対する石光川の開削作用により形成された狭隘な谷底平野(標高108m)である。

当該地区は石動西一本杉古墳群の分布範囲内であり、周辺にも妙見社古墳群、及び竜拝古墳 群が近接している。石光川の上流域には狭隘な谷筋であるにもかかわらず、川沿いの段丘上や 緩斜面部分には、横穴式石室を主体部とする小円墳が多数集中している。

現地踏査により古墳の石室の一部、あるいは残存部分と考えられる大石の存在が地区内で確認されたことから、古墳の存在確認を主目的とした調査を実施した。

2 箇所の試掘溝を設定した結果、地表面に露出している大石については作為的な設置・組み 合わせ等は認められなかった。また表土、及び堆積層から土師器小片、須恵器小片等が少量出 土したが、これらはいずれも流れ込みによる 2 次堆積土層中の遺物と判断される。

(7) 三瀬村(裏田地区、広域基幹林道・金山~脊振線(長畑地区、井手野地区 図13~14)) 裏田地区(神埼郡三瀬村大字藤原字裏田:確認調査対象面積4.0ha)は北山ダムに流れ込む嘉 瀬川の支流である高瀬川によって開析された谷底平野(標高387~392m)である。

当該地区は周知外であるが、北東側には唐川遺跡(縄文時代の遺物散布地)、西側には笹ノ

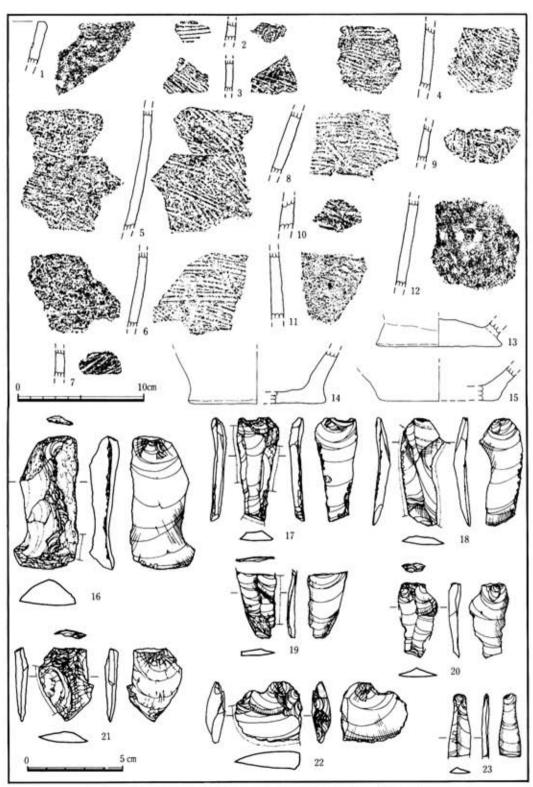


図 13 三瀬村: 井手野地区(井手野遺跡) 出土遺物実測図

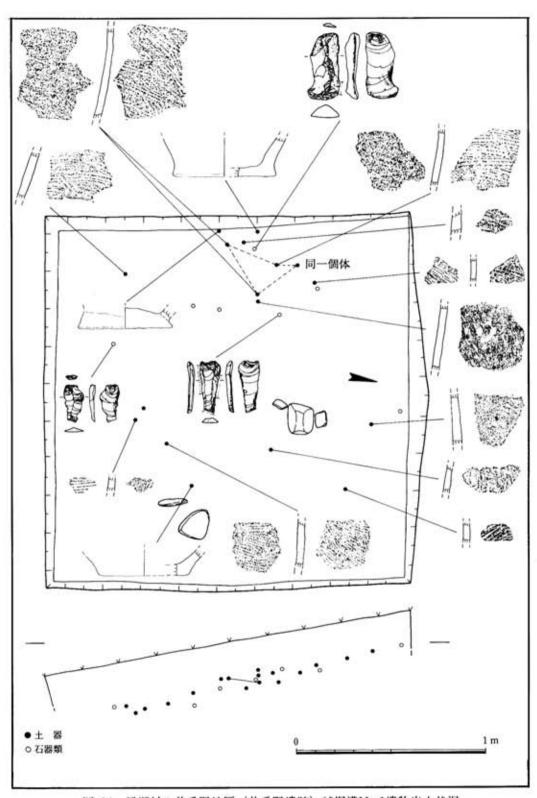


図 14 三瀬村:井手野地区(井手野遺跡)試掘溝No.1遺物出土状況

瀬遺跡(中世の館跡)がそれぞれ隣接している。

削平予定部分を対象に試掘溝を19箇所設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

広域基幹林道・金山~脊振線については長畑地区、及び井手野地区が対象となった。長畑地区 (大字三瀬字長畑:確認調査対象面積:0.1ha) は国道263号線からの西側起点部分であり、三瀬峠に近い初瀬川によって開析された谷に面した緩傾斜地(標高420m)である。

当該地区は旧石器、及び縄文時代の遺物散布地である長畑遺跡の分布範囲に含まれ、周辺に は宿北方遺跡(縄文時代の遺物散布地)、三瀬城跡(中世の城館跡)等が立地する。

試掘溝を3箇所設定して確認調査を実施したが、遺構は確認できなかった。また遺物についても、1箇所から黒曜石製の砕片を1点検出したに止まった。

井手野地区(大字藤原字井手野:調査対象面積0.2ha)は長畑地区から東南東方向3.5kmに位置し、脊振山系の金山(標高967m)から南に延びる尾根部分を、嘉瀬川の支流である裏平川が開析することによって形成された、狭隘な谷部の西側緩傾斜面上(標高600m)であり、現況は桧・杉の植林地、及び雑木林となっている。

当該地区は周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれないが、周辺には吉野山遺跡(縄文~弥生時 代の遺物散布地)、栗園遺跡(縄文~古墳時代の遺物散布地)等が点在している。

掘削予定地を中心に3箇所の試掘溝を設定した結果、1箇所から花崗岩の礫数点を検出し、 2箇所より安山岩製剝片、加工痕を持つ黒曜石製の縦長剝片、砕片、及び縄文時代後期の土器 片等を検出したことから、遺跡の分布する範囲について"井手野遺跡"の名称で周知化した。

文化財の存在する500mの取り扱いについて協議を行った結果、計画路線の変更で決した。なお変更後の地区についても4箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

## (8) 神埼町(神埼工区(祇園原工区 図15、姉川工区))

神埼工区に関しては祇園原工区、及び姉川工区が対象となった。祇園原工区(神埼郡神埼町 大字尾崎字唐香原外:確認調査対象面積83.0ha)は神埼町北西部の早稲隈山(標高174m)、及 び日の隈山(標高148m)南麓に広がる沖積平野の北端部(標高13~20m)である。

総面積83.0haにも及ぶ確認調査対象地区には野畠遺跡、森ノ木遺跡、塚原遺跡、小林遺跡、 祇園原遺跡、轡田遺跡等の弥生時代から古墳時代を中心とする複合遺跡が立地しており、神埼 町内でも最も遺跡密度の高い地域となっている。

当該地区全域を対象に786箇所の試掘溝を設定した結果、195箇所で住居跡、土壙、溝跡、柱 穴、道路面等の遺存を確認し、57箇所から埴輪片、須恵器片、土師器片、瓦質土器片、瓦片、 捏ね鉢等古墳時代から近世にかけての遺物を検出した。このことから計画地区のほぼ全面に古 墳時代から近世に及ぶ複合遺跡が存在すると思われる。また奈良時代に機能したと考えられる 古代官道の確認を目的とした試掘溝では、道路面(路面)とその周囲に分布する同時代の遺構



図 15 神埼町:神埼工区(祇園原工区)試掘溝設定図

を随所で検出しており、平成2年度より県教育委員会が主体となって実施する古代官道の調査 事業に関して方向性を与える重要な資料ともなった。

確認調査により、遺跡の分布が合計300,935mにも及ぶことが判明したため、個別協議を重ねた結果、平成2年度に7,200m、3年度に18,000mの本調査を実施することになった。また官道推定地については計画地区からの除外、及び保存整備活用計画の策定に関して協議中である。

姉川地区 (大字姉川字二本松、三本松、五本松、六本松:確認調査対象面積30.0ha)は神埼市 街の南西部に展開する低平な沖積平野 (標高3.5~4 m) で、東側には中地江川が隣接する。

当該地区は周知外であるが、東方向1kmには中世の集落跡である下六丁遺跡が、そして南東 方向1kmには中世の城館跡として著名な姉川城跡がそれぞれ立地している。

105箇所の試掘溝を設定して確認調査を実施したが 遺構・遺物とも検出できなかった。

## (9) 千代田町 (千代田工区 (柳島地区 図16、上西地区))

千代田工区に関しては柳島地区、及び上西地区が対象となった。柳島地区(神埼郡千代田町 大字柳島字九本柳外:確認調査対象面積90.0ha)は隣接する筑後川と、その支流である田手川 の沖積作用によって形成された低湿地(標高3m)である。

当該地区は周知外であるが、北西側には柳島遺跡(中世の集落跡)が隣接しており、更に西 方向2kmの古城集落には崎村遺跡(中世の城館跡)が立地している。

193箇所の試掘溝を設定して確認調査を実施したところ、2 箇所から遺構と思われる落ち込み を確認した。また遺物については 3 箇所で土師器細片を検出した。

当該地区は筑後川を本流とした水系の氾濫によって形成されており、現在でもその証拠を地 区内に残る旧河川の流路の推移の中に見い出せる。またこの地区内においては遺跡を確認する ことはできなかったが、柳島集落の南側には中世の集落跡が存在する可能性がある。

上西地区(大字下西字二本松外:確認調査面積28.0ha)は千代田町最西部の、佐賀市との市町境に位置し、大詫間幹線水路、諸富幹線水路、及び国道264号線によって囲まれた低平な一帯(標高3.2m)であり、現況は水田地帯となっている。

当該地区は弥生時代の集落跡である貴別当神社遺跡の分布範囲内であり、北西方向200mの佐 賀市兵庫町千住には千住遺跡(弥生時代、及び中世の集落跡)が立地している。

水路予定部分を中心に100箇所の試掘溝を設定した結果、4箇所で土壙、溝跡、柱穴等を確認 し、10箇所から弥生時代中期の土器片(壺、甕、高杯等)、中近世の陶磁器片を検出した。

文化財の取り扱いに関して協議を重ねた結果、工法上の保存措置が困難な450m\*について調査を行うことになった。

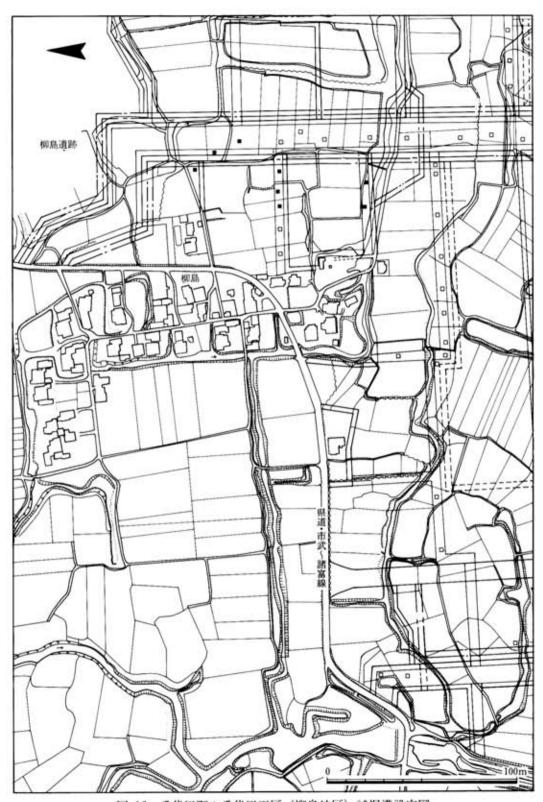


図 16 千代田町:千代田工区(柳島地区)試掘溝設定図

# 《 佐賀西部地区における調査 》

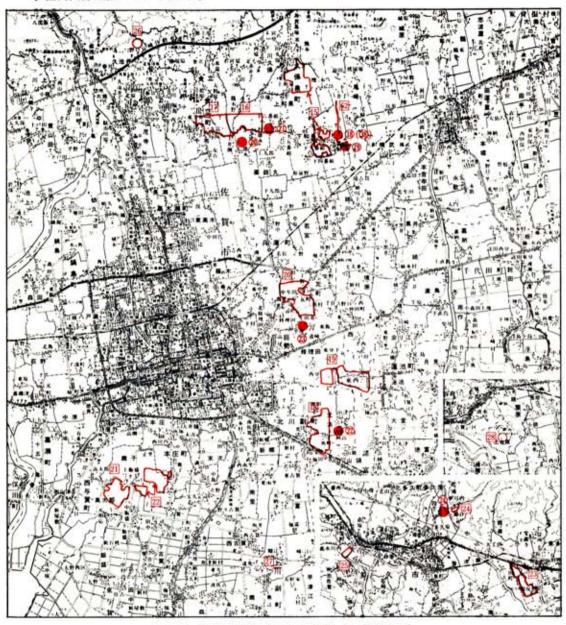


図 17 佐賀西部地区周辺地形図 (1:100,000)

15 久保泉東部 17 久保泉南部 19 丘東南部 19 丘東南第 20 兵城市 19 19 城市 19 19 城市 19 19 城市 19 19 城市	(佐賀市) (佐賀賀市) (佐賀賀市) (佐賀賀市) (佐賀賀市) (佐賀田市)	23 <b>多</b> 久東部 24 四高木川内 25 高久川平 26 八川平 27 川平 28 三 28 三 28 条 29 条 20 条 20 条 21 条 22 条 23 条 24 条 26 条 27 条 28 条 29 条 20 条 20 条 20 条 20 条 20 条 20 条 20 条 20	(多久市) (多久市) (多久市) (大和副町) (川湖町) (小坂町市)	(佐賀市) (大丹遺跡 (多人市)	
22 城西第二	(佐賀市)	EI AWAKID	CELECTO	∞ 本村遺跡 (⑱と同一)	

(10) 佐賀市(久保泉東部地区(第二換地工区 図18、第三換地工区 図19·20)、久保泉西部地区(泉工区) 図21、金立南部地区 図22、北川副地区 図23、巨勢地区、兵庫南部地区図24、城西第一地区、城西第二地区)

久保泉東部地区に関しては第二換地工区、及び第三換地工区が対象地区となった。第二換地 工区・第三換地工区(佐賀市久保泉町大字川久保字東原口、東高田、原ノ町外:確認調査対象 面積42.2ha)は帯隈山(標高174m)南麓から広がる沖積平野(標高14~20m)で、東西両側を 低位丘陵により囲まれているため、中央部が凹状の谷状地形となっている。現況は県道・佐賀 ~川久保~鳥栖線の南側、県道・脊振~佐賀線の東側に隣接する水田や畑地(高畑)である。

当該地区はその西部が原ノ町遺跡、北東部が東高田遺跡、南東部は櫟木遺跡といった弥生時 代から中世に至る複合遺跡の分布範囲に含まれており、櫟木遺跡の東側では開墾時に銅矛鋳型 が出土している。また古代官道の推定ルートが当該地区を南北に二分する形で通過している。 また周辺にも泉遺跡、上和泉遺跡、屋形遺跡等の弥生時代から中世に至る複合遺跡が集中して いる(福田義彦 1986 『泉遺跡』 佐賀市文化財調査報告書第16集 佐賀市教育委員会)。

試掘溝を104箇所設定した結果、29箇所で住居跡、土壙、溝跡等を確認し、遺物についても弥生土器片、須恵器片、土師器片、瓦質土器片等を検出した。また古代官道の推定ルート上に設定した試掘溝からは、道路の踏面等、官道の存在を直接的に裏付ける資料は得られなかったが、奈良時代の遺物が出土しており、官道に関連する施設跡の存在が想定される。

総面積89,029㎡にも及ぶ遺跡の取り扱いについて協議を重ねた結果、盛土による保存が困難 な11,323㎡について本調査を実施することとなった。

久保泉西部地区については泉工区が対象となった。泉工区 (久保泉町大字上和泉字村徳永: 確認調査対象面積20.0ha) は鈴熊山 (標高139.5m) の南麓裾部に巨勢川の沖積作用により形成 された微高地 (標高7~10m) である。

当該地区はその北西部が篠木野遺跡、東部が村徳永遺跡という弥生時代から中世にかけての 複合遺跡の分布範囲に含まれる。また周辺にも上九郎遺跡、徳永遺跡、東千布遺跡等の弥生時 代から中世に至る複合遺跡が多く立地しており、北東部近接地域でも久保泉工業団地造成に係 る確認調査(福田義彦 1986 『久保泉工業団地内遺跡』―仮称・久保泉工業団地造成計画に 伴う埋蔵文化財確認調査報告書― 佐賀市教育委員会)により遺跡の分布が確認されている。

掘削予定部分を中心に84箇所の試掘溝を設定した結果、11箇所で住居跡、土壤、溝跡等を確認し、弥生土器片、土師器片を検出した。特に弥生時代の遺物は徹高地上の3箇所に集中しており、久保泉工業団地造成事業に係る調査によって確認された遺跡との関連性も窺える。

確認調査によって判明した遺跡の広がりは31,437mにも及び、調整を重ねた結果、水路建設による掘削部分、及び盛土保存が困難な4,966mについて本調査を実施することとなった。

金立南部地区(金立町大字千布字久富:確認調査対象面積10,0ha)は巨勢川を挟んで久保泉

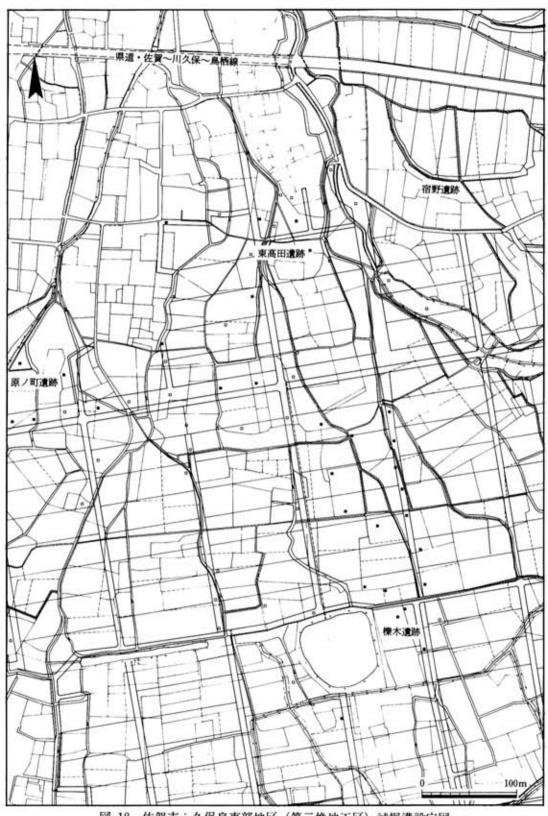


図 18 佐賀市: 久保泉東部地区 (第二換地工区) 試掘溝設定図

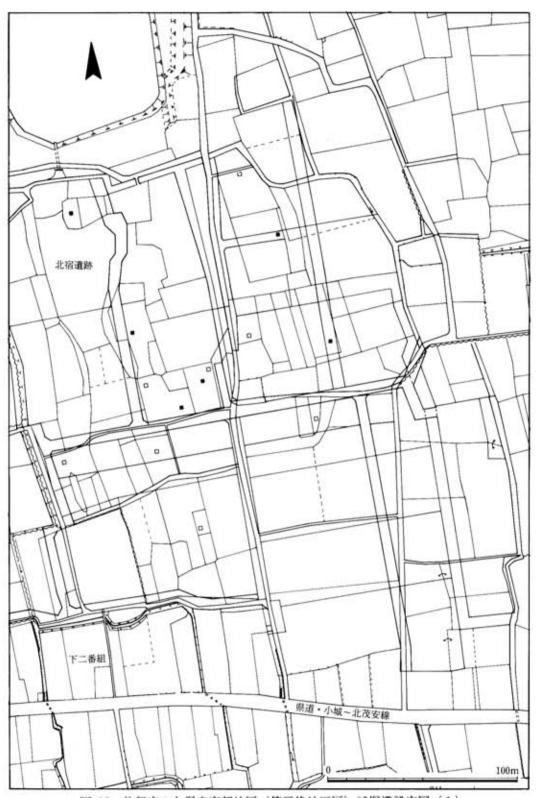


図 19 佐賀市: 久保泉東部地区 (第三換地工区) 試掘溝設定図 (1)



図 20 佐賀市: 久保泉東部地区 (第三換地工区) 試掘溝設定図 (2)

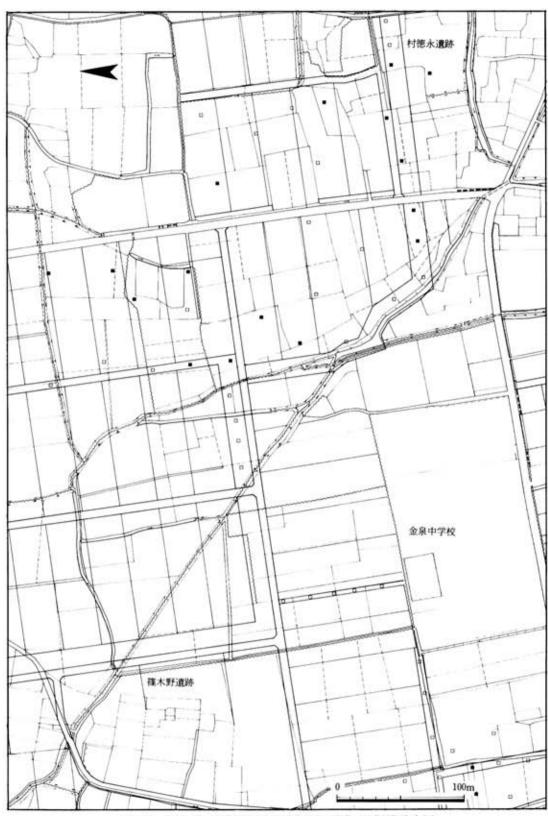


図 21 佐賀市:久保泉西部地区(泉工区)試掘溝設定図

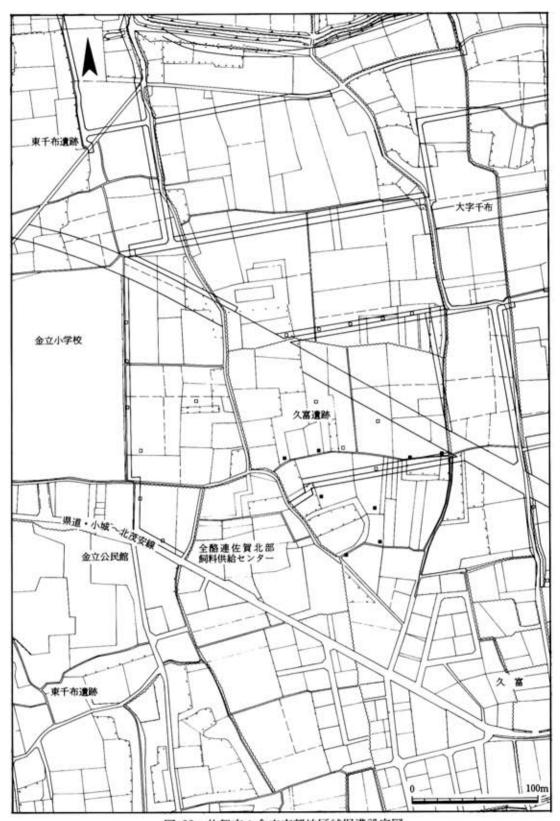


図 22 佐賀市:金立南部地区試掘溝設定図

西部地区と対峙する位置にあり、東側の巨勢川方向に傾斜する扇状地上(標高6~9 m)の久 富、東千布両集落の周辺に広がる水田、畑地(高畑)一帯である。

当該地区は西側部分のほとんどが久富遺跡(弥生~中世の集落跡)、東千布遺跡(弥生~中世の集落跡)に、また北東側部分が大野原遺跡(縄文~古墳時代の集落跡)に、そして南東の一角が千布二本黒木遺跡(弥生~中世の集落跡)にそれぞれ含まれている。なお県道・小城~北茂安線の改良工事に伴う調査によって、久富遺跡では弥生時代中期前半の竪穴住居跡、古墳時代前半の溝跡、江戸時代の掘立柱建物跡、土壙等が確認され、東千布遺跡においては弥生時代前期末から中期前半の甕棺を主体とする墳墓群、土壙、溝跡等が検出されている(福田義彦1985 『東千布遺跡』 佐賀市文化財調査報告書第15集 佐賀市教育委員会)。更に周辺にも千布二本松遺跡、友貞遺跡、巨勢川対岸には村徳永遺跡、篠木野遺跡といった弥生時代から中世に至る複合遺跡が隣接しており、佐賀市内において最も遺跡密度の高い地域となっている。

削平予定部分、及び水路掘削予定部分を対象に115箇所の試掘溝を設定した結果、8箇所で住 居跡、土壤、溝跡、小穴等を確認し、併せて土師器片、瓦質土器片、青磁片等を検出した。こ れにより当該地区には古墳時代、及び中世の集落跡が存在すると考えられるが、遺跡の分布か ら勘案すると、県道改良工事に係る調査で確認された久富遺跡に連続するものと思われる。

総面積13,750㎡にも及ぶ遺跡の取り扱いについて個別協議を行った結果、工法上の保護措置が困難な1,376㎡について本調査を実施することに決した。

北川副地区(北川副町大字光法字角町、阿高:確認調査対象面積45.3ha)は佐賀市と諸富町 の市町境に沿って南下する佐賀江川の支流に西接し、国道208号線の北側に位置する角町、阿高 両集落の周囲を取り巻く水田地帯(標高2.5~2.8m)である。

当該地区は周知外であるが、阿高遺跡(弥生~中世の集落跡)が隣接しており、増田遺跡、 村中角遺跡(諸富町)、山領村中遺跡(諸富町)等中世から近世にかけての集落跡が、周辺に点 在している。

水路掘削予定地を対象に試掘溝を75箇所設定した結果、9箇所で土壙、溝跡、小穴等を確認 し、4箇所から土師器片、瓦質土器片、青磁片を検出した。そこで遺跡を発見した地区につい て阿高遺跡の分布範囲の拡大、及び"梅屋敷遺跡"、"寺裏遺跡"の名称で周知化を行った。

遺跡の存在が確認された12,075㎡の取り扱いに関し、個別協議を重ねた結果、水路掘削予定 地にあたる5,474㎡については工法上の保護措置が困難なため、本調査を行うことになった。

巨勢地区(巨勢町大字東西字東巨勢:確認調査対象面積28.0ha)は佐賀市の最東部に位置 し、千代田町、及び諸富町に南北で接する低平な水田地帯(標高3m)で、南側には城原川の 1支流である佐賀江川が接している。

当該地区は周知外であり、周辺部においても近接地での遺跡発見の報告は提出されていない。 確認調査は40箇所の試掘溝を設定して行ったが、遺構・遺物とも検出できなかった。

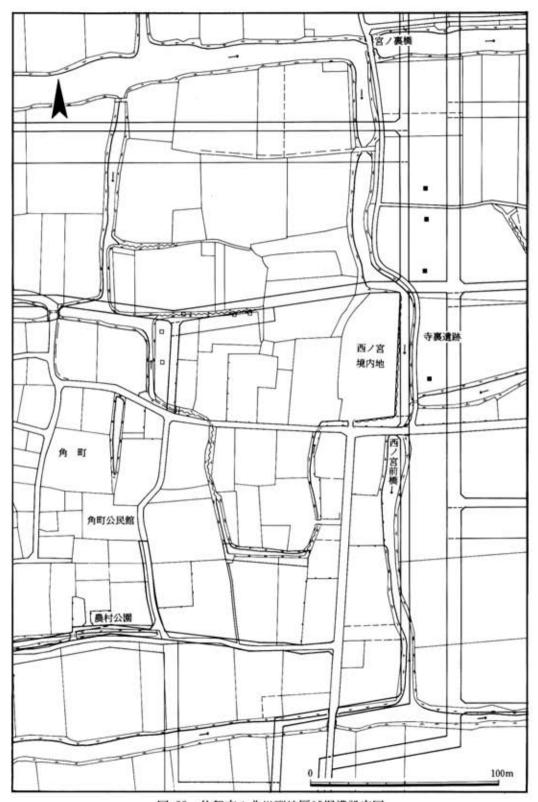


図 23 佐賀市:北川副地区試掘溝設定図

兵庫南部地区(兵庫町大字瓦町字牟田寄、中牟田:確認調査対象面積45.0ha)は千代田町と の市町境に近接する瓦町と牟田寄の両集落の間に広がる低地一帯(標高3~4 m)である。計 画予定地区内にはクリークが縦横に巡り、この地域における独特な集落の景観を見せている。

当該地区は未周知地区だが、南側には牟田寄遺跡(弥生~中世の集落跡)が隣接し、周辺の 集落部にも伝阿弥陀寺跡、伝光明寺跡、伽藍遺跡等の中世の寺院跡、集落跡が点在している。

水路掘削予定地を対象に72箇所の試掘溝を設定した結果、4箇所で土壙、小穴を確認し、併せて弥生土器片(甕、鉢、高杯等)を検出した。また遺跡の存在が認められた国営幹線排水路・ 徳永線の計画予定地を中心とした一帯については、"瓦町遺跡"として周知化を図った。

個別協議の結果、遺跡の分布する8,360mは水路掘削予定地であるため、工法上の保護措置を 採ることが困難であり、最終的にそのうちの4,640mについて本調査を行うことに決した。

城西第一地区(本庄町大字高太郎:確認調査対象面積38.0ha)は佐賀市街の南側に展開する 低地一帯(標高2m)で、県道・西与賀~本庄線の東側、及び上飯盛集落の南側から佐賀南部 広域農道に至る地域である。

当該地内では従来埋蔵文化財の存在は確認されていないが、隣接する上飯盛の集落には上飯 盛遺跡(中世の集落跡)、及び飯盛館跡(中世の城館跡)が所在している。

水路掘削予定地、特に現集落部に隣接する地点を対象に33箇所の試掘溝を設定したが、遺構 に関しては確認できず、遺物についても摩滅の著しい弥生土器片、及び近世の磁器片を数点検 出したに止まった。

城西第二地区(本庄町大字鹿ノ子:確認調査対象面積25.0ha)は城西第一地区の東側隣接地で、大井手幹線水路と県道・東与賀〜佐賀線、及び県道・相応津〜諸富線に囲まれた低平な水田地帯(標高2m)であり、周辺にはクリークが縦横に巡っている。

この地区も第一地区同様周知外であるが、北北東方向1kmの佐賀市街地周辺の集落部には末 次遺跡、灰塚遺跡、西川内遺跡等の中世の集落跡・居館跡が点在している。

水路掘削予定地区を対象に25箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

## (11) 多久市(多久東部地区(別府地区) 図25、四下地区、高木川内地区)

多久東部地区に関しては別府地区が対象となった。別府地区(多久市東多久町大字別府:調査対象面積16.5ha)は牛津川、及びその支流の今出川、西郷川、別府川が天山山系南麓を開析し、また氾濫を繰り返すことによって形成された微高地上(標高11~23m)に位置しており、国道203号線と県道・多久~長尾~牛津線に囲まれている水田地帯である。なお当該地区を起点として国営幹線水路・筑後川下流地区多久導水路の敷設が計画されている。

当該地区は周知外であるが、北東部には桜木遺跡(弥生時代の集落跡)が隣接しており、西 側に近接する今出川の自然堤防上にも昭和61年度、及び63年度の農業基盤整備事業に係る確認

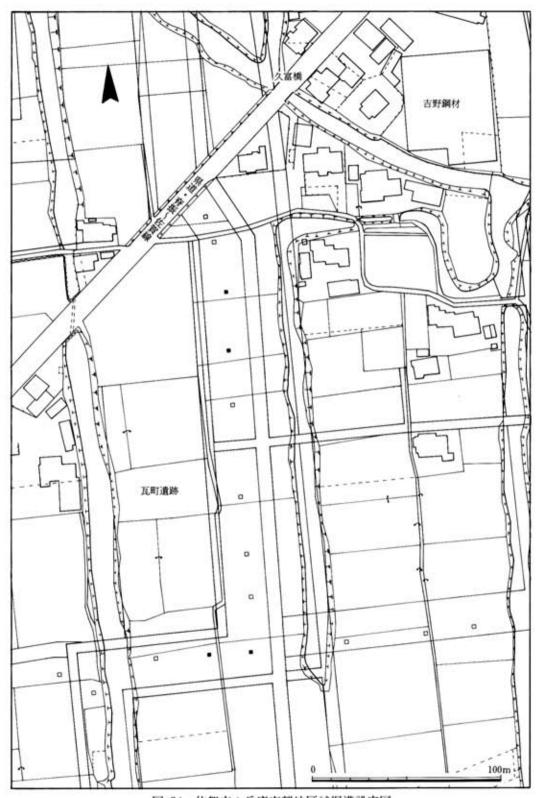


図 24 佐賀市:兵庫南部地区試掘溝設定図

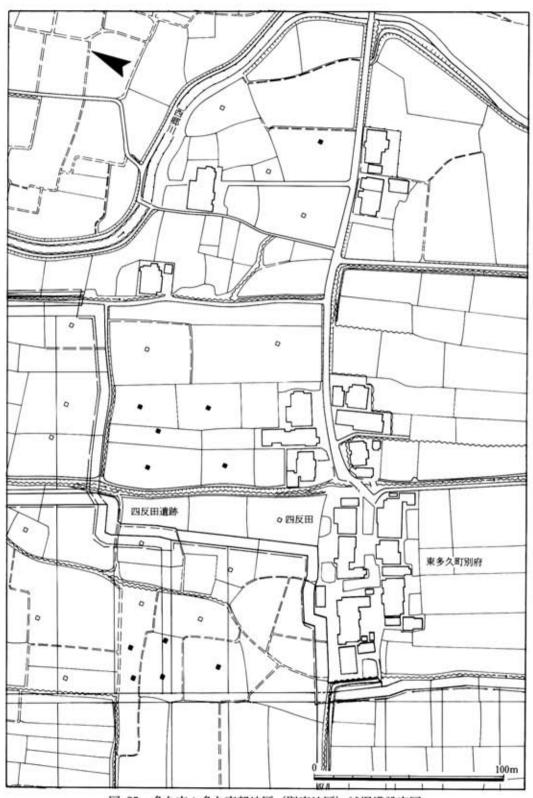


図 25 多久市:多久東部地区(別府地区)試掘溝設定図

調査によって縄文時代中期の南福寺式土器や弥生時代の遺構・遺物が出土した大工田遺跡(縄文~古墳時代の集落跡)や、昭和62年度の調査で弥生時代から古墳時代にかけての遺構・遺物が検出された木浦町遺跡(古墳時代の集落跡)等が点在している。また北方向1kmに位置する東多久バイバスの建設に係る文化財調査では、笠頭山(標高330m)南麓裾部に立地している遺跡群が調査対象となった(西村隆司 1984 『東多久バイバス関係埋蔵文化財調査報告書』 佐賀県文化財調査報告書第76集 佐賀県教育委員会)。

削平予定地を対象に90箇所の試掘溝を設定した結果、5箇所で住居跡、土壙、柱穴等を確認 し、6箇所から土師器片等の包含層を検出した。このことから当該地区には中世の集落跡が存 在すると思われる。なお遺跡を発見した地域については"四反田遺跡"として周知化を図った。

遺跡の存在を確認した6,750mの取り扱いについて協議を重ねた結果、工法上の保護措置が困難な4,000mについて本調査を実施することに決した。

四下地区(北多久町大字多久原字申川内:確認調査対象面積1.05ha)は今出川の開析作用に よって天山南麓に形成された谷底平野の、多久盆地への出口部分にあたり、現況は申川内集落 と原口集落との間に細長く延びる微高地上(標高72~76m)の水田地帯である。

当該地区は未周知地区だが、今出川の西側には中世の溝跡、柱穴等が確認され、縄文時代の 押型文土器や曽畑式土器、青磁片、土師器皿・碗片等が出土している四下大丹遺跡が近接して おり、西側丘陵上には八天山(四下平)遺跡(旧石器〜縄文時代の遺物散布地)が所在する。

21箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。地形的には今出川の氾濫 原にあたり、遺跡の残存している可能性は少ないと思われる。

高木川内地区(北多久町大字小侍字高木川内:調査対象面積5.4ha)は船山(標高684.9m)の東尾根を多久川が開析することによって形成された狭隘な谷底平野で、多久盆地への出口から多久市街地に接する水田地帯(標高34~37m)である。

当該地区は周知外であるが、北側には経ノ峯遺跡(旧石器〜縄文時代の遺物散布地)が隣接 し、南東方向700mの低位丘陵上には湯端遺跡(旧石器時代の遺物散布地)が立地している。 39箇所の試掘溝を設定して確認調査を実施したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

#### (12) 大和町(久池井地区 図26~27)

久池井地区(佐賀郡大和町大字久池井字一本松:確認調査対象面積0.01ha:調査面積4.0m²)は 育振山系中腹の春日山(標高237m)から南東方向へ延びる丘陵の端部(標高37m)である。

当該地区は久池井一本松遺跡(縄文~中世の集落跡、墳墓群)の分布範囲に含まれており、 周辺にも久池井七本柳遺跡、城山遺跡、春日遺跡、礫石古墳群等の縄文時代から中世に至る複 合遺跡が集中している。

調査は農地の形状変更中に発見された合口式の甕棺墓1基について実施し、平面図、断面図、

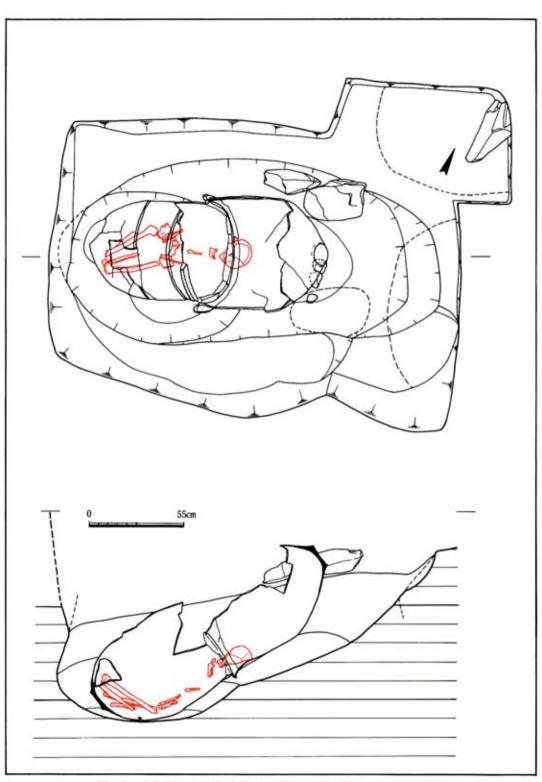


図 26 大和町: 久池井地区 (久池井一本松遺跡) 甕棺出土状況

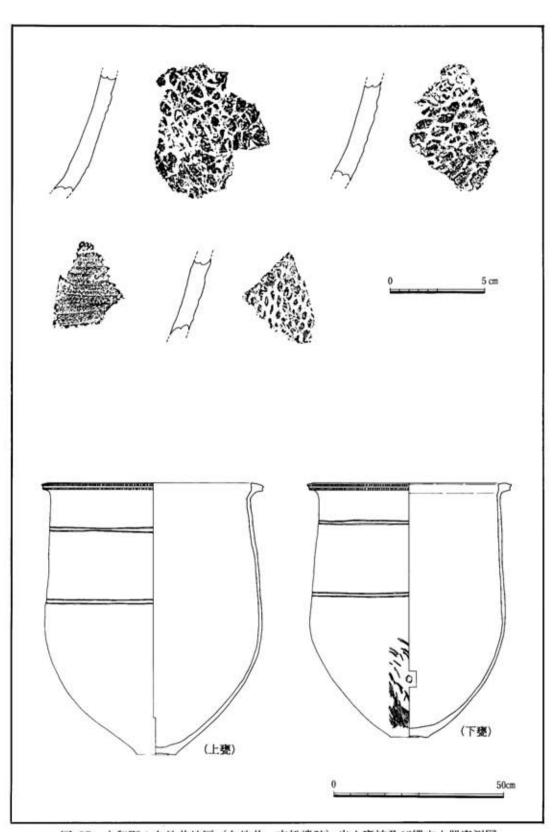


図 27 大和町: 久池井地区 (久池井一本松遺跡) 出土甕棺及び縄文土器実測図

写真等の記録を作成した。

調査対象となった甕棺は、弥生時代前期末から中期初頭に位置付けられる成人棺で、口縁部の形態、及び体部の2箇所に2条の沈線を巡らす前期末(金海式)の特徴を踏襲しつつ、底部の形態等には次代の新しい要素が見られる。また墓壙内埋土中から縄文時代早期の押型文土器片が3点出土しており、その内の1点の内面には工具によるナデ調整が認められる。また甕棺内には頭部に水銀朱が付着した人骨が遺存しており、長崎大学医学部による鑑定の結果、被葬者は年令30才以上、身長152㎝前後の女性であることが判明した。

### (13) 川副町 (川副中部地区 図28)

川副中部地区(佐賀郡川副町大字西古賀字二本松八角、屋敷田:確認調査対象面積45.0ha: 調査面積250m²) は筑後川とその支流の早津江川により形成された沖積平野(標高2m)である。調査地区は国営幹線用水路・市の江〜川副線と、広域農道・佐賀南部地区線によって東西を区画されている鰡江集落南側の水路掘削予定地(250m²)であり、昭和63年度の確認調査で中世から近世にかけての溝跡が検出されたため、本年度に追加調査を行ったものである。

当該地区は昨年度に鰡江南遺跡として周知化を行っている。また早津江津は古代より船舶運 輸の基地として開発されており、その痕跡は鰡江遺跡(中世の集落跡)として遺存している。

調査は幅5m、深さ80cmの大溝、及び暗渠と思われる小溝を対象に行い、瓦質土器片、土師 器片、中近世陶磁器片、砥石片等を検出した。

#### (14) 小城町 (三里北部地区 (貯水槽設置))

三里北部地区(小城郡小城町大字栗原:確認調査対象面積4.0ha)は小城町の西端部、天山山 系から連なる峰山(標高160m)、鏡山(標高133.9m)を中心とした丘陵の西側緩斜面一帯(標 高130~150m)の、現在蜜柑園として利用されている地区である。

当該地区は米ノ隈古墳群の分布範囲に含まれており、周辺にも峰古墳群、姫御前古墳、渋木 古墳群(多久市)等の古墳群が集中していて、佐賀平野西北部一帯の奥津城となっている。

貯水槽の設置予定区域内には大石が点在していることから、古墳の残存も想定できるため、 試掘溝を20箇所設定して確認調査を実施したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

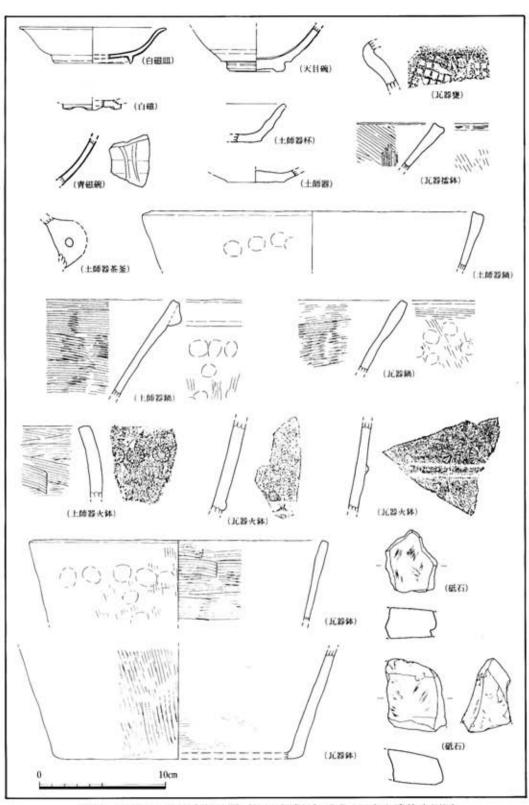


図28 川副町:川副中部地区(鰡江南遺跡) S D 001出土遺物実測図

# ( 佐賀南部地区における調査 )

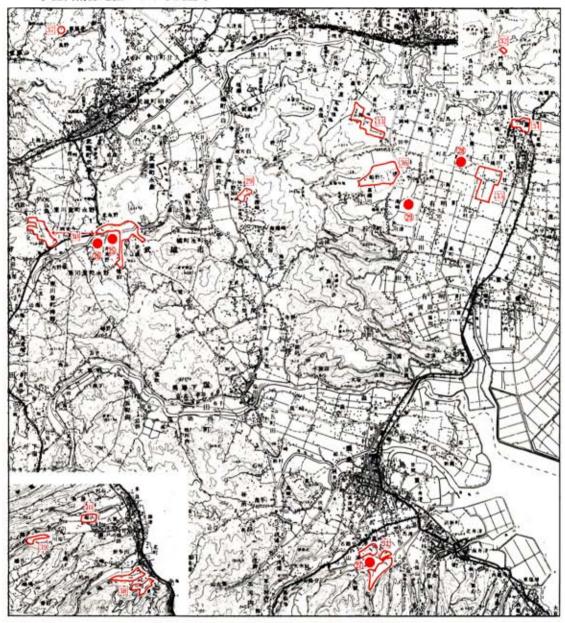


図 29 佐賀南部地区周辺地形図 (1:100,000)

29	槁	(武雄市)	35 白石西第三	(白石町)	☎ 南永野遺跡	(武雄市)
30	川登	(武雄市)	36 白石西第四	(白石町)	⊗ 天神裏遺跡	(武雄市)
31	鹿島西部	(鹿島市)	37 不動山	(嬉野町)	② 不動遺跡	(鹿島市)
32	宮 原	(江北町)	38 糸岐川南	(太良町)	② 多田遺跡	(白石町)
33	白石西第一	(白石町)	39 上川原	(太良町)	② 湯崎東遺跡	(白石町)
34	白石西第二	(白石町)	40 片 峰	(太良町)		

### (15) 武雄市(橘地区、川登地区(第1工区) 図30)

橘地区(武雄市橘町大字大日字北楢崎外:確認調査対象面積36.0ha)は大山岳(標高342m) の西麓部、市道・郷の木〜城口線の南東側に位置する谷底水田地帯(標高6~26m)である。

当該地区はおつぼ南麓遺跡(弥生時代の墳墓群)、おつぼ山第一水門遺跡(旧石器〜縄文時代の遺物散布地、中世の寺院跡(正覚寺跡))の分布範囲内で、北側には国史跡のおつぼ山神籠石、東側には北楢崎古墳群、南側には小野原遺跡(弥生〜中世の集落跡)が隣接している(原田保則 1987 『小野原遺跡』 武雄市文化財調査報告書第17集 武雄市教育委員会)。

おつば山神籠石関連の遺構(水門等)の遺存も考えられるため、70箇所の試掘溝を設定したが、1箇所で小穴を確認し、1箇所から瓦片、染付片を検出したに止まった。

川登地区については第1工区が対象となった。第1工区(東川登町大字永野字焼山、北永野、南永野:確認調査対象面積20.0ha)は虚空蔵山(標高287.9m)を含む山系に対する潮見川と大山路川の開析作用によって形成された、東西方向に細長い開析平野(標高14~17m)である。 当該地区は周知外であるが、潮見川の右岸自然堤防上には玉江遺跡(弥生時代の集落跡)や昭和63年度の農業基盤整備事業に係る確認調査によって発見し、周知化した天神裏遺跡、南永野遺跡等の、古墳時代から中世にかけての集落跡が点在する(原田保則 1987 『玉江遺跡』 武雄市文化財調査報告書第16集 武雄市教育委員会)。

63箇所の試掘溝を設定した結果、2箇所で小穴と土師器片を検出した。これにより中世を主体とする遺物散布地の存在を確認したが、集落跡の存在についての確証は得られなかった。

個別協議の結果、盛土工法の採用により、遺跡は全面保存されることになった。

(16) 鹿島市 (鹿島西部地区 (南川地区 図31~32、若殿分地区、大殿分地区、大木庭地区、 上古枝地区))

鹿島西部地区に関しては南川地区、若殿分地区、大殿分地区、大木庭地区、上古枝地区がそれぞれ対象となった。

南川地区 (鹿島市大字山浦字銭篭、大字納富分字正願地:確認調査対象面積13.8ha) は琴路岳 (標高501m) の北東山麓部を中川、石木津川、金剛川が開析することによって形成された扇 状地の扇央部 (標高14~20m) である。

当該地区はその南半が則重遺跡(縄文~中世の集落跡、遺物散布地)に含まれており、金剛 川を挟んで対峙している微高地上には、不動遺跡をはじめ飯田遺跡、筒口遺跡、立馬場遺跡等 の中世を主体として縄文時代から近世に至るまでの複合遺跡が集中している。

127箇所の試掘溝を設定し、14箇所で住居跡、溝跡、柱穴、及び古式土師器片、土師器片、近 世陶磁器等を検出した。この事から当該地区には古墳時代から近世に及ぶ複合遺跡が存在して おり、特に辻水源地東側一帯では古墳時代前期の集落跡が存在している可能性が高い。

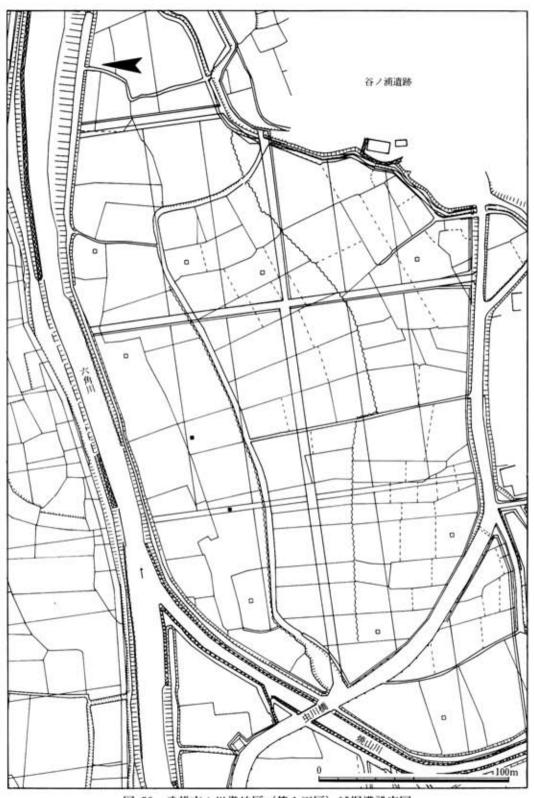


図 30 武雄市:川登地区 (第1工区) 試掘溝設定図

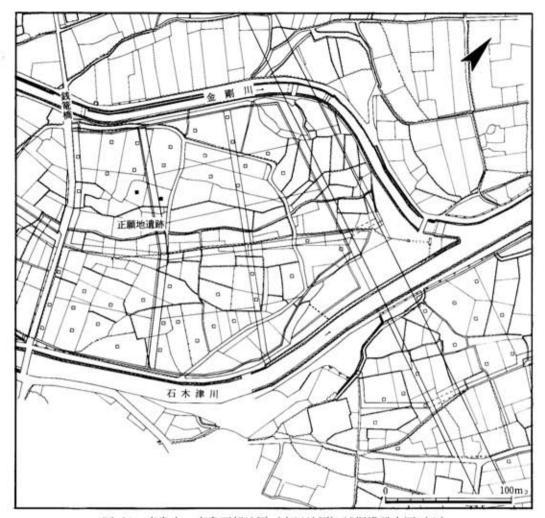


図 31 鹿島市:鹿島西部地区(南川地区)試掘溝設定図(1)

遺跡の分布する1,500㎡の地域の取り扱いについて協議を重ねた結果、保存工法の採用が困難な1,200㎡について本調査を実施することとなった。

若殿分地区(大字納富分字堤、妙見:確認調査対象面積2.5ha)は高津原台地の先端部斜面と 中川とに挟まれた河川敷部分(標高16~18m)で、現況は水田となっている。

当該地区は周知外だが、高津原台地上には辻遺跡、久保遺跡等の縄文時代の遺物散布地が立 地し、中川の対岸には浄岸遺跡、八竜遺跡等の縄文時代から中世に至る複合遺跡が集中する。

削平予定部分を対象に21箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

大殿分地区(大字山浦字八竜、浄源:確認調査対象面積14.4ha)は中川が形成する開析平野 の出口部分で、連厳院周辺に広がる低平な丘陵の斜面(標高15~22m)である。

当該地区はその大部分が八竜遺跡、二俣遺跡等の縄文時代から近世に至る複合遺跡の分布範



図 32 鹿島市:鹿島西部地区 (南川地区) 試掘溝設定図 (2)

囲内であり、中世における京都・仁和寺の末寺である金剛正院の推定地ともなっている。

151箇所の試掘溝を設定した結果、6箇所で土壙、柱穴を確認し、土師器片(糸切り底)、瓦 質土器片等を検出した。これにより当該地区には中世の集落跡が存在するものと思われる。

遺跡の分布範囲2,700㎡の取り扱いを協議した結果、盛土による全面保存が可能となった。

大木庭地区(大字三河内字大木庭:確認調査対象面積13.0ha)は蟻尾山(標高192m)南麓部 に中川が形成している扇状地の扇頂部分(標高30~40m)である。

当該地区は大木庭田中遺跡、国末遺跡という縄文時代から中世に至る遺物散布地内で、北側の蟻尾山一帯には中世山城である蟻尾城跡が遺存している。また中川の上流500mには昭和63年度に農業基盤整備事業関連で調査を実施した吹野遺跡(縄文時代晩期の集落跡)が立地している(加田隆志 1988 『吹野遺跡』 鹿島市文化財調査報告書第4集 鹿島市教育委員会)。

92箇所の試掘溝を設定したが、遺構については確認できず、遺物に関しても表土中より中近 世の陶磁器片、石鍋片等を少量検出したに止まった。

上古枝地区(大字古枝字上古枝:確認調査対象面積3ha)は多良岳(標高982.7m)の北側山 麓を浜川が開析することによって形成された狭隘な谷底平野(標高40~50m)である。

当該地区は周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれないが、北側(浜川下流)300mには県指定の 重要文化財(建造物)である命婦社を有する祐徳稲荷神社が立地している。

確認調査は28箇所の試掘溝を設定して行ったが、遺構・遺物とも検出できなかった。

## (17) 江北町 (宮原地区 (貯水池建設))

宮原地区(杵島郡江北町大字山口字東百合野:確認調査対象面積0.2ha)は市街北側の大平山(標高269.5m)の南側急斜面が平坦部へと移行する一帯(標高160~180m)である。

当該地区は周知外だが、西百合野遺跡(縄文時代の遺物散布地)、柳谷古墳群が近接する。 11箇所の試掘溝を設定して確認調査を行ったが、遺構・遺物とも検出できなかった。

(18) 白石町(白石西第一地区(3工区) 図33、白石西第二地区(4工区)、白石西第三地区(1工区) 図34、白石西第四地区(3工区) 図35)

白石西第一地区では3工区が対象となった。3工区(杵島郡白石町大字大渡字島ノ巣:確認 調査対象面積25.0ha)は、六角川の南に広がる沖積平野をL字形に囲むようにして延びる杵島山 系の裾部(標高3~4m)にあたり、現況は水田地帯となっている。

調査対象地区は大渡下三本松遺跡(弥生~古墳時代の遺物散布地)の分布範囲内であり、南 西側丘陵端周辺部には鳥ノ巣遺跡(弥生~中世の遺物散布地)が、北側には喜佐木遺跡(弥生 ~古墳時代の遺物散布地)、東側には馬洗上黒木遺跡(弥生~中世の集落跡)が、また南側に は、長浜古墳群、栗岡山古墳群が隣接している。 57箇所の試掘溝を設定した結果、5箇所で溝跡を、9箇所から土師器片、須惠器片、青磁片、 白磁片等を検出した。なお溝跡の時期については平安時代から中世と判断される。

遺跡の存在が確認された1,870mに関して取り扱いを協議し、工法上の保護措置が困難な870mについて本調査を実施することに決した。

白石西第二地区については4工区が対象となった。4工区(大字東郷字一本楠:確認調査対 象面積12.0ha)は、白石町市街の北側から六角川の蛇行部分に至るまでの低平な水田地帯(標 高3~4m)で、東側には国道207号線が、そして西側にはIR九州長崎本線が接している。

当該地区は周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれないが、西側には伝六角判官館跡(中世の館跡)が、南側には同じく伝六角判官館跡、東郷一本楠遺跡(中世の遺物散布地)がそれぞれ近接している。また対象地区の南西部に接する六角神社境内には、寛文6年(1666)の記年銘を持つ「天照皇太神宮」石碑の他、多数の石造物が安置されている。

掘削予定地を対象に15箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

白石西第三地区においては1工区が対象となった。1工区(大字今泉字多田:確認調査対象 面積40.0ha)は白石町市街の南西部に位置する江越地区を中心に広がる低平な水田地帯(標高 1.6~2 m)で、中央部を地盤沈下用排水路30号・31号が東西に横断している。

当該地区の北西部は多田遺跡(弥生~古墳時代の遺物散布地、古墳~奈良時代の集落跡)の 分布範囲内である。この一帯は「多駄郷」として記録にも登場しており、荘園経営等集中的な 開発が行われた地域である。昭和62年度から基盤整備事業に係る調査が継続中で、古墳時代後 期から奈良時代にかけての遺構と共に、「養入厨」と墨書された須恵器杯が出土している。

掘削予定地に60箇所の試掘溝を設定した結果、1箇所で土壙を確認し、3箇所から土師器片、 須恵器片等を検出した。このことから当該地区は多田遺跡の東端部にあたるものと考えられる。 遺跡の広がりが確認された1,100mtの取り扱いについて個別協議を行った結果、工法上の変更 が困難であることから、全面調査となった。

白石西第四地区においては3工区が対象となった。3工区(大字堤字船野:確認調査対象面積37.0ha)は犬山岳(標高342m)の東麓から隆城跡までの低平な水田地帯(標高3.6~4.4m)で、東側には県道・錦江~大町線が接し、中央部を地盤沈下用排水路68号がL字形に走る。

当該地区は北東部と南西部の一部を除き船野遺跡(弥生~古墳時代の遺物散布地)、及び嘉瀬 川遺跡(弥生~中世の集落跡)の分布範囲に含まれる。また地区のほぼ中央部に位置する小高 い丘の上の杵島神社は、杵島城跡(中世の城館跡)と推定されている。更に東側には隆城跡(中 世の城館跡)が隣接し、南側には湯崎遺跡(弥生~中世の集落跡)が近接している。

142箇所の試掘溝の内、31箇所から弥生土器片、土師器片、須恵器片等を検出したことから、 北東部 (未周知地区)には弥生時代中期から平安時代の遺物包含層が存在すると考えられる。 個別協議の結果、遺跡の分布する4,200mの全域について本調査を行うことになった。

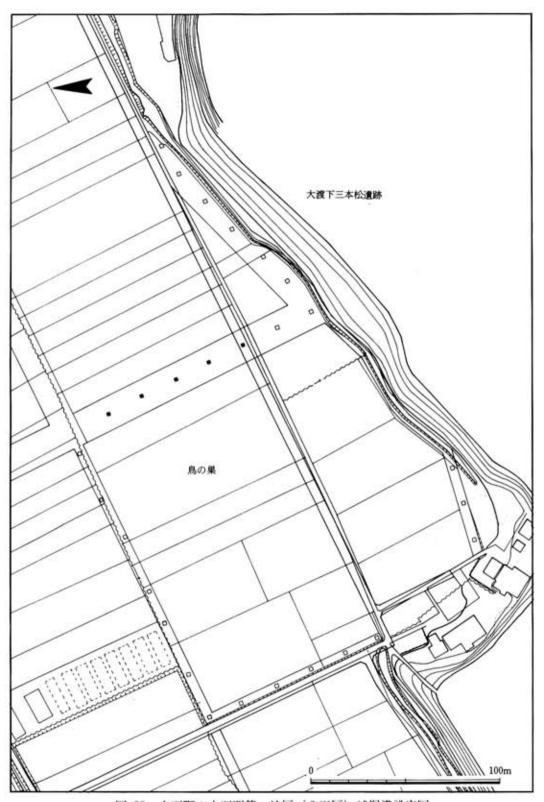


図 33 白石町:白石西第一地区(3工区)試掘溝設定図

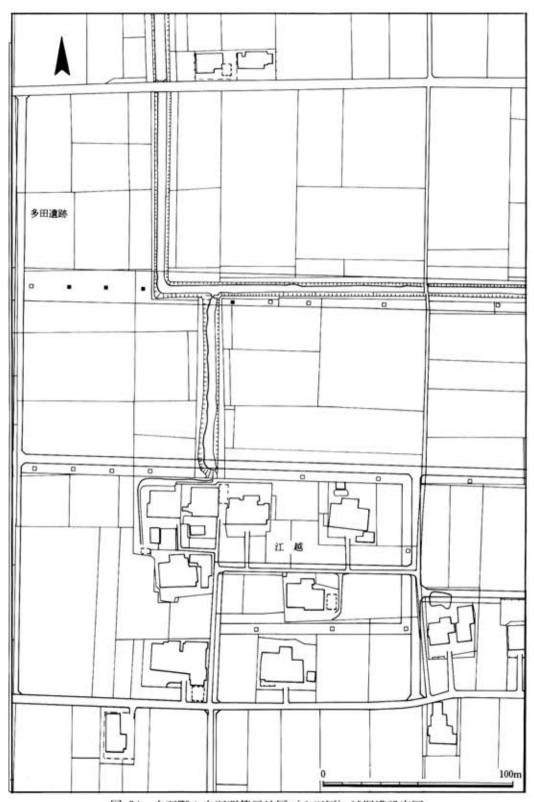


図 34 白石町:白石西第三地区(1工区)試掘溝設定図

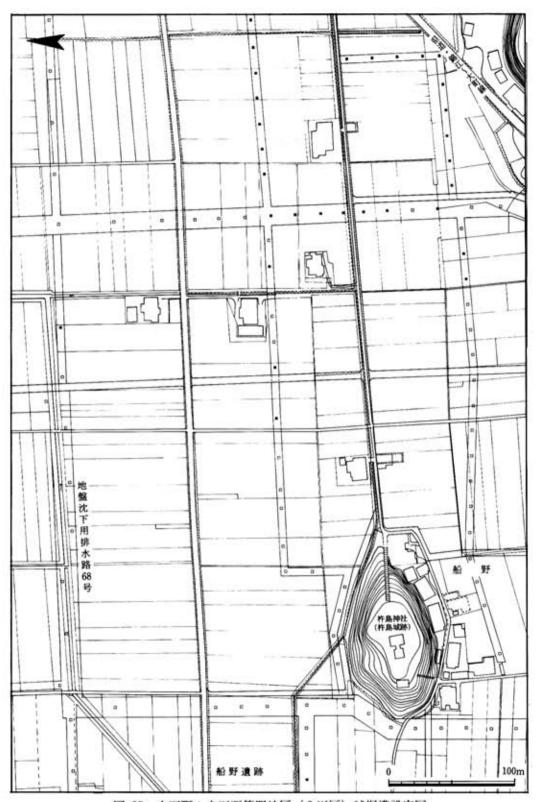


図 35 白石町:白石西第四地区(3工区)試掘溝設定図

## (19) 嬉野町 (不動山地区 図36)

不 」地区(藤津郡嬉野町大字不動山(乙):確認調査対象面積0.02ha)は長崎県との県境が 走る康空蔵山(標高609.6m)北東側の急傾斜面が塩田川によって開析を受けることにより形成 された狭隘な谷底平野で、現況は皿屋谷集落南西部の水田部分(標高200~210m)である。

当該地区は昭和53年度に茶樹の改植に伴って調査され、昭和56年度に不動山窯跡として国史 跡・肥前磁器窯跡に追加指定を受けている近世磁器窯の皿屋谷3号窯(東中川忠美他 1979 『不動山窯跡』 嬉野町文化財調査報告書第1集 嬉野町教育委員会)の北西側隣接地であり、 塩田川の流路に沿って、同時期の磁器窯である皿屋谷1・2・4・5号窓が点在している。

当該地区の全域を対象に11箇所の試掘溝を設定し、物原は確認できなかったものの、水田耕作土中から、見込に"岩に草花文"周囲に"網絵文"を配した染付皿①、見込に"花卉文"を持つ染付皿②、内面に"岩と草花文"を描いた染付皿③、天井部に"唐花唐草文"を描いた染付蓋④、簡略化した"雲竜見込荒磯文"を持つ染付碗⑤、外面に"山水文"と"寿字文"の複合文様を有する染付碗⑥、外面に"鹿絵文"を描く小型の染付碗⑧、及び青磁の脚付杯⑨・碗⑦⑩・香炉⑪、窯道具等、昭和53年の調査時に出土した遺物と同時期の磁器を検出した。このことから水田造営時に皿屋谷 3 号窓の物原部分から客土し、それを耕作土として利用したものと思われる。

当該地区については近世の遺物散布地として"皿屋谷遺跡"の名称で周知化を図った。

#### (20)太良町(糸岐川南地区 図37、上川原地区、片峰地区)

糸岐川南地区 (藤津郡太良町大字糸岐字川南:確認調査対象面積7.5ha) は糸岐川の帆柱岳 (標高741m) 北東斜面に対する開析作用により形成された谷底平野 (標高6~14m) である。 当該地区は周知外であるが、北側の丘陵上には中世の山城である八幡城跡が、更に南側の丘 陵上にも中世山城 (詳細については不明) が立地している。

61箇所の試掘溝を設定し、10箇所で溝跡、小穴等を確認し、11箇所から青磁碗片、白磁碗片、 滑石製石鍋片等平安時代末期から近世に至る遺物を検出した。

遺跡の広がる3,700mの内、盛土保存が困難な2,800mについて調査を行うことになった。

上川原地区(大字多良字上川原、川良:確認調査対象面積6.0ha)は多良岳の北東尾根を多良川が開析することにより形成された谷底平野の開口部分(標高50~60m)である。

当該地区は周知外であるが、東側の丘陵上には中世山城である正知田城跡が立地している。 削平部分を対象に12箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

片峰地区(大字多良字片峰:確認調査対象面積6.6ha)は多良岳北東尾根を、多良川と嫁川が 開析することにより形成された複合扇状地上(標高20~31m)である。

当該地区は周知外だが、北側丘陵には喜三郎遺跡(縄文時代の遺物散布地)が立地している。 側平子定部分を対象に37箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

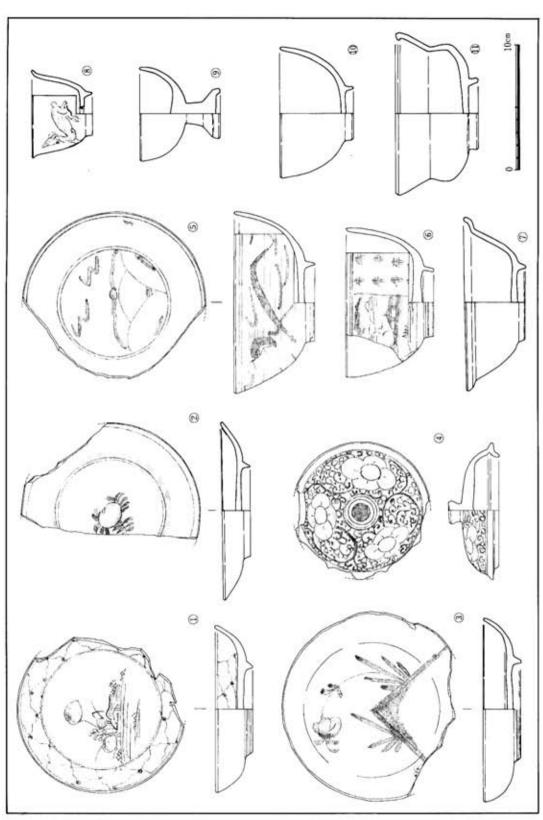


図 36 嬉野町:不動山地区(皿屋谷遺跡)出土遺物実測図

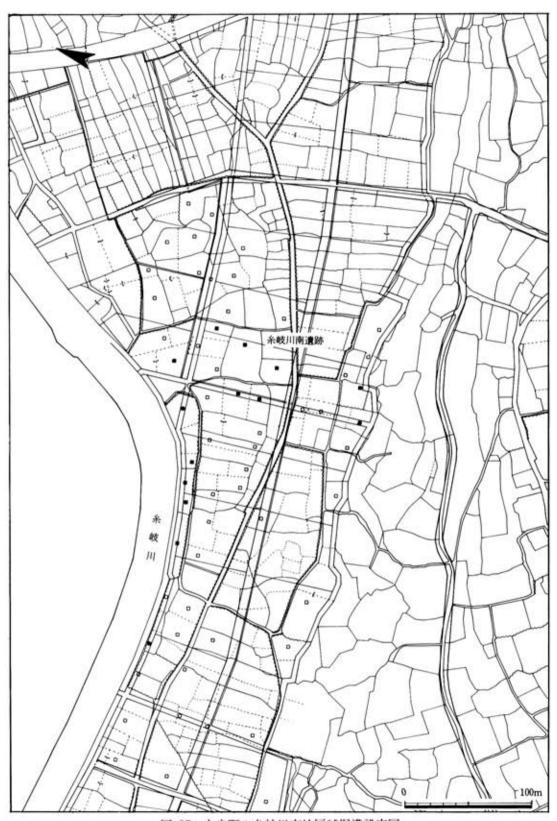


図 37 太良町:糸岐川南地区試掘溝設定図

# 《佐賀北部地区における調査》

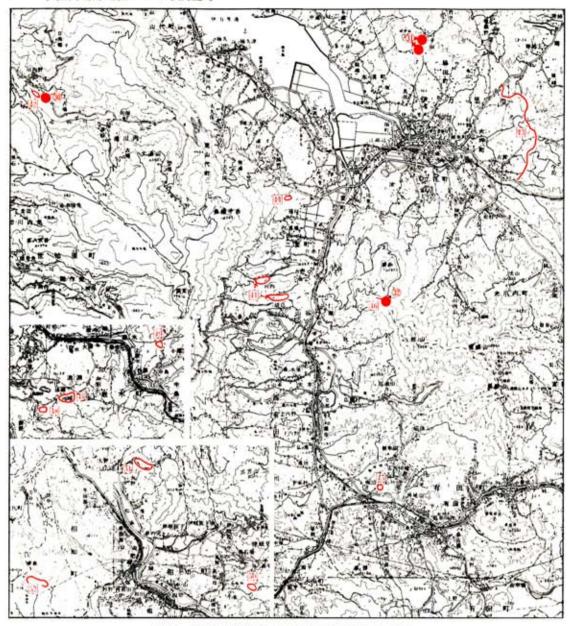


図38 佐賀北部地区周辺地形図 (1:100,000)

41 中 里	(伊万里市)	46 大川内-	~竜門線(林道)	(西有田町)	[51]	大 野	(相知町)
42 川 内 野	(伊万里市)	47 浪	瀬	(厳木町)	52	岸岳2期(農道)	(相知町)
43 白野~古質線(農道)	(伊万里市)	48 苔 見	堂	(厳木町)	30	川内野遺跡	(伊万里市)
44 伊万里	(伊万里市)	49 浦川	内	(厳木町)	0	平山遺跡	(伊万里市)
45 上迎原	(有田町)	50 千	東	(相知町)	0	牧の土塁・石塁跡	(西有田町)

(21) 伊万里市(中里地区、川内野地区、白野~古賀線(国見山麓農道)、伊万里地区(大里地区) 図39)

中里地区(伊万里市二里町大字中里字川内、飯盛川内:確認調査対象面積8.0ha)は吉野川に よる開析平野(標高60~120m)と、南側の狭隘な谷底水田(標高114~120m)である。

当該地区は野瀬原遺跡(縄文時代の遺物散布地)の分布範囲内で、台地の縁辺部にも吉野遺跡、早川遺跡、中里一本杉遺跡等の縄文時代から弥生時代に至る遺物散布地が点在している。

削平部分を対象に31箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

川内野地区 (東山代町大字川内野字岩ノ下:確認調査対象面積1.1ha) は志佐川に沿って東西 に細長く延びる谷底平野の、志佐川と讃岐川の合流部分一帯(標高154~158 m) である。

当該地区は周知外であるが、北側の丘陵には柳山遺跡、松葉遺跡等の縄文時代の遺物散布地 が、また北東側には昭和63年度に周知化した川内野遺跡(中世〜近世の集落跡)が近接する。 19箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

国見山麓農道・白野~古賀線(大坪町大字白野:確認調査面積0.1ha)は今岳(標高221m) を主峰とする山系の西側緩斜面、及び谷底平野(標高43~94m)である。

計画路線は戸城の堤の北側より国道202号線の池ノ峠下堤付近まで南北に延びるもので、その 東側に隣接して農道空港の建設が平成5年度末の完成を目指して進められている。

当該地区は周知外であるが、谷底平野を隔てた南側の今岳西麓一帯には今岳原遺跡、憩場遺跡、柏別遺跡、梅木谷遺跡、糸屋敷遺跡等の縄文時代の遺物散布地が点在している。

丘陵頂部を対象に32箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

伊万里地区においては大里地区が対象となった。大里地区(二里町大字大里字長谷平、多々羅:確認調査対象面積0.3ha)は烏帽子岳(標高597.1m)の東麓端部(標高50~60m)である。

当該地区は周知外であるが、北側の丘陵の斜面には西尾遺跡、浦田遺跡等の縄文時代の遺物 散布地が点在している。また西尾堤は江戸時代後期から近代にかけて、多々羅堤は江戸時代末 期から明治時代までそれぞれ活用されており、近世末の水利技術の水準を表象するものである。

両堤の2段築堤部分に2箇所の試掘溝を設定し、版築工法等に関する記録を作成した。また他の地域について10箇所の試掘溝を設定し、1箇所からサヌカイト製のスクレイパー、黒曜石製の石鏃、石核、剝片、条痕文土器片等を検出した。これにより当該地区には縄文時代後期末から晩期初頭にかけての野営地的な性格の遺構が存在するものと思われる。

遺跡の取扱について個別協議を行った結果、盛土による保存が可能となった。

#### (22) 有田町 (上迎原地区)

上迎原地区(西松浦郡有田町大字西部(甲)字上迎原:確認調査対象面積0.01ha、調査面積 20mi) は西有田町との町境に近い独立丘陵の南端部(標高57~59m)に位置する。



図 39 伊万里市:伊万里地区(大里地区) 試掘溝設定図

当該地区は近世の磁器窯である小溝下窯跡の分布範囲内で、周辺にも小溝上窯跡、小溝中窯 跡等の近世古窯跡が隣接している(村上伸之 1988 『小溝中窯・小溝下窯・清六ノ辻1号窯・ 清六ノ辻大師堂横窯』 ―町内古窯跡群詳細分布調査報告書第1集― 有田町教育委員会)。

貯水池の築堤予定部分を対象に2箇所の試掘溝を設定したが、遺構については確認できなかった。また遺物に関しても染付片数点と窯道具(トチン)2点を検出したに止まった。

# (23) 西有田町 (大川内~龍門線 (民有林林道))

大川内~龍門線(西松浦郡西有田町大字山谷字楠久保:確認調査対象面積0.4ha)は楠久保から牧山(標高552.6m)北西側の越ノ峠を経由して伊万里市大川内町に至る路線である。

当該地区は元和8年(1622)以降、鍋島藩が軍馬養成を目的として造営した御用牧場跡である 牧の土塁・石塁跡の分布範囲に含まれる。

11箇所の試掘溝を設定した結果、地下遺構については確認できなかったが、地区内には御囲い等を目的とした土塁・石塁が3列良好な状態で残存しているため、取り扱いについて個別協議を行った結果、盛土保存、及び一部記録保存を行うことになった。

# (24) 厳木町 (浪瀬地区、苔見堂地区、浦川内地区)

浪瀬地区(東松浦郡厳木町大字浪瀬字岩ノ元:確認調査対象面積6.4ha)は船山に連なる山系 に対する、厳木川の支流の開析作用による狭隘な谷底平野(標高49~54m)である。

当該地区は周知外であるが、周辺の低平な丘陵上には天正5年(1577)の紀年銘を持つ鶴田 神社六地蔵や樫原遺跡、川頭【遺跡といった縄文時代の遺物散布地が点在している。

削平予定地区を対象に28箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。 苔見堂地区(大字浪瀬字苔見堂:確認調査対象面積1.5ha)は厳木川を溯った、谷底平野最奥

当該地区は周知外であるが、苔見堂遺跡(縄文時代の遺物散布地)が近接している。

部の棚田地帯(標高100~130m) であり、県道・伊万里畑川内〜厳木線が北側に隣接する。

面工事による削平部分を対象に19箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。しかし北側の岩山山頂には中世城郭として著名な獅子ケ城が立地していることから、周辺一帯に当時の集落が営まれていた可能性もあり、今後の詳細な調査に期待される。

浦川内地区(大字浦川内字有ノ木:確認調査対象面積1.5ha)は厳木川の支流である浦川内川の開析作用により形成された急傾斜・狭隘な谷底平野(標高100~110m)であり、西側には浦川内川、東側には県道・七山〜厳木線が隣接し、現況は蜜柑園、及び棚田となっている。

調査予定地区は周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれないが、縄文時代から弥生時代にかけて の遺物散布地である河内遺跡、有ノ木遺跡が隣接している。

削平予定部分を対象に10箇所の試掘溝を設定したが、遺構については確認できなかった。ま

た弥生時代から近世に至るまでの土器片を同一層で検出したことから、この地区は浦川内川の 氾濫による流失・再堆積の繰り返しによって現在に至っていると思われる。

## (25) 相知町 (千束地区、大野地区、岸岳 2 期地区 (農道) 図40~42)

千東地区(東松浦郡相知町大字千東字平尾、本川内:確認調査対象面積2.1ha)は作礼山(標高987.1m)の西尾根を千東川、公の巣川が開析することによって形成された急傾斜・狭隘な谷底平野(標高60~80m)で、現況は棚田となっている。

当該地区は周知外であるが、千東遺跡(縄文時代の遺物散布地)、本川内遺跡(縄文時代の遺物散布地)、本川内遺跡(縄文時代の遺物散布地)等が近接している。

削平予定部分を対象に13箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも確認できなかった。

大野地区 (大字大野字小山、菖蒲ヶ谷:確認調査対象面積2.1ha) は陣の山 (標高303.7m) から夕日山 (標高272.9m) へと続く山系の西側に位置する開析平野 (標高12~30m) である。

当該地区は周知外であるが、松浦川東岸の自然堤防上には、昭和63年度に基盤整備事業に係る確認調査によって発見し、周知化を行った大野遺跡(弥生時代、中世の遺物散布地)が立地しており、周辺の緩やかな台地の縁辺部にも小山遺跡、入道町遺跡、八反ケ倉遺跡等の縄文時代から古墳時代にかけての遺物散布地が点在している。

削平子定部分を対象に10箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

岸岳 2 期地区 (大字佐里字岸岳:確認調査対象面積0.63ha) は岸岳 (標高320m) 南麓の急斜面が緩斜面に変わる一帯 (標高100~150m) であり、岸岳 1 期 (昭和61年度~昭和63年度事業:総延長1,923m)、及び岸岳 2 期 (昭和63年度~平成 4 年度事業:総延長4,202m) の 2 次期にわたる農道整備事業が進められている。

当該地区内の狭小な尾根の先端には<u>おまん塚</u>と呼ばれる供養塚(集石遺構:創建時には上部 構造が存在したと思われるが、現在は基部の一部を残すのみ)があり、その北東側谷部には岸 岳城関連の竪堀1条、西側には大手口への登城路という言い伝えが有る<u>殿様道(とんさんみち)</u> と呼称される急峻な尾根筋が、そして更に西側には計画路線に接して玄蕃屋敷跡(波多氏の家 老であった某玄蕃の屋敷跡)と呼ばれる石垣が残存している。

これら伝承地を中心に、2時期に分けて計9箇所に試掘溝を設定した結果、おまん塚の集石 の下から墳墓と思われる2段掘り込みの土壙を確認し、その内部から古唐津碗、古唐津片口碗、 朝鮮唐津の向付角皿、土師器杯を検出した。これらは唐津焼創成期の窯として県史跡に指定さ れている岸岳三古窯(帆柱窯か?)の製品であり、考古学だけでなく、美術史上、更に窯業史 上においても貴重な資料である。

おまん塚については伝承名のまま"おまん塚"として周知化を行う一方、信仰の対象となって いる集石を農道の南側隣接地へ移築し、竪堀は盛土により保存することに決した。

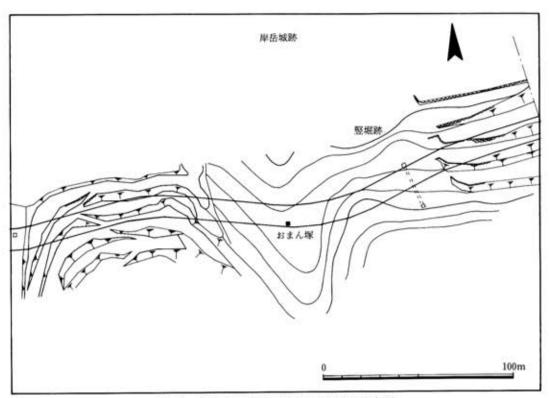


図 40 相知町:岸岳2期地区試掘溝設定図

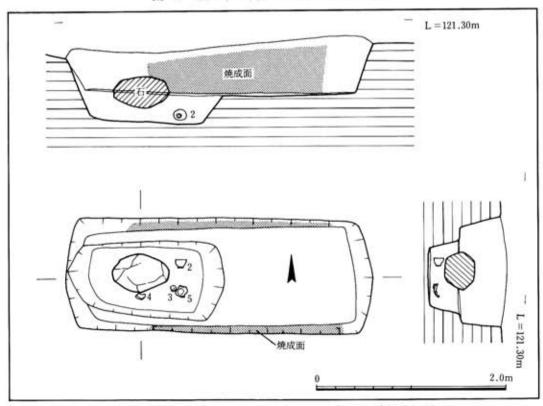


図 41 相知町:岸岳2期地区(おまん塚)検出遺構実測図

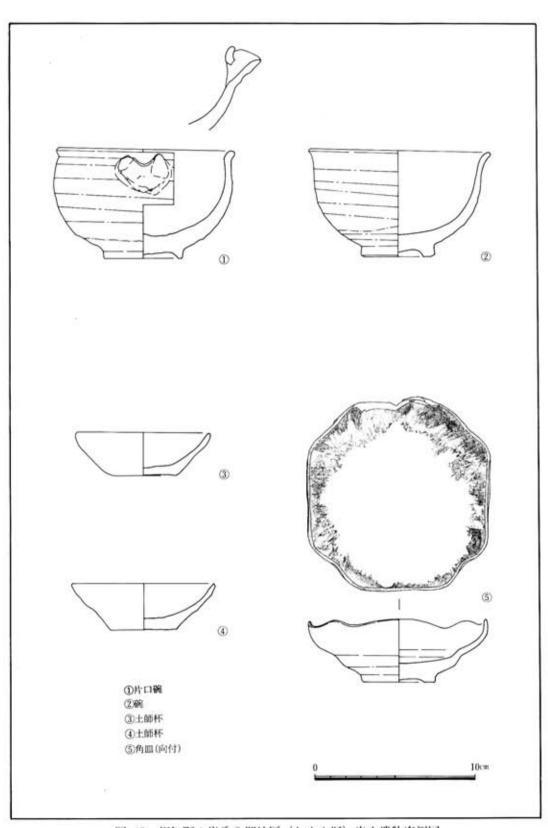


図 42 相知町:岸岳2期地区(おまん塚)出土遺物実測図

# 《 佐賀上場地区における調査 》

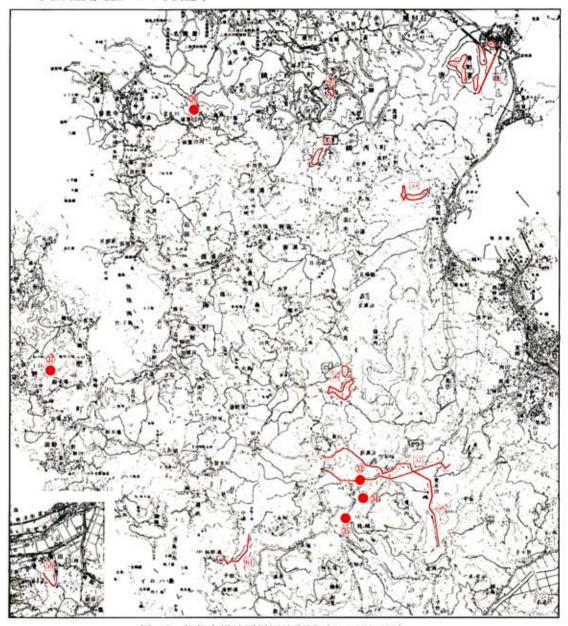


図 43 佐賀上場地区周辺地形図 (1:100,000)

53 上 場(石原)	(唐津市)	図 新成渕幹線用水路	(唐津市)	図 唐ノ川高峰遺跡	(唐津市)
54 上場II期 (湊)	(唐津市)	99 大 岩 (農道)	(浜玉町)	② 唐ノ川丸尾遺跡	(唐津市)
55 上場Ⅱ期(浦)	(唐津市)	回上場(打上)	(鎮西町)	⑤ 唐ノ川西ノ吹遺跡	(唐津市)
56 上場IV期(梨川内)	(唐津市)	61 上場Ⅲ期(杉野浦)	(肥前町)	36 木下利房降跡	(玄海町)
⑤ 上倉幹線用水路	(唐津市)			团 殿木場遺跡	(肥前町)

(26) 唐津市(上場地区(石原工区)、上場II期地区(湊工区 図44~47、浦工区)、上場IV期 地区(梨川内工区 図48)、上倉幹線用水路(唐ノ川高峰地区 図49)、新成渕幹線用水路(唐 ノ川一ノ坂地区、東山殿切地区、竹木場前田地区 図50、菅牟田西山地区 図51、山田団六地 区 図52・53))

石原工区(唐津市大字枝去木字イッカン田、下川、デン田:確認調査対象面積7.0ha)は鎮西町との市町境に接する谷合地で、県道・今村~枝去木線と県道・唐津~呼子線に囲まれた部分、及びその北側から採石場までの水田部分(標高101~115m)である。

当該地区は周知外であるが、周辺の丘陵上にはデン田遺跡、イッカン田遺跡、ララシロ田遺跡、前田 I 遺跡 (鎮西町) 等の旧石器時代から縄文時代にかけての遺物散布地が点在している。 面工事による削平部分を対象に14箇所の試掘溝を設定したが、遺構に関しては確認できず、 遺物についても黒曜石、及び安山岩の剝片、陶器片、磁器片を少量検出したに止まった。

上場Ⅱ期地区については湊工区、及び浦工区が対象となった。湊工区(大字湊字松本、牟田 上、中野、十連:確認調査対象面積23.0ha)は湊集落の南側の、湊疫神社、湊小学校に隣接す る砂丘地、及びその後背地(標高4~124m)である。

当該地区もまた周知外であるが、地区の北西側を流れる橋本川対岸の丘陵上には鞍遺跡(縄文~弥生時代の遺物散布地、弥生時代の墳墓群)、雲透遺跡(旧石器~古墳時代の遺物散布地)等が立地する。また南西方向200mには国営畑地帯総合土地改良事業に伴って調査され、高地性集落の存在が確認された湊中野遺跡(田島龍太他 1985 『湊中野遺跡』 唐津市文化財調査報告書第14集 唐津市教育委員会)が所在している(中島直幸 1982 『上場遺跡』 唐津市文化財調査報化財調査報告書第4集 唐津市教育委員会)。

19箇所の試掘溝を設定した結果、2箇所で土壙、柱穴を、更に2箇所において遺物包含層を確認した。また4箇所から黒曜石、及び安山岩製剝片、弥生土器片、土師器片、滑石製品(石鍋)片、青磁片、白磁片等を検出した。これにより湊集落の西部を中心とした地域には、弥生時代、及び室町時代の集落跡が存在すると考えられ、"湊松本遺跡"として周知化を行った。

個別協議の結果、遺跡の分布が確認された2,200㎡の全域について調査を行うことになった。 浦工区(大字浦字野原外:確認調査対象面積2.5ha)は上場台地中央部、浦集落の東側に細長く 延びる狭隘・緩傾斜な開析平野(標高126.5~132m)である。

当該地区は野原遺跡(旧石器〜縄文時代の遺物散布地)、及び雨溜遺跡(旧石器〜弥生時代の 遺物散布地)の分布範囲内で、周辺丘陵上にも女山遺跡、黒竜遺跡、園田遺跡、赤太郎遺跡等 の旧石器時代から縄文時代にかけての遺物包含地が点在している。

10箇所の試掘溝を設定したが、遺構については確認できず、遺物に関しても4箇所の表土から黒曜石、及び安山岩製の剝片、陶器片、磁器片等を少数検出したに止まった。

上場IV期地区は梨川内工区が対象となった。梨川内工区(大字梨川内字小十、大久保:確認

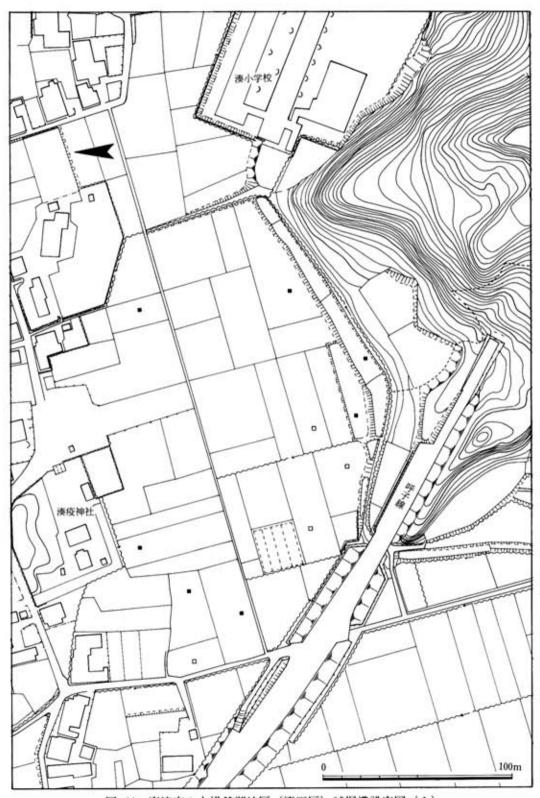


図 44 唐津市:上場II期地区(湊工区)試掘溝設定図(1)

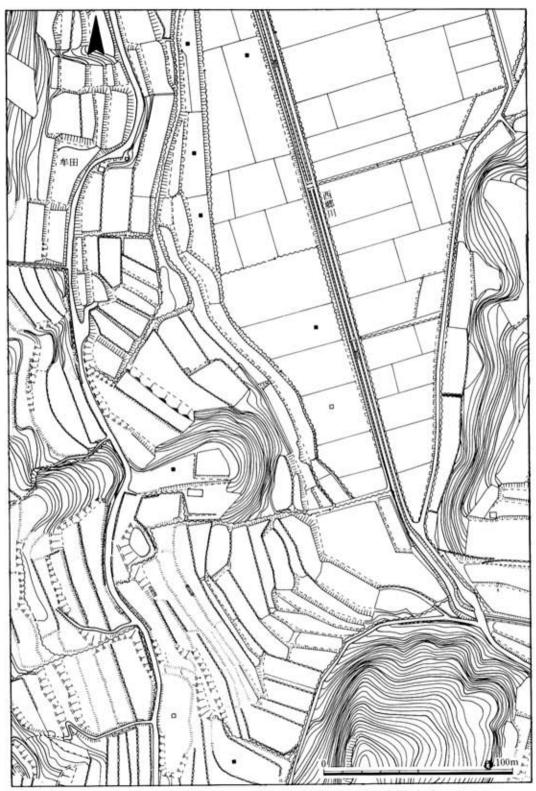


図 45 唐津市:上場Ⅱ期地区(湊工区)試掘溝設定図(2)

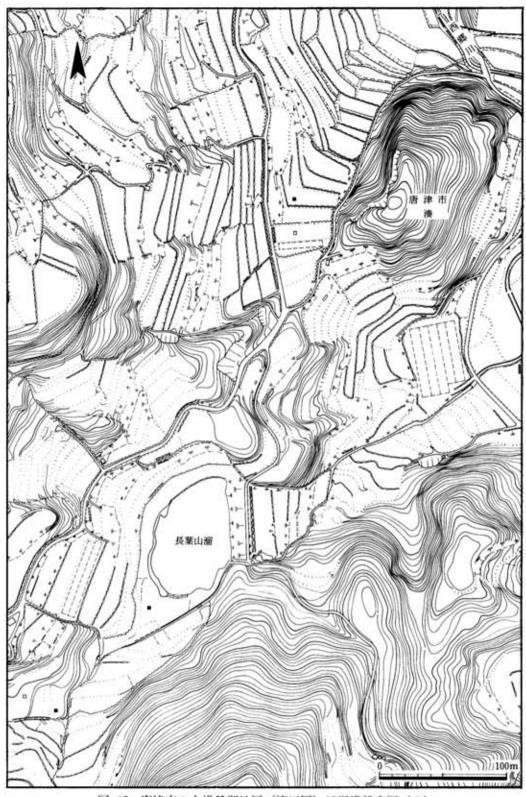


図 46 唐津市:上場Ⅱ期地区(湊工区)試掘溝設定図(3)

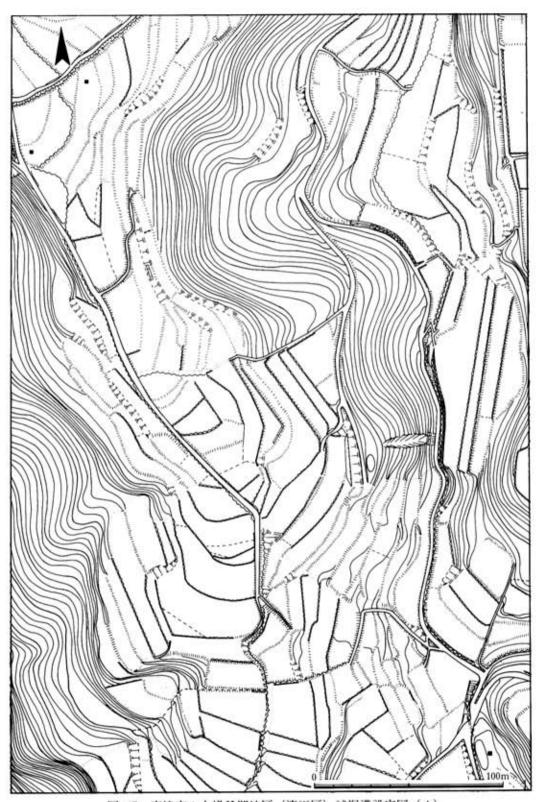


図 47 唐津市:上場Ⅱ期地区(湊工区)試掘溝設定図(4)

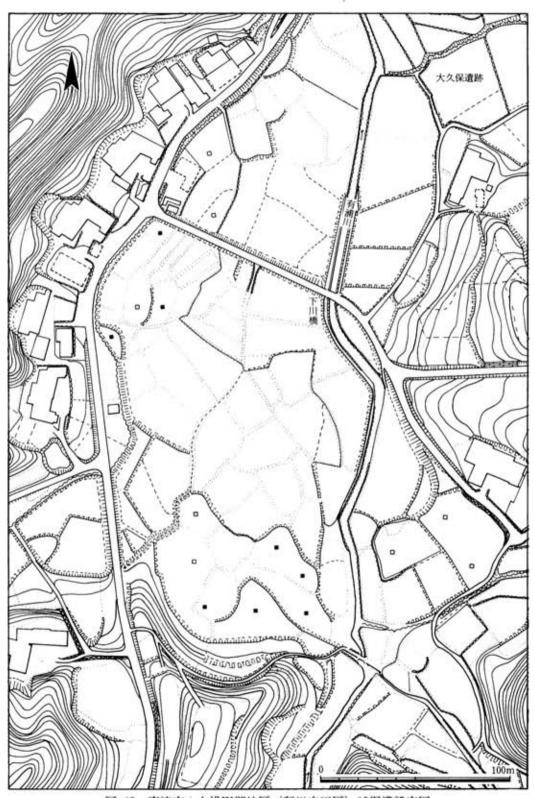


図 48 唐津市:上場IV期地区(梨川内工区)試掘溝設定図

調査対象面積8.0ha)は、唐津市の西部に広がる東松浦熔岩台地内に、有浦川によって南北方向 に形成された開析平野(標高100~120m)であり、現況は水田である。

当該地区は大久保遺跡 (旧石器時代の遺物散布地) の分布範囲内であるが、近接地域においては南方向700mの地点に、県営農業基盤整備事業に伴って調査が実施され、17世紀前半の古唐津の窯であることが判明した小十窯が立地している程度である (中島直幸他 1985 『小十窯跡・大良中尾二ツ枝遺跡概報』 唐津市文化財調査報告第12集 唐津市教育委員会)。

面工事による掘削予定部分6地区を対象に、22箇所の試掘溝を設定した結果、1箇所より土 壙を確認し、5箇所から黒曜石製の石核・石鏃・剝片、唐津系陶器片(小十窯製品も含む)、伊 万里系磁器片等を検出した。このことから当該地区には旧石器時代から縄文時代、及び中世か ら近世にかけての遺物散布地が存在すると考えられ、周知外の地域については"村前 I 遺跡"、 及び"村前 II 遺跡"として周知化を検討中である。

遺跡の存在が判明した4,200mの取り扱いに関しては、基盤整備事業自体が平成3年度へ先送りになったため、個別協議についても後日改めて行うことになった。

上倉幹線用水路(大字唐ノ川字高峰:確認調査対象面積0.5ha)は肥前町の上倉ダムから松浦 川揚水機場までの、総延長8,830mにも及ぶ上場最長の国営幹線用水路であり、本年度は唐ノ川 高峰地区が対象となった。

当該地区は鎮西町との市町境に近く、赤坂ダムの東側、唐ノ川集落の北側に位置する狭隘な 開析平野(標高170~200m)で、路線は県道・唐津~肥前線に沿って計画されている。

当該地区は周知外であるが、堀田遺跡(縄文時代の遺物散布地)、及び昭和63年度の基盤整備 事業に係る確認調査によって発見した唐ノ川高峰遺跡(旧石器~弥生時代の集落跡)が隣接し ており、周辺にもやはり昭和63年度の基盤整備事業に係る確認調査によって発見し、周知化を 行った唐ノ川境遺跡(旧石器~縄文時代の遺物散布地)、唐ノ川丸尾遺跡(旧石器~縄文時代の 遺物散布地、弥生時代・中世の集落跡)、唐ノ川西ノ吹遺跡(旧石器~縄文時代の遺物散布地、 弥生~古墳時代の集落跡)等が点在している。

掘削予定部分を対象に27箇所の試掘溝を設定した結果、小穴を確認し、黒曜石製、及び安山 岩製の剝片をはじめ、石鏃、縄文時代晩期の土器片等を検出した。これにより当該地区におけ る縄文時代晩期の遺物包含層の存在が明らかとなった。

遺跡の分布を確認した2,500mの取り扱いについては、工法上の保護措置が困難であり、かつ 平成元年度の追加工事であることから本年度中に全面調査を行うこととなった。

新成渕幹線用水路については唐ノ川一ノ坂地区、東山殿切地区、竹木場前田地区、菅牟田西 山地区、山田団六地区の各地区が対象となった。

新成渕幹線用水路(大字唐ノ川字一ノ坂、大字東山字殿切、大字竹木場字前田、大字菅牟田 字西山、大字山田字団六:確認調査対象面積 3.6ha) は赤坂ダムと北波多村成渕とを結ぶ潅漑

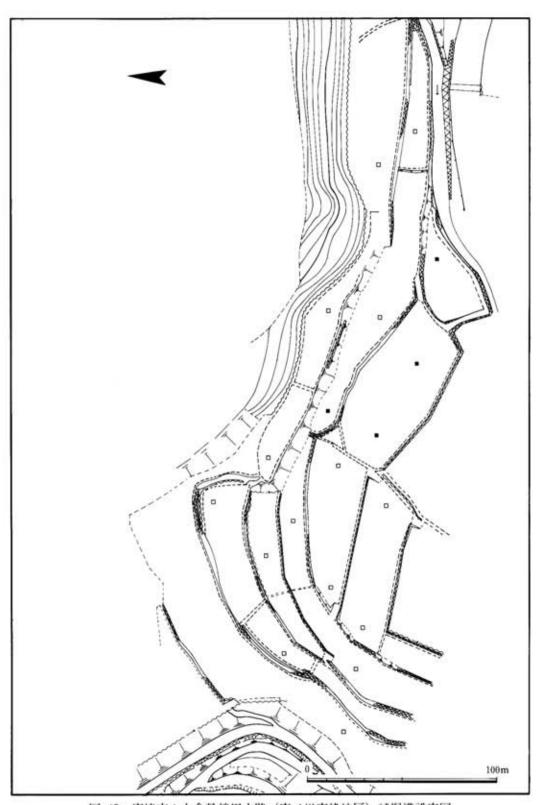


図 49 唐津市:上倉幹線用水路(唐ノ川高峰地区) 試掘溝設定図

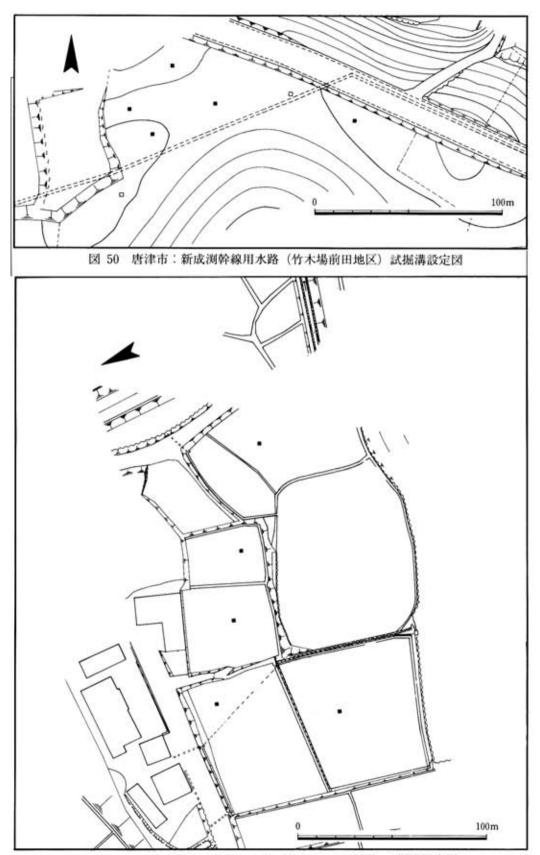


図 51 唐津市:新成渕幹線用水路(菅牟田西山地区)試掘溝設定図

用水路であり、上場台地東南部のなだらかな丘陵上(標高165~215m)に位置する。

当該地区は周知外であるが、竹木場前田地区、菅牟田西山地区周辺には竹木場小学校前遺跡、 菅牟田 I 遺跡、菅牟田 II 遺跡等の縄文時代の遺物散布地が点在しており、国営・和多田~竹木 場幹線道路建設工事に伴う菅牟田黒龍遺跡の調査等により、資料の集積が進みつつある(田島 龍太 1985 『菅牟田黒龍遺跡』 唐津市埋蔵文化財調査報告第11集 唐津市教育委員会)。

掘削予定部分を対象に唐ノ川一ノ坂地区 7 箇所、東山殿切地区 6 箇所、竹木場前田地区 8 箇所、青年田西山地区 5 箇所、山田団六地区 9 箇所の計35箇所の試掘溝を設定した結果、唐ノ川一ノ坂、東山殿切の両地区については、旧石器時代から縄文時代にかけての遺物の散布が表土中に認められた。更に唐ノ川一ノ坂地区については周辺の状況から遺構の存在も考えられるため"一ノ坂遺跡"として周知化を行った。また竹木場前田地区については旧石器時代から縄文時代にかけての遺構、及び黒曜石製、安山岩製の剝片・砕片を内包する遺物包含層が検出され、菅年田西山地区では黒曜石製ナイフ形石器・剝片等旧石器時代から縄文時代にかけての遺物包含層、及び青磁片等中世(室町時代)の遺物包含層の存在が確認された。また山田団六地区においても黒曜石製、安山岩製の剝片等旧石器時代から縄文時代にかけての遺物包含層を確認した。これにより各地区における遺跡の分布範囲を"竹木場前田遺跡"、"菅年田西山遺跡"、"団六 II 遺跡"としてそれぞれに周知化を行った。

新成渕幹線用水路計画地区内における遺跡の広がりは、竹木場前田地区1,800㎡、菅牟田西山地区3,100㎡、山田団六地区1,900㎡の合計6,800㎡であり、個別協議を重ねた結果、竹木場前田地区の1,800㎡と山田団六地区の310㎡の合計2,110㎡が調査対象となった。

# (27) 浜玉町 (大岩地区)

大岩地区 (東松浦郡浜玉町大字横田下字大岩:確認調査対象面積0.45ha) は唐津市との市町 境に位置する鏡山 (標高283.7m) の北東斜面 (標高45~65m) であり、横田下古墳が立地する 丘陵から草場溜池の南側を迂回した後、鏡山丘陵斜面を延楽寺方向へと向かう路線である。

当該地区は周知外であるが、北側には草場古墳群が隣接しており、更に250m北側の同一丘陵 先端部には国史跡の横田下古墳が立地している。

掘削予定地を対象に5箇所の試掘溝を設定したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

### (28) 鎮西町 (上場地区 (打上工区))

上場地区については打上工区が対象となった。打上工区(東松浦郡鎮西町大字打上字中通:確認調査対象面積10.0ha)は上場台地北部の狭隘な盆地(標高88~105m)で打上ダム、打上小学校、打上中学校、中通集落に囲まれた水田地帯であり、棚田と丸野溜池をはじめとする大小の溜池が独特の景観を作り出している。

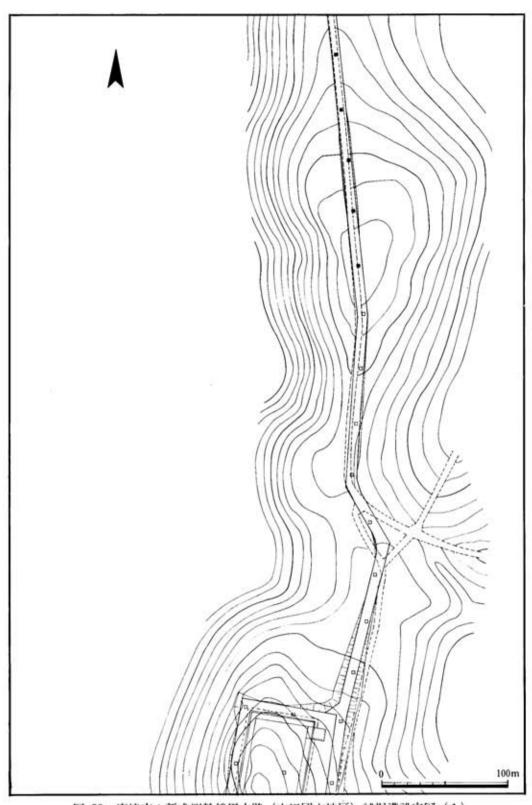


図 52 唐津市:新成渕幹線用水路(山田団六地区)試掘溝設定図(1)

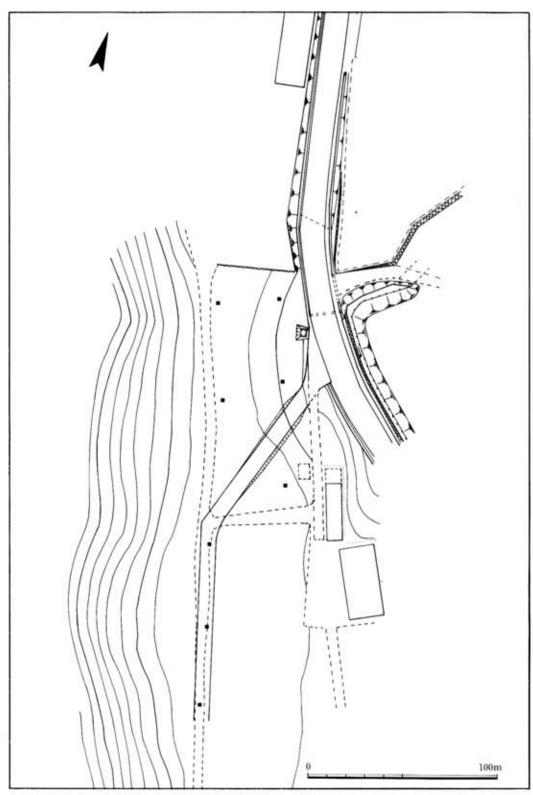


図 53 唐津市:新成渕幹線用水路(山田団六地区) 試掘溝設定図(2)

当該地区は周知外であるが、周辺には今倉工遺跡(旧石器時代の遺物散布地)、今倉遺跡(弥 生時代の遺物散布地、近世の窯業跡(?))等が点在している。

削平予定部分を対象に試掘溝を2箇所設定したが、遺構・遺物とも確認できなかった。

## (29) 肥前町 (上場地区 (杉野浦工区))

上場地区については杉野浦工区(支線道路)が対象となった。杉野浦工区(東松浦郡肥前町 大字杉野浦字上場:確認調査対象面積0.2ha)は伊万里市との市町境に位置し、西方向にイロハ 島を望む上場台地の南西端部(標高40~139m)である。計画路線は中浦集落から南に下り、町 道・湯野浦~万賀里川線を東西に横断した後、台地の斜面を降りて杉野浦集落に至る。

当該地区は周知外であるが、周辺には杉野浦遺跡、餅田遺跡等の旧石器時代から縄文時代にかけての遺物散布地が近接しており、北西方向3kmには上倉ダム建設に伴う調査により旧石器時代の遺物包含層を良好な状態で検出した川原田遺跡が立地している(松尾吉高 1983 『川原田遺跡』 肥前町文化財調査報告書第3集 肥前町教育委員会)。

削平部分を対象に1箇所の試掘溝を設定して確認調査を行ったが、遺構については検出できなかった。また遺物についても表土より黒曜石製のチップ1点を検出したに止まった。

## 6. 筑後川下流用水事業(佐賀東部導水路)に係る調査

水資源開発公団(筑後川下流用水建設所)による筑後川下流用水事業に係る文化財の確認調査は、佐賀東部導水路の久保泉東部工区(佐賀市)と、北茂安中部工区(北茂安町)の2工区について行った。

久保泉東部工区(佐賀市久保泉町大字上和泉、下和泉:確認調査対象面積0.37ha)は脊振山 系南麓部の、神埼町との市町境付近に広がる沖積平野(標高5~9m)であり、南北方向に延 長780mの規模で延びる流路の周辺部は、基盤整備事業予定地区の久保泉東部地区にあたる。

当該地区は本村遺跡(弥生~古墳時代、及び中世の集落跡)の分布範囲内で、周辺にも北宿 遺跡、白石原遺跡、泉遺跡等の同時代の集落跡が隣接しており、地区の東側には昭和52、53年 度に基盤整備事業に関連して調査が行われ、弥生時代から中世に至る複合遺跡であることが確 認された尾崎利田遺跡(神埼町)が立地している(天本洋一他 1980 『尾崎利田遺跡』 佐 賀県文化財調査報告書第55集 佐賀県教育委員会)。

水路掘削予定部分を対象に19箇所の試掘溝を設定した結果、地区南半部の県道・小城~北茂 安線に接する地域で、中世から近世にかけての土壙、小穴群を確認した。

個別協議を行った結果、遺跡が分布する1,786m について調査を実施することに決した。

北茂安中部工区(三養基郡北茂安町大字東尾:確認調査対象面積1.2ha)は国道34号線の南側に寒水川の沖積作用により形成された平野の中央部(標高5~6m)に位置し、寒水川より東方向に1,300mの規模で計画流路が延びる。

当該地区は周知外であるが、北方の丘陵上には東尾遺跡(弥生~古墳時代の集落跡・墳墓群; 銅剣が出土)、西尾遺跡(弥生~古墳時代の集落跡・墳墓群;銅矛が出土)等が立地する。

13箇所の試掘溝を設定して確認調査を実施したが、遺構・遺物とも検出できなかった。

# IV. 平成元年度発掘調査の概要

# ( 佐賀東部地区における調査 )

(1) 山浦新町遺跡 (略号: FYS)

### 遺跡の所在地

鳥栖市山浦町字山浦新町

## 調查主体考

鳥栖市教育委員会

### 調查期間

平成元年8月~平成2年1月

#### 調查面積

7.200m3

### 遺跡の概要



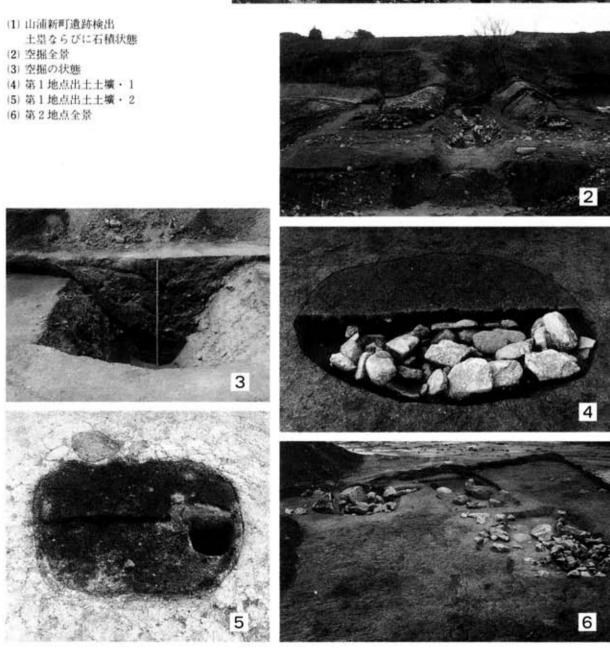
図54 山浦新町遺跡周辺地形図(1:25,000)

山浦新町遺跡は、鷹取山(290.3m)から南西方向へと延びる標高約70~80mの丘陵上、及び 谷部に位置しており、従来古墳時代の遺跡として知られていたが、今回の調査で新たに中世の 遺構が存在することが判明した。

発掘調査は3地点において実施し、古墳1基、古墳であった可能性のある集石2箇所、中世の集落跡、中世の城郭群に伴う空堀等を確認した。また遺物についても古墳内部より須恵器、土師器類多数、鉄刀1振、玉類をはじめ、瓦質土器、陶器、土鈴、火縄銃の鉛弾等を検出した。 古墳については古墳時代後期(6世紀後半頃)の横穴式石室墳で、石室の腰石から下部が残存していた。

また、中世の遺構はいずれも16世紀頃に鳥栖地方を中心に活躍した筑紫氏に関連すると思われ、特に空堀は延長約500~600m、深さ5~6mにも及ぶもので、木戸口と考えられる施設を備えており、勝尾城郭群の総構の堀にあたるものと判断される。更に同時期の集落跡は木戸口から伸びる道路を基準に整然と配置されていることから、勝尾城下に広がる町屋遺構(城下町)と考えられる。





# (2) 柳の元遺跡 (略号: FTY)

# 遺跡の所在地

鳥栖市立石町字柳の元

# 調查主体者

鳥栖市教育委員会

# 調查期間

平成元年7月~11月

#### 調查面積

6.400 m3

### 遺跡の概要

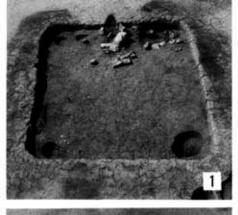


図56 柳の元遺跡周辺地形図(1:25,000)

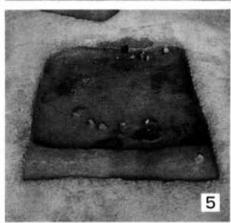
柳の元遺跡は鳥栖市の西部、所熊山と笛吹山の間に南北方向に広がる標高約40mの小沖積低地に立地する。調査対象地区は所熊山が西へ伸びる山裾にあたり、従来北西に縄文・弥生時代の野副遺跡が所在する以外、この沖積低地には遺跡の存在は知られていなかった。また、野副遺跡についても遺跡の実態は明らかではなく、今回の柳の元遺跡の調査を通じて、初めてこの地域の一端が明らかになった。

調査の結果、住居跡6軒、倉庫と考えられる大型の柱穴群1棟分、その他小柱穴多数、土壌 数基を検出した。また、遺跡の東側には水路と思われる1条の溝が南北方向に走っていること が確認され、住居跡など遺構はすべて溝の西側で確認された。この溝からは住居跡と同時期の 須恵器・土師器片が出土したが、これら集落関連遺構との関係を明らかにすることはできなか った。

これら諸遺構に伴って、須恵器・土師器類、鉄鏃2点、鞴の羽口、鉄鐸各1点が出土した。 いずれにしてもこれらの調査結果から、遺跡は平安時代前期の集落跡であることが明らかになった。注目される点は、住居跡が10軒に満たない小集落として完結していること、小集落の割りに鞴の羽口など製鉄関連遺物を出土していることなどで、平安時代の集落を考える上で貴重な資料といえる。









- (2) 住居跡内土器出土状況
- (3) 検出住居跡・2
- (4) 住居跡内の竈の状況
- (5) 検出住居跡·3
- (6) 検出住居跡·4







(3) 立花西遺跡 (略号:TBN)

# 遺跡の所在地

三養基郡基山町大字園部字立花

# 調查主体者

基山町教育委員会

### 調查期間

平成元年6月~9月

## 調查面積

2.500m1

## 遺跡の概要

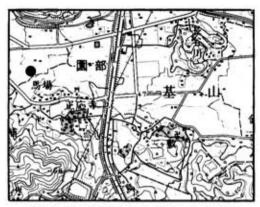


図58 立花西遺跡周辺地形図(1:25,000)

立花西遺跡は、町東部の杓子ヶ峰から北東方向へ延びる丘陵上に位置する。遺跡一帯は、標高6.4~6.8mで、高低差の大きい段丘状をなしている。遺跡の東方約500mには、縄文時代晩期から中世にかけての遺構・遺物が出土した立花遺跡が所在する。

検出した主な遺構は、井戸1基、土壙6基、溝跡2条である。ほかはほとんどが小穴、及び 不定形の土壌で、掘立柱建物跡や住居跡等は認められなかった。この地区では、以前にかなり の掘削がなされていたと考えられ、本調査区内においても削平された遺構が随所に見られた。

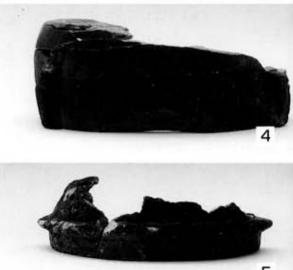
この状況の中で比較的に良好な状態で検出できたものが、調査区のほぼ中央に位置する大規 模な溝跡である。この溝跡は東西を掘削によって切られているものの、多量の土師器、陶磁器、 瓦器とともに石鍋、滑石製品、鉄剣、鉄鉾、鞴の羽口等が埋土中から出土した。陶磁器には、 龍泉窯系及び同安窯のものが認められ、12~14世紀の年代が与えられることから、本遺跡の遺 構・遺物もこの時期内におさまるものと考えられる。



- (1) 立花西遺跡 I 区近景(南から)(2) II区近景(南から)
- (3) 出土遺物
  - (上:滑石製品) 下:鉄剣
- (4) 出土遺物(石鍋)
- (5) 出土遺物(石鍋)







# (4) 本竿遺跡 (略号: MZO)

遺跡の所在地

三養基郡基山町大字園部字本竿

# 調査主体者

基山町教育委員会

# 調査期間

平成元年6月~9月

## 調查面積

1,500m<sup>3</sup>

# 遺跡の概要

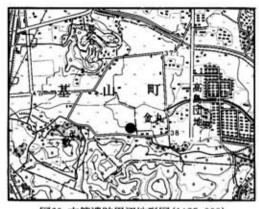


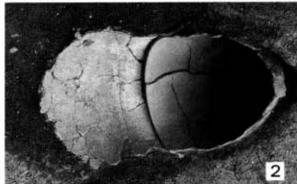
図60 本竿遺跡周辺地形図(1:25,000)

本竿遺跡は、鳥栖市との境をなしながら東西に延びる三ヶ敷・金丸丘陵の北麓に存在する。 遺跡は周辺地に比べてやや高い位置にあり、本来は舌状丘陵であったと考えられる。現状は標 高41m前後で、農地化のためほぼ平坦となっている。周囲には、金丸遺跡等の弥生時代の遺跡 群が密集している。

検出した主な遺構は、甕棺基3基、土壙11基、掘立柱建物跡1棟である。遺構はかなり多く 検出できたが、不定形のものや若干の小土器片のみ出土するものが多く、性格が明瞭なものは、 ごく僅かであった。甕棺墓3基は、成人棺2基、小児棺1基で近接して存在しているが、いず れも棺上半が削平されており、また副葬品は出土しなかった。遺跡全体の時期としては、弥生 時代中期前半頃と考えられる。本遺跡は、鳥栖市までおよぶ弥生時代を主体とする遺跡の一部 と考えられ、周辺地域における調査成果を踏まえた上で、初めて考察できるものである。



- (1) 本竿遺跡調査区全景(東から)
- (2) 1号獎棺墓(東から)
- (3) 2号装棺墓(北から) (4) 3号装棺墓(西から)







# (5) 原古賀遺跡群

原古賀一本谷Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡

(略号: HID-I·II·III) 遺跡所在地

三羲基郡中原町大字原古賀字一本谷

# 調查主体者

中原町教育委員会

### 調查期間

平成元年8月~11月

#### 調查面積

2,400m<sup>t</sup>

### 遺跡の概要

原古賀―本谷遺跡は切通川によって形成された谷底平野に位置し、標高28mを測る。

図62 原古賀一本谷 I · II · III遺跡周辺地形図(1:25,000)

I区で検出された遺構は堅穴住居跡4軒、堀立柱建物跡11棟、土壙48基、溝跡4条、小穴等 である。堅穴住居跡は4m×4.5mの規模で、主柱穴は4本である。掘立柱建物跡は2間×2間 の総柱が5棟、2間×3間が2棟、2間×3間で南側に廂がつくもの2棟、1間×4間が1棟、 1間×1間が1棟である。土壙には土器溜めや、焼土、炭化物、灰等を含むものがある。

遺物は須恵器、土師器、黒色土器(内黒、両黒)、越州窯系青磁碗、緑釉陶器、砥石、鉄製紡 鍾車等がある。土器には墨書土器があり、「川□」、「川邊」、「十」、「東」、「□前国□□□」等が 判読できる。また持ち運びが可能な竃が出土している点が注目される。遺跡の時期については、 8世紀から9世紀頃と考えられる。

II区で検出された遺構は堅穴住居跡 4 軒、掘立柱建物跡 2 棟、土壙 8 基、小穴等である。堅 穴住居跡は調査面積が狭いこともあって全体を発掘できたものはなかったが、およそ4m×4 mと6m×6mの規模の2種類が存在する。主柱穴、ベッド状遺構は明確でなく、竃も検出で きなかった。掘立柱建物跡はいずれも2間×2間で、総柱の倉庫と思われる。出土遺物は少な いが、完形の杯蓋のセットと土鍋が出土している。杯蓋は住居内より配置されたそのままの状 態で出土しており、土鍋は土壙からの出土遺物である。時期はいずれも8世紀後半頃であろう。

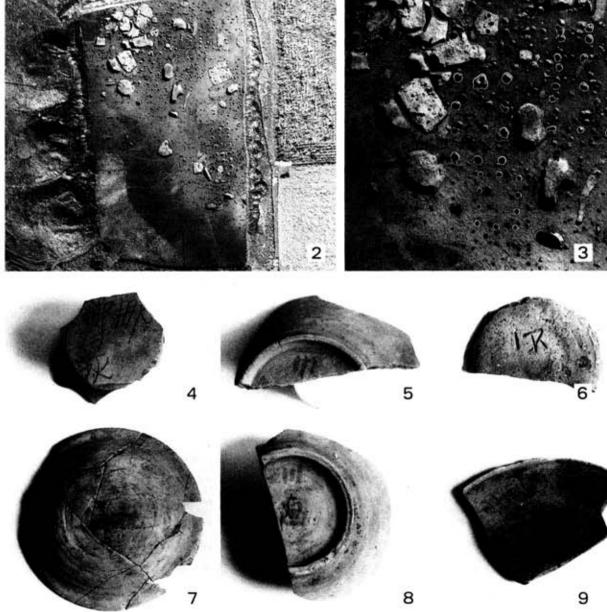
Ⅲ区で検出した遺構は掘立柱建物跡1棟、溝跡1条、小穴等である。掘立柱建物跡は2間× 2 間の総柱の倉庫と思われる。遺物は建物周辺からはほとんど出土しなかったが、小穴内から 内面に文字をヘラ描きした高杯が出土した。文字は「那屋ヵ秋ヵ」と書かれているが、意味す る内容は不明である。

本遺跡は奈良時代から平安時代の製鉄に関係していた地方豪族の屋敷跡と考えられ、中原町 における古代の集落の在り方を考えるうえで貴重な資料と言える。



- (2) 原古賀一本谷 I 遺跡調査区全景
- (3) 1遺跡調査区北側中央部
- (4) Ⅲ遺跡ピット内出土遺物
- (5) I遺跡SK007内出土遺物
- (6) I遺跡SK041内出土遺物
- (7) I 遺跡 P139内出土遺物
- (8) I遺跡SK010内出土遺物
- (9) I 遺跡 S K 007内出土遺物





# (6) 原古賀遺跡群

usc が さんぱんがに 原古賀三本谷Ⅱ・Ⅲ遺跡

潰跡所在地

(略号: HSD-II·III)

三菱基郡中原町大字原古賀字三本谷

# 調査主体者

中原町教育委員会

# 調查期間

平成元年6月~8月

## 調查而積

2.600m3



図64 原古賀三本谷II・III遺跡周辺地形図(1:25,000)

## 遺跡の概要

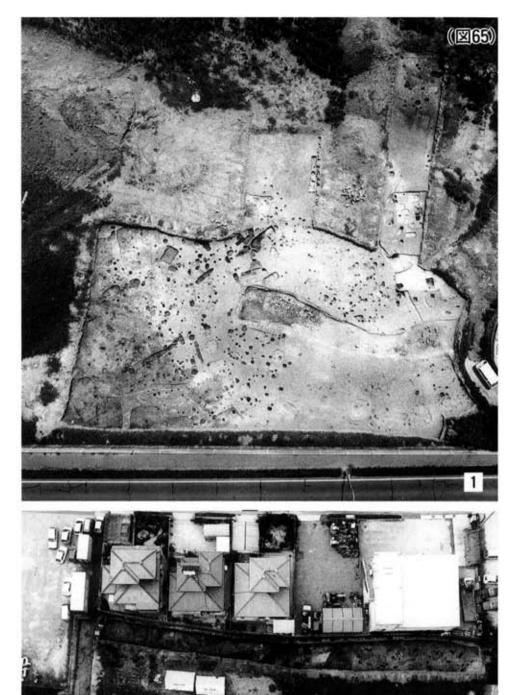
本遺跡は切通川によって形成された谷底平野に位置し、標高18~20mを測る。遺跡の北方 約100mには1989年度に調査を実施した原古賀三本谷遺跡がある。調査は北側の削平部と南側の 水路部に分けて行ない、北側を原古賀三本谷Ⅱ遺跡、南側を原古賀三本谷Ⅲ遺跡とした。

原古賀三本谷遺跡から検出した遺構は、弥生時代中期の堅穴住居跡11軒、土壤44基、濫跡 1 条、周溝状遺構 2 基、古墳時代前期の溝跡 1 条、小穴等である。堅穴住居跡は長方形で、大型 の住居跡は不整形ながらベッド状遺構を持つ。土壙には土器溜めと祭祀土壙3基があり、その うち祭祀土壙については、いずれも幅70cm、長さ5m程の溝状で、調杏区の南西隅に位置1... 方形に巡るものと思われる。

また周溝状遺構はいずれも楕円形を呈し、直径は3m程である。古墳時代前期の溝跡は、調 査区のほぼ中央に位置し、わずかに蛇行しながら調査区外西側へと延びる。幅は3~4.5mで、 長さは26m以上、深さは50~80cmで、溝の東端は約80°の角度で立ち上がっている。弥生時代の 遺構から出土した遺物は土器がほとんどで、石包丁2点、砥石1点、土弾1点が含まれる。古 墳時代の遺物としては、溝の底近くからほぼ完形の布留式の甕、二重口縁壺、台付無頸壺が出 土している。

原古賀三本谷Ⅲ遺跡から検出した遺構は堅穴住居跡1軒、土壙39基、溝跡1条、小穴約100個 であり、地区の西側には幅20m、深さ1mから1.5mの自然流路が所在する。遺物については、 溝内より多量の土器と共に鐸型土製品が出土している。これは溝の上層から出土したもので、 共伴土器から弥生時代中期後半頃のものと考えられる。

今回の調査によって、中原町における弥生時代の中心的集落の一つである原古賀三本谷遺跡 の一部が明らかになり、さらに古墳時代前期の遺構が検出されたことによって、集落の変遷を 知るうえで重要な成果を得ることができた。



- (1) 原古賀三本谷Ⅱ遺跡 調査区全景
- (2) 原古賀三本谷Ⅲ遺跡 調査区全景

(7) 宝満谷遺跡 (略号: KHT) ······A

(8) 至浦遺跡 (略号: KMU) ······ B

(8) 二個風粉 (中9. KMO) 11

(9) 原遺跡 (略号: KHR)……C

#### 遺跡の所在地

三養基郡北茂安町大字中津隈字宝満谷ほか 調査主体者

北茂安町教育委員会

# 調查期間

平成元年7月~平成2年1月

# 調査面積

4.000m3

#### 遺跡の概要

図66 宝満谷遺跡・三浦遺跡・原遺跡 周辺地形図(1:25,000)

宝満谷遺跡は、中原町原古賀付近から3kmほど延びた半独立丘陵の中位に位置する。昭和54年に宅地造成に伴って調査を行ない、弥生時代の墓地や7世紀中ごろから8世紀前半にかけての住居跡や土壙等を検出している。

今回の調査地は、丘陵の東端の水田部、標高9~11mの微高地に相当する。調査は I~IV 区に分けて行なったが、いずれも7世紀中頃から8世紀前半にかけての集落の一部であると考えられる。 I 区では多数の小穴を検出し、掘立柱建物跡も7棟確認できた。 II 区は小穴とともに土壙3基、溝跡2条等を検出した。 III 区でも小穴多数とともに土壙4基、不明遺構2基を検出した。土壙のうち1基は壁面及び底部に焼土を確認したことから、火葬墓と考えられる。 IV 区は、調査地区の西側が削平を受けており、遺構の残存状態が悪く、土壙1基と小穴少数を検出したに止まった。

三浦遺跡は、宝満谷遺跡の所在する丘陵と谷部を挟んで対岸の丘陵に位置する。調査地区が南北に200mほど離れていたため、便宜的に調査を南北両地区に分けて行なった。どちらも弥生時代中期~後期初頭にかけての遺跡である。南地区はほとんどが後世に削平を受けており、遺構としては溝跡1条、小穴少数を検出したにすぎなかったが、調査区東側の段落ちした部分に、器台等祭祀用の土器や石包丁などが一括廃棄されており、丘陵上の生活形態を知る上で貴重な資料となった。また、北地区は堅穴住居跡1軒、掘立柱建物跡1棟、土壙1基を検出した。堅穴住居跡は隅丸方形の平面形を持ち、掘立柱建物跡は1間×2間で残存状態は比較的良好である。

原遺跡は宝満谷遺跡と同一丘陵の西端に位置しており、奈良時代と考えられる土壙1基、溝 跡3条、小穴等が検出された。

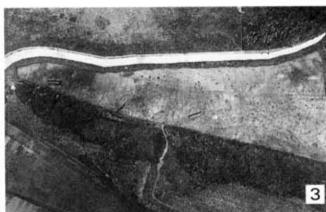
今回の調査によって北茂安町における弥生時代から奈良時代に至る集落跡の広がり、形態な どを検討する上で、貴重な資料を得ることができた。

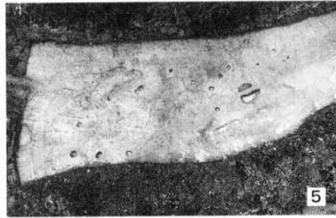


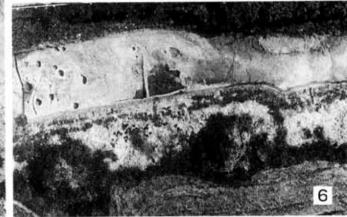
- (1) 三浦遺跡調査区南側全景
- (2) 宝満谷遺跡Ⅲ区全景
- (3) 宝満谷遺跡II区全景
- (4) 三浦遺跡調査区北側 掘立柱建物跡
- (5) 宝满谷遺跡 N区全景
- (6) 三浦遺跡調査区北側全景











# (10) 八藤遺跡 (略号:YTO)

#### 遺跡の所在地

三養基郡上峰町大字堤字八藤

## 調查主体者

上峰町教育委員会

#### 調查期間

平成元年9月~平成2年1月

# 調查面積

3.800m2

#### 遺跡の概要

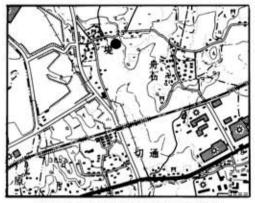


図68 八藤遺跡周辺地形図(1:25,000)

八藤遺跡は、上峰町北部の脊振山系から派生する舌状丘陵の先端付近(標高22~26 m)に 立地している。この南北に延びる丘陵は、西の二塚山丘陵と東の船石丘陵の中間に位置し、西 を切通川、東を切通川支流の大谷川に開析され、東西の両丘陵から独立した丘陵となっている。

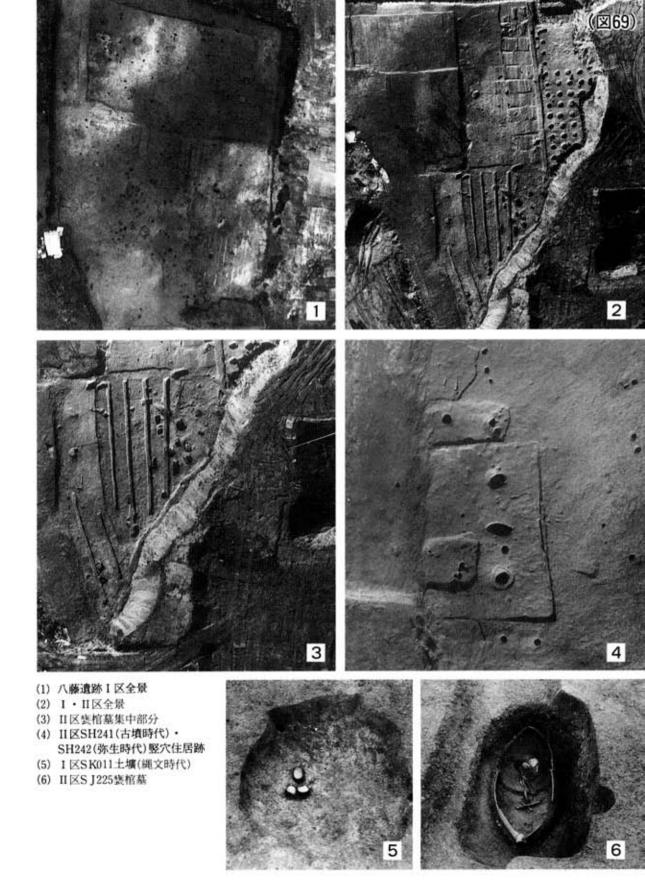
本遺跡の周辺には、西方の二塚山丘陵上に二塚山遺跡、五本谷遺跡、切通遺跡、一本谷遺跡 などが、また東方の船石丘陵上には船石遺跡群が所在しており、弥生時代を中心とした 遺跡が 濃密に分布している。

調査は面工事によって削平される部分3,660m (I・II区)と水路工事で掘削される部分140m (III)について実施した。

I・II区の調査では、弥生時代中期の堅穴住居跡1軒、甕棺墓32基(32基中5基に、人骨が一部遺存)、土壙、古墳時代後期の堅穴住居跡1軒等を検出したほか、縄文時代の所産と考えられる土壙も数基確認した。またこれらに伴い弥生土器片、須恵器片、土師器片、その他石器類が出土しているが、その量は少量である。古墳時代後期の住居跡では北壁際に焼土が散り、一部床面が焼けていることから移動式の竈が使用されていたものと推定される。

III区の調査では、奈良時代の土壙3基を検出し、埋土中から須恵器片、土師器片等を検出した。

今回の調査によって、甕棺墓群は丘陵の先端部分に集中しており、また個々の甕棺墓は、他 と切り合っているものはなく、埋設の方向・傾きなどがほぼ同じで、甕棺の型式的にも弥生中 期後半の範疇に属することが判明したことから、1集団によって営まれた短期の墓域の可能性 が高く、当時の集団の規模・構成を考える上で貴重な資料を得たといえる。



# (11) 船石遺跡 (略号: FNI)

#### 遺跡の所在地

三養基郡上峰町大字堤字二本谷

# 調查主体者

上峰町教育委員会

#### 調查期間

平成元年8月~10月

#### 調查面積

1,100 m3

#### 遺跡の概要

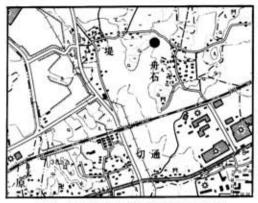


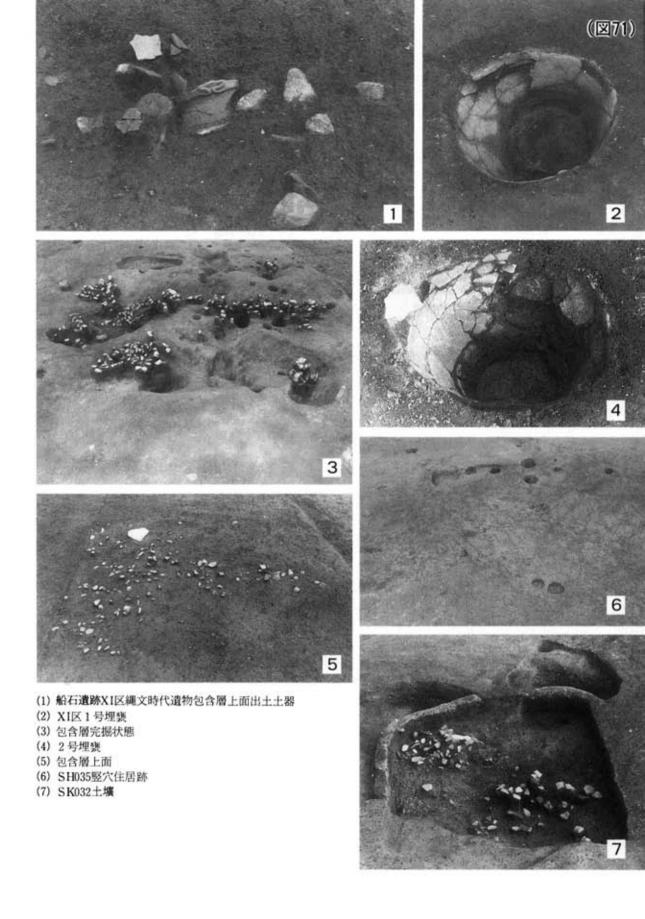
図70 船石遺跡周辺地形図(1:25,000)

船石遺跡は上峰町中央部、切通川東岸に位置し、南北に延びる舌状丘陵の先端付近一帯(標高14~25m)に広がりをもつ、弥生時代を中心とし、縄文時代から中世に至る複合遺跡である。本遺跡周辺には、西方の切通川対岸の二塚山丘陵上に二塚山遺跡、切通遺跡、五本谷遺跡などが所在し、また東南方には多数の甕棺墓等を主体とする墳墓群を有する船石南遺跡が隣接しており、弥生時代の遺跡が濃密に分布している。

本遺跡は、過去に10箇所が調査されており、全国でも最大級の規模の支石墓・甕棺墓群をは じめ、弥生時代から古墳時代にかけての住居跡群、蛇行状鉄剣・鉄矛その他を副葬した5世紀 代の古墳、奈良時代後期の「肥人」のヘラ描き文字をもつ須恵器杯などが出土している。

今回の調査は面工事で削平される部分1,100m (XI区)について実施した。調査区は、遺跡の 西北端部にあたり、確認できた遺構は縄文時代後期の土壌群、埋め甕2基などで、これらに伴 い縄文土器片、石器類がまとまって出土している。しかし、弥生時代の遺構・遺物については 検出できなかった。

前年度及び今年度の調査で得られたような、まとまった縄文時代の遺構・遺物の出土は、今後、町内のみならず、佐賀平野東部の縄文時代研究において貴重な資料となるであろう。また、今回の調査では、弥生時代の遺構・遺物が検出できなかったことから、昭和63年度農業基盤整備事業に伴って実施したIX・X区の調査において検出した弥生時代の遺構が、船石遺跡の弥生集落の北限であることが改めて確認できたといえる。このような、船石丘陵上で観察できる縄文時代から弥生時代へかけての集落の南への移行は、切通川支流の氾濫原の耕地化を裏付けるものであろう。



# (12) 上石動遺跡 (略号: KIN)

#### 遺跡の所在地

神埼郡東脊振村大字石動字四本杉、五本杉、一本松 調査主体者

東脊振村教育委員会

#### 調查期間

平成元年9月~平成2年3月

#### 調杏面積

5,200 m²

#### 遺跡の概要

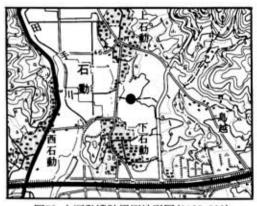


図72 上石動遺跡周辺地形図(1:25,000)

東脊振村は佐賀県の東部に位置し、村南部は脊振山系の南麓で、高中位段丘が南北に細長く 広がる丘陵地帯である。上石動遺跡はこれらの段丘の中の二塚山段丘、目達原段丘が脊振山系 に結び付いた南麓のゆるやかな傾斜地上(標高50m)に立地する、縄文時代から近世にかけて の墓地と集落跡である。周辺には青銅器や鉄器を多く出土した弥生時代の二塚山遺跡群、古代 末から近世の山岳仏教遺跡である霊仙寺跡などがあり、遺跡の密度が高い地域である。

上石動遺跡調査地区周辺は、現況の水田に古墳の痕跡と考えられるものが存在しており、また、隣接する他の遺跡において、古墳や古墳時代の堅穴住居跡がかなりの数確認されている。

上石動遺跡調査地区内では縄文時代晩期の土器棺墓1基と集石遺構3基を確認したが、これはこの時期の墓地とみられる。弥生時代の遺構はないが、古墳時代のものとして、前期の堅穴住居跡1軒と石棺墓4基、横穴式石室を内部主体とした円墳1基を確認した。奈良・平安時代の遺構はなく、鎌倉時代から室町時代にかけての円形周溝墓4基、土壙墓2基、掘立柱建物跡1棟、中近世以降と見られる溝跡が3条、時期が明確でない小穴多数を検出した。特に、柱穴とみられる小穴群は今後図上の検討から掘立柱建物跡の確認が見込まれる。また、江戸時代初頭の灌漑用水路と見られる溝跡1条を確認した。

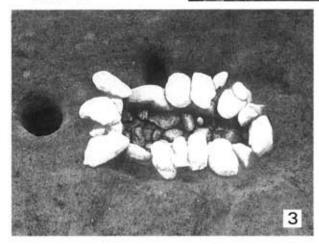
出土遺物としては、縄文時代晩期の土器、石器、並びに古墳時代から中世に至るまでの土師器、須恵器、緑釉陶器、磁器など多種多様である。縄文土器や石器は遺構上面検出時に多く出土しており、遺物包含層の存在する可能性がある。また円形周溝墓や土壙墓からは土師器、青磁等の完形品が出土した。

上石動遺跡の調査においては、検出遺構から縄文時代晩期の墓地と生活跡、古墳時代の集落 跡・墓地、中世の墓地・集落跡の大きく分けて3つの時期の活動痕跡をとらえた。各々の時期 の間に空白期間が有るものの、田手川東岸の石動地区の開発史を考える上で興味深い。また、 目達原段丘上に分布する遺跡とのつながりも検討できる。





- (1) 上石動遺跡第2地区全景 (南から)
- (2) 第2・第3地区(上から)
- (3) 第2地区SC037石棺墓 (北から)
- (4) 第3地区ST048周溝蟇 (北西から)





(13) 姉川 十二本松遺跡 (略号: AJN)

#### 遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字姉川字十二本松

## 調查主体者

神埼町教育委員会

#### 調查期間

平成元年8月~12月

#### 調查面積

530 m<sup>2</sup>

#### 遺跡の概要

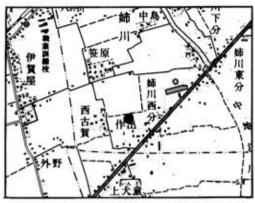


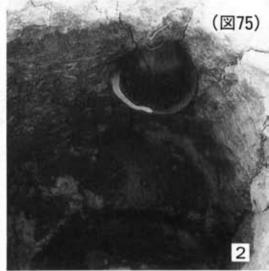
図74 姉川十二本松遺跡周辺地形図(1:25,000)

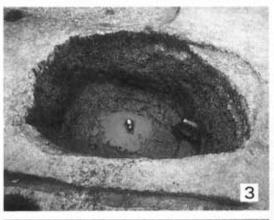
姉川十二本松遺跡は神埼町の南西部、中地江川西岸の標高約3.5mの低平な水田地帯に立地しており、周辺には、姉川城跡、野田城跡などの中世の館跡・環濠集落跡が点在している。調査区は、「トクベエ屋敷」と呼称されており、周辺の水田より一段高く、畑として利用されている。今回の調査は、面工事により削平を受ける部分について実施した。

調査の結果、掘立柱建物跡 3 棟、土壙 4 基、井戸跡 2 基、溝跡 2 条等を検出した。掘立柱建物跡は 1 間× 3 間、 2 間× 4 間、 3 間× 4 間の規模を有し、そのうち 3 間× 4 間のものは東面に廂を持っている。主軸方位は南北方向が 2 棟、東西方向 1 棟である。土壙は、平面隅丸長方形で、一部に破砕した遺物が多量に埋置されていることから、廃棄壙と考えられる。井戸跡は、平面隋円形の素掘りのものである。出土遺物としては、土師器小皿・杯、鉢、陶磁器碗・皿、摺鉢などである。

以上のように、姉川十二本松遺跡においては江戸時代中期の集落跡が存在することが判明し、 近世の社会状況を知るうえで重要な地区であることが明らかとなった。

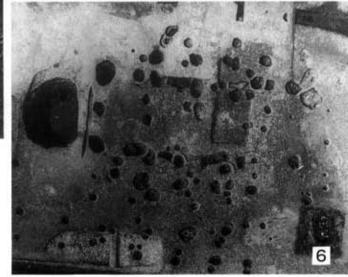












- (1) 姉川十二本松遺跡調査区全景(南から)
- (2) 掘立柱建物跡柱穴内遺物出土状況
- (3) 井戸跡(北から)
- (4) 調査作業の状況
- (5) 土壙
- (6) 据立柱建物跡(東から)

(14) 姉川 十三本松遺跡 (略号:AJS)

#### 遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字姉川字十三本松

#### 調査主体者

神埼町教育委員会

# 調查期間

平成元年8月~12月

#### 調查面積

1,500 m<sup>2</sup>

#### 遺跡の概要

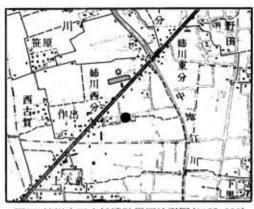
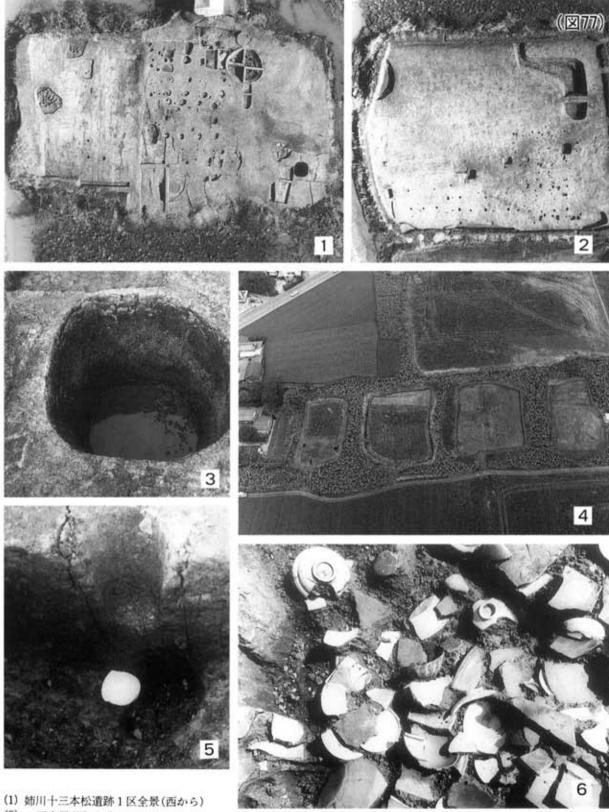


図76 姉川十三本松遺跡周辺地形図(1:25,000)

姉川十三本松遺跡は神埼町の南西部、中地江川の西岸の標高約3mの低平な水田地帯に立地 しており、周辺には本告牟田遺跡、姉川城跡、野田城跡などの中世の館跡・環濠集落跡が点在 している。調査区は「侍屋敷」と呼称されており、周辺をクリークにより囲まれた6箇所の島 から成り立っている。今回の調査は、工事により掘削される水路部分の1~3区について実施 した。

その結果、掘立柱建物跡6棟、棚列4列、土壙18基、井戸跡4基、溝跡4条、旧クリーク跡などを検出した。掘立柱建物跡は1間×2間、2間×2間、3間×4間が2棟、2間×3間が2棟で、1棟は東面に廂を持っている。主軸方位は南北方向、東西方向3棟である。土壙は、平面形態が方形・隅丸長方形・楕円形で、破砕された遺物が多量に埋置されていることから、廃棄壙と考えられる。井戸跡は、平面形態が円形、及び方形の素掘りのものであり、出土遺物としては土師器小皿、鉢、羽釜、火鉢、陶磁器、下駄、塗器椀、曲物などがある。

以上のように、姉川十三本松遺跡においては、江戸時代中期の集落跡を確認した。またそれ ぞれの島に建物跡が1~2棟と井戸跡などの施設が存在しており、近世の社会状況を知るうえ で重要な地区であることが判明した。



- (2) 2区全景(西から)
- (3) 井戸跡(南から)
- (4) 姉川十三本松遺跡調査区全景(南から)
- (5) 据立柱建物跡柱穴内遺物出土状況
- (6) 土壤内遺物出土状況

# (15) 岩田遺跡群

岩田芦の元遺跡

(略号: I T A)···A

岩田萩原遺跡

(略号: I T H)…B

岩田横山遺跡

(略号: ITY)…C

## 遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字尾崎字芦の元、萩原、横山 調査主体者

神埼町教育委員会

#### 調查期間

平成元年8月~平成2年2月

#### 調查面積

2.170m3

#### 遺跡の概要

岩田遺跡群は、神埼町北西部の帯隈山と早隈山に囲まれた標高約20mの扇状地に立地しており、周辺には帯隈山神籠石・天神尾古墳などが分布している。

調査は、水路部分と面工事により削平を受ける部分について実施した。その結果、岩田芦ノ 元遺跡を中心として古墳時代から江戸時代に至るまでの遺構の存在を確認した。

岩田芦ノ元遺跡では堅穴住居跡1軒、掘立柱建物跡3棟、土壙2基、井戸跡1基、溝跡などを検出した。掘立柱建物跡は2間×3間、2間×4間以上の規模を持ち、重複しながら密集している。更に周辺には溝跡が走っており、建物跡との関連が想定されるが、時期的には江戸時代に位置付けられる。そのほか調査区東端部では自然の谷を埋立てた盛土の存在を確認した。

出土遺物としては古墳時代の土師器(古式土師器)と近世の陶磁器、土師器小皿、鉢等がある。またハマ・トチンや溶着した陶磁器など、窯関係のものが多数出土していることから、周 辺部に窓跡が存在することも想定される。

岩田萩原遺跡では溝跡、土壙、自然流路等を確認したが、明確な遺構ではなく、遺物もほと んど検出できなかった。

岩田横山遺跡においては古墳時代の遺物包含層と柱穴を確認したが、建物跡としては把握で きなかった。

以上のように岩田遺跡群について3遺跡の調査を実施したが、その内、岩田芦ノ元遺跡では 江戸時代に位置付けられる建物跡を確認し、窯の存在を物語るような窯関係の遺物の出土など 重要な成果を得ることができた。

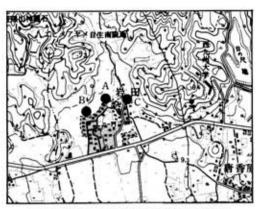


図78 岩田遺跡群周辺地形図(1:25,000)



- (1) 岩田遺跡群(岩田岸ノ元遺跡) 調査区全景(南から)
- (2) 掘立柱建物跡(南から)
- (3) 調查区近景
- (4) 满跡検出状況







# (16) 右原祇園町遺跡 (略号: MBG)

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字鶴字祇園町

調查主体者

神埼町教育委員会

#### 調查期間

平成元年12月~平成2年3月

#### 調查面積

2.300m

#### 遺跡の概要

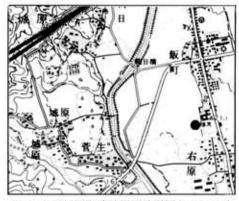


図80 右原祇園町遺跡周辺地形図(1:25,000)

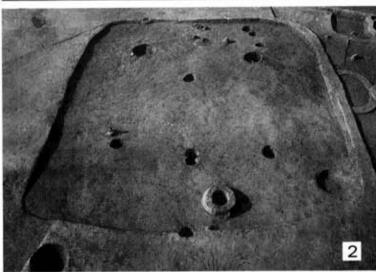
右原祇園町遺跡は神埼町北部の城原川西岸の氾濫原に形成された標高約12mの微高地上に立地し、これまでは遺跡の存在は確認されていなかった地区である。

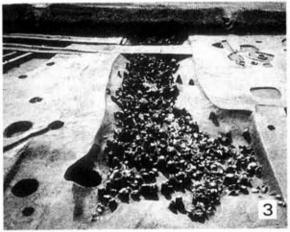
調査は圃場整備事業によって削平される部分、及び水路予定地を対象とした。その結果、堅 穴住居跡8軒、掘立柱建物跡3棟以上、溝跡6条、土壌、そして溝跡によって囲まれた方形区 両1箇所等を確認した。堅穴住居跡は調査区南半分に集中しており、平面形態は方形で竈を持 っている。また1辺9m以上の大型の堅穴住居跡も存在する。時期的には弥生時代後期から古 墳時代前期までのものと、古墳時代後期に位置付けられるものとが存在する。なお堅穴住居跡 の中には鉄器を集中して出土したものが認められた。掘立柱建物跡は1間×2間の規模で、堅 穴住居跡と同じ分布形態を呈しており、時期的には弥生時代のものと古墳時代のものとが認め られるが、土壙については弥生時代後期の土器を出土するものが多い。

今回の調査において特に注目される遺構として、調査区の北部に位置する1辺約25mほどのコの字形に廻る溝跡を伴う遺構がある。溝跡はほぼ方形に巡るものと考えられ、埋土中からは数百個体に及ぶ古墳時代前期の土器が、ほば完形に近い状態で全域から出土した。これらは、この時期の土器組成のほぼ全部の器種が含まれているが、地区によっては高杯・小型丸底壺などが集中する部分が存在する。また内部には掘立柱建物跡と考えられる柱穴列が認められることから、居館跡の可能性が高い。

以上のように本遺跡は弥生時代後期から古墳時代に至る集落跡であるが、今回調査を実施し た調査区の東端には旧河川の流路が谷状に走っており、遺跡の立地と構造を明らかにする事が 今後の課題となろう。









- (1) 右原祇園町遺跡堅穴住居跡 (南から)
- (2) 堅穴住居跡(南から)
- (3) 方形区画溝跡内土器出土状況 (東から)
- (4) 方形区画内掘立柱建物路 (東から)

(17) 船塚遺跡 (略号:FNT) 遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字志波屋字六本松 調査主体者

神埼町教育委員会

# 調查期間

平成元年10月~平成2年3月

#### 調查面積

1.700m3

#### 遺跡の概要

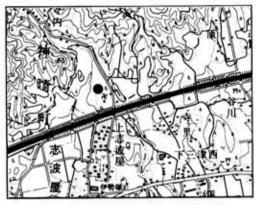


図82 船塚遺跡周辺地形図(1:25,000)

船塚遺跡は神埼町の北東部、標高約40mの段丘上に立地している。調査は農道整備事業に伴い実施し、昭和58年度調査区の東に隣接した地区を対象とした。

調査の結果、昭和58年度の調査において検出したものと同様の土層の堆積が認められ、旧石器時代から江戸時代にかけての遺構を検出した。第 I ~ IV層は江戸時代から古墳時代までの遺構が認められ、 I ~ III層では近接する真龍寺に関係すると考えられる溝跡、及び中世と思われる石組の贋や集石の構造を持つ経塚、IV層では堅穴住居跡3 軒、及び古墳時代後期の、章石を持った古墳1基を検出した。また V ~ VI層には縄文時代早期・前期・晩期の遺構・遺物が包含されている。なおIV層下 ~ V層上にかけて縄文時代晩期の溝跡を確認し、突帯文土器や各種の石器を検出した。この時期の遺構及び遺物としては、昭和58年度調査においても堅穴住居跡が検出されており、溝跡を伴った集落跡の存在を物語っている。早期・前期の遺構、及び遺物はV ~ VI層に包含されており、多数の土壙、及び集石等の遺構を検出した。旧石器時代の遺物としてはVII層中から検出した瀬戸内技法によって作り出された安山岩製の石器群がある。この石器群は昭和58年度調査で確認した石器群と比較した場合、組成の中に黒曜石製の石器を極少量しか含んでおらず、組成の上からも、また時期的な面からも今後の検討が必要である。なお今年度の調査では昭和58年度調査でその存在の可能性が認められた細層より石器群を確認しており、国府型ナイフに酷似するものを検出した。

以上のように、今年度の調査では昭和58年度調査結果と類似した資料が検出され、遺跡のほ は全容を把握できる結果を得た。特に旧石器時代の石器群については、火山灰の分析を行った 結果、WI層中からAT火山灰の存在を物語る火山ガラスを検出している。今後は国府型ナイフ に酷似する資料の存在など、各石器群の詳細な分析と年代決定が課題となるであろう。









- (1) 船塚遺跡土層堆積状況(2) 経塚全景(東から)
- (3) 縄文晩期の溝跡(北から)
- (4) 遺物出土状況

# (18) 貴別当神社遺跡 (略号:KBT)

# 遺跡の所在地

神埼郡千代田町大字下西字二本松 調查主体者

千代田町教育委員会

# 調查期間

平成元年9月~平成2年1月

#### 調查面積

1,600m3

# 遺跡の概要

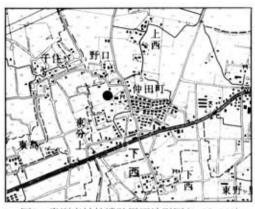


図84 貴別当神社遺跡周辺地形図(1:25,000)

費別当神社遺跡は、千代田町の西部、佐賀市境の標高3.4mの沖積平野に立地する。この遺跡 は古くから周知されており、また支石墓の可能性を持つ石組み遺構が所在する佐賀平野南端の 遺跡としても知られている。遺跡の南方には、余江西二本松遺跡、西方には佐賀市千住遺跡、 東方には川崎遺跡など弥生時代から中世に至る遺跡が点在する。調査は圃場整備事業により掘 削、削平を受ける水路、農道部分について行った。

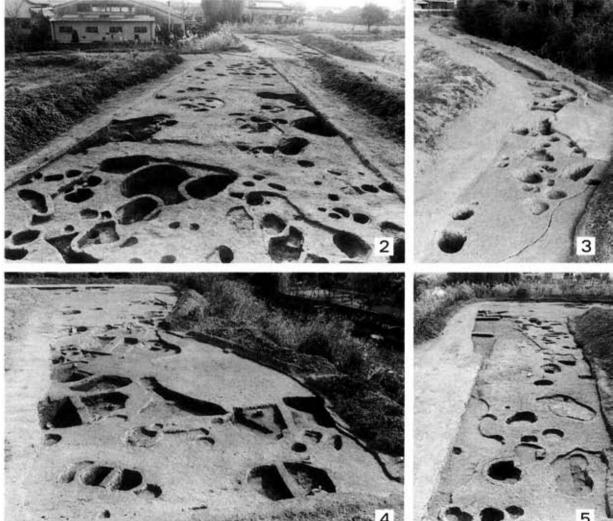
費別当神社遺跡から検出した遺構は掘立柱建物跡 1 棟、土壙、貯蔵穴67基、井戸跡10基、溝跡 1 条、甕棺墓(?) 1 基、その他不明遺構29基、並びに大小多数の柱穴群である。

また調査区東側では貝層(カキを主体とする層)が厚さ10cm、長さ20m程にわたって確認されたが、近世の掘削等より破壊された部分が多く、全容は不明である。この層の上には弥生時代中期の土器包含層があり、多量の土器が30~40cm程の厚さで堆積していた。

出土遺物は縄文時代晩期の土器 (甕、壺、高杯等)、弥生時代の土器 (甕、壺、鉢、高杯、器 台、蓋、支脚等)、石器 (石包丁、砥石、石鏃、凹石、磨石等)、木製品 (堅杵、自在鉤状木製 品、柱材等)、土製品 (投弾)、碧玉製管玉、ガラス製小玉など多岐にわたる。

以上のように、貴別当神社遺跡の調査により、多大の資料を収積することができた。またこの地方は有明海をルートとする文化の帰着地であり、詫田西分貝塚、姉遺跡と並ぶ弥生時代の海岸線付近の一大集落として栄えた地域であり、この調査結果に基づき、今後有明海沿岸の弥生集落を解明していきたい。





- (1) 貴別当神社遺跡調査区北側全景
- (2) 調査区中央部全景
- (3) 調查区東側全景
- (4) 調查区南西側全景
- (5) 調査区南側全景

( 佐賀西部地区における調査 )

(19) 本村遺跡 (略号: HMR-1~6) 遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字下和泉字一本松、二本松 調査主体者

佐賀市教育委員会

#### 調查期間

平成元年6月~10月

#### 調查面積

5.841m1

#### 遺跡の概要

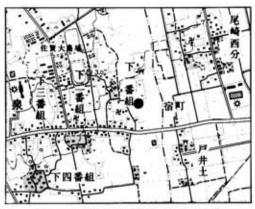


図86 本村遺跡周辺地形図(1:25,000)

本村遺跡は佐賀市域の北東部に所在し、神埼町との境界に接する。脊振山系から派生した帯 隈山の南方に位置し、周辺は広い水田地帯で、そのなかに高畑が点在する。遺構はこうした高 畑を中心に残存しており、標高6~7mで検出された。調査区は工区により、1~6区に分散 している。

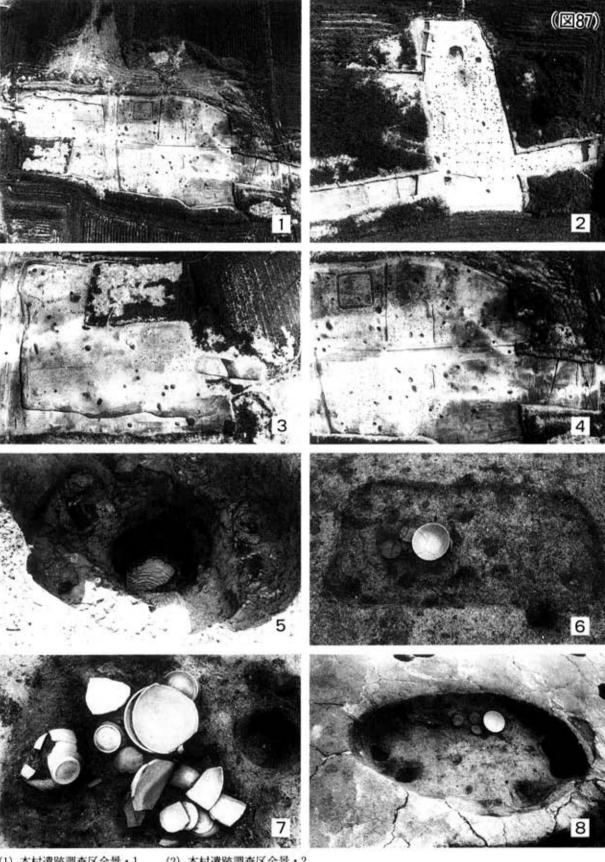
本村遺跡周辺では、東方500mの地点で尾崎利田遺跡(神埼町)の調査が行われているが、その遺構・遺物の内容は、今回の調査成果と合わせて、両遺跡が本来同一遺跡であることを物語っている。

本村遺跡は古墳時代から近世に至る複合遺跡で、古墳時代の遺構は1区、中世の遺構は1・ 2・3・4・6区、近世の遺構は5区からそれぞれ検出した。

1区の調査については面積が広いこともあって多大な成果を挙げた。古墳時代の遺構としては堅穴住居跡、土壙、井戸跡を検出しており、古式土師器のまとまった資料を得た。中世の遺構は平安時代後半から鎌倉時代にかけて継続しており、内部に掘立柱建物跡、井戸跡、土壙等を伴う方形区画の溝跡を2箇所で検出した。方形区画 I は南北長約50m・東西長約41mの略方形をなし、方形区画 II は南北約60m・東西50m以上の台形状をなす。またこの内部で19棟の掘立柱建物跡を確認したが、これらは2ないし4期の分類が可能である。この方形区画の溝跡は土壙幕、井戸跡等を切っていることから、中世最後の段階で掘削されたものと思われる。

現況の高畑の区画は方形区画 I・IIの区画域とほぼ一致しているが、このことは高畑の盛土が行われた近世のある時期まで、周囲の人々に地割として意識されていたことを示している。 また、瓦器、土師器、磁器の良好な一括遺物を得、6区では青銅製柄鏡を副葬した土壙墓を検出した。

なお、この調査成果は、佐賀市文化財調査報告書第28・29集で報告を行っている。



- (1) 本村遺跡調査区全景·1
- (3) 方形区画 I 全景
- (5) SE301井戸枠板出土状況
- (7) P1001遺物出土状況
- (2) 本村遺跡調査区全景・2
- (4) 方形区画 II 全景
- (6) SP170
- (8) SP232

# (20) 南宿遺跡 (略号: NSK)

#### 遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字下和泉字南宿、永屋 調査主体者

群を伴う方形区画の構造は注目に価する。

佐賀市教育委員会

#### 調查期間

平成元年4月

#### 調查面積

550 m<sup>3</sup>

#### 遺跡の概要



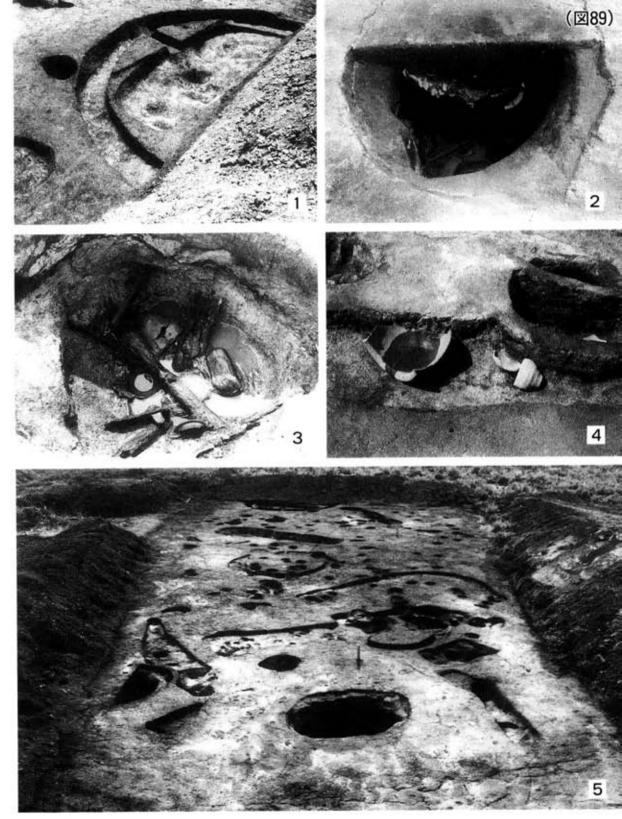
図88 南宿遺跡周辺地形図(1:25,000)

南宿遺跡は佐賀市域の北東部に位置する。周辺は南に向って広がる水田地帯で、その中に高 畑が点在している。今回の調査地点は、そうした高畑の一部分で、標高6mで遺構を検出した。 南宿遺跡の周辺には周知の遺跡群が密集している。発掘調査例は未だ多くはないが、近年の 調査件数の増加により、弥生時代から中世にかけての様相については解明されつつある。特に 村徳永遺跡に見られる弥生時代の大規模集落の在り方と、本村遺跡における中世の掘立柱建物

今回の調査で確認した主な遺構は井戸跡2基、土壙9基、溝跡3条、周溝状遺構3基等である。遺構及び出土遺物の大部分は弥生時代中期のもので、後期のものも一部存在しており、その他少数の近世遺物が出土した。

検出した遺構のうち、SK003・004・013・014土壙は、いずれも埋土中から弥生時代中期土器の破片がまとまって出土しており、埋没の過程でゴミ捨て場として機能していたものと思われる。また、SR002周溝状遺構は、周溝の内部に長方形の土壙が存在し、特異な形態を示している。堅穴住居跡は検出できなかったが、この地区は集落跡の一部にあたると思われる。弥生時代の遺構に切り合い関係が少ないことから、継続的な集落ではなかったものと考える。

なお、この調査成果については佐賀市文化財調査報告書第28集で報告を行っている。



- (1) SR002
- (2) SE001土層断面
- (3) SE001遺物出土状況
- (4) SR008遺物出土状況
- (5) II区全景

(21) 村徳永遺跡D·E·F·G·H地区 (略号: MTN-D·E·F·G·H)

#### 遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字上和泉字德永

#### 調查主体者

佐賀市教育委員会

#### 調查期間

平成元年6月~12月

#### 調查面積

10,250m3



図90 村徳永遺跡周辺地形図(1:25,000)

## 遺跡の概要

村徳永遺跡は佐賀市の北部、脊振山系南麓から南に向かって開ける沖積平野部に位置しており、標高約5.5~7.0mを測る。遺跡は南北に流路をとる巨勢川の東岸一帯に広がっている。

村徳永遺跡については昭和63年度にA・B・C地区の調査を行い、中世の掘立柱建物跡、井戸跡、溝跡、土壙等を検出したが、今回の調査では弥生時代を中心として縄文時代から中世に至る各時代の遺構・遺物の存在を確認した。

弥生時代の遺構としては、掘立柱建物跡、堅穴住居跡、井戸跡、溝跡、土壙、周溝状遺構などを検出した。なお、掘立柱建物跡については70棟を検出しており、多くの柱穴から柱根を検出したが、その中には横木を組んだものや枕木を渡したものなどがあって、柱の下部構造にも多くの形態が存在することが判明した。規模については基本的に1間×1間、1間×2間のものが大部分であるが、2間×2間や平面正方形状を呈する5間×6間、5間×7間のものも存在する。これらは規格の特異性もさることながら、1つの柱穴に対して複数の柱を建てるという、従来の弥生時代の建造物には見られかった建築工法が採られており注目される。

遺物については弥生時代中期後半から後期前半の土器が多量に出土した。更に堅杵、槌、鍬、 鋤、建築部材などの木製品も土器と共伴して出土している。

なお、時期の確定はできなかったものの、鐸形土製品片を2点検出した。

今回の調査結果からは、規模や性格、遺構の占地形態などについて不明な点を残したままだが、規模、内容ともに第一級の遺跡であり、当地における弥生集落の在り方を考える上で特に注目される遺跡である。

- 註1) 木島慎治『村徳永遺跡』 佐賀市文化財調查報告書第32集 佐賀市教育委員会 1990年
- 註2) 木島慎治『村徳永遺跡』 佐賀市文化財調查報告書第26集 佐賀市教育委員会 1989年



- (1) 村德永遺跡F地区全景
- (2) 周溝状遺構群
- (3) 掘立柱建物群
- (4) SB011掘立柱建物跡
- (5) SB015掘立柱建物跡
- (6) SB072掘立柱建物跡
- (7) G地区SB333掘立柱建物跡 (南から)



(22) 古村遺跡 (略号: FMR)

# 遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字上和泉字古村

# 調査主体者

佐賀市教育委員会

# 調查期間

平成元年6月~12月

# 調查面積

2,036m3

#### 遺跡の概要

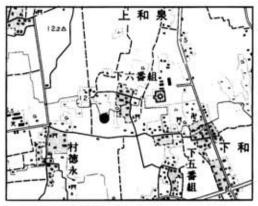


図92 古村遺跡周辺地形図(1:25,000)

古村遺跡は佐賀市北部の沖積平野に位置する。調査地点の標高は9m前後で、高畑として利用されている。

今回の調査では、調査区が2箇所に分散したため、便宜上、南側の水路予定地を1区、北側 の高畑部分を2区とし、調査を実施した。調査の結果、古墳時代から平安時代にかけての掘立 柱建物跡、堅穴住居跡、井戸跡、溝跡、土壙等の存在を確認した。

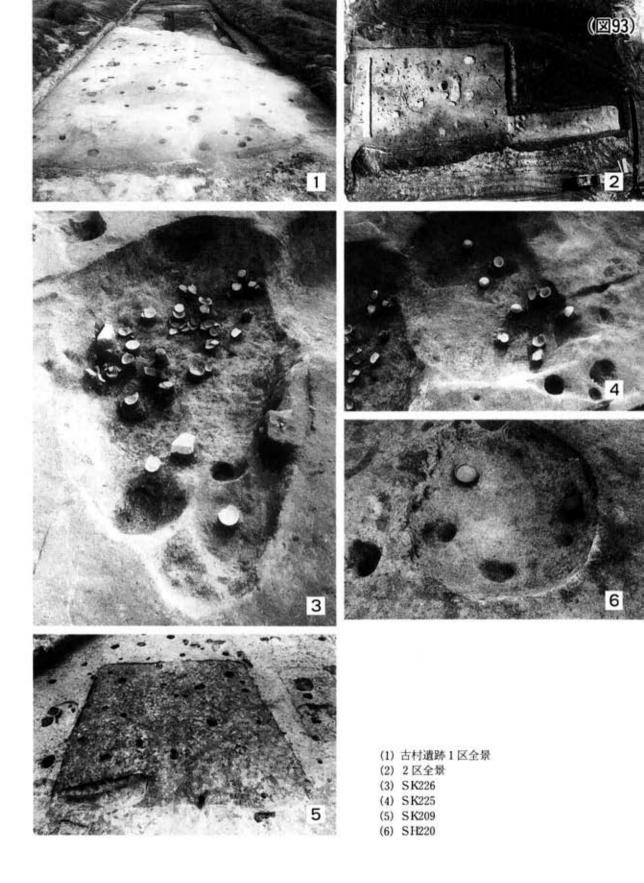
#### 1区

調査区西半部で掘立柱建物跡 1 棟、土壙 4 基を検出したが、遺物についてはほとんど検出できなかった。調査区東半部は、東方向に傾斜する谷地形で、埋土は黒褐色の遺物包含層である。 2 箇所の試掘溝を設定して調査を行い、古墳時代から平安時代にかけての須恵器、土師器の他、 瑪瑠製の勾玉、舟形木製品等を検出した。

#### 2 🗵

古墳時代から平安時代にかけての掘立柱建物跡 5 棟、堅穴住居跡 3 軒、井戸跡 3 基、溝跡 3 条、土壙49基を検出した。なお掘立柱建物跡の内、SB261掘立柱建物跡は 2×2 間 (3.8 m×7.1 m) で廂が付属し、SH220堅穴住居跡は5.3 m×4.7 mの隅丸方形で 4 本の主柱を持ち、竈を備える。なおこれは古墳時代後期の住居跡としては、佐賀市内において初見である。SE221 井戸跡は直径2.7 mの不整方形を呈し、内部から方形の井戸枠を検出した。SK225・226土壙からは平安時代の土師器杯、皿、碗、甕がまとまって出土しており、一括資料として貴重である。また注目されるのは、SK226土壙より緑釉陶器の注口が出土している点である。

以上のように、古村遺跡においては古墳時代から平安時代にかけての集落跡が確認された。 また調査区北側約1kmには古代官道の推定ラインが存在しており、当時の社会状況を考える上 で、重要な遺跡といえる。



# (23) 阿高漬跡 (略号:ADK)

#### 遺跡の所在地

佐賀市北川副町大字光法字阿高

## 調查主体者

佐賀市教育委員会

#### 調查期間

平成元年6月~8月

#### 調查面積

2.600m<sup>2</sup>

#### 遺跡の概要

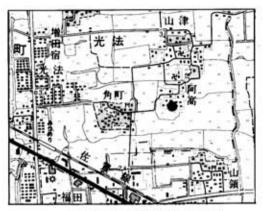


図94 阿高遺跡周辺地形図(1:25,000)

阿高遺跡は、佐賀市城南東部の標高2.5mを測る水田地帯に所在し、周辺には佐賀平野特有の クリーク(堀割)が縦横に巡っている。

クリークによって区画された島状の役高地上には集落が形成されており、阿高遺跡はその中 の1つである阿高集落を中心として分布している。

周辺には柴尾橋下流遺跡(弥生時代~鎌倉時代;佐賀市)、徳富権現堂遺跡・村中角遺跡・唐 人廟遺跡・上大津遺跡(弥生時代~室町時代;佐賀郡諸富町)、蓮池上天神遺跡(鎌倉時代:佐 賀市)などが点在している。今回の発掘調査によって古墳時代から中世にかけての遺構、及び 遺物の存在を確認した。

古墳時代の遺構としては井戸跡、土壙等がある。土壙には小型丸底坩、甕、壺等が遺構下部 に埋置された状況で検出したものもあり、地鎮等の祭祀行為の存在を窺わせる。

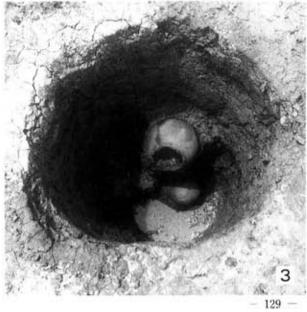
奈良・平安時代から中世にかけての遺構には掘立柱建物跡、井戸跡、溝跡、土壙がある。また鎌倉時代から室町時代にかけての遺構として井戸跡、溝跡、土壙等を検出しており、今回の 調査区ではこの時代のものが最も多い。出土遺物については土師器、瓦器に混じって輸入磁器 (碗・小皿)が見られる。

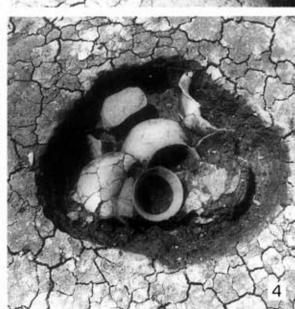
調査結果から阿高遺跡は古墳時代から中世にかけての集落跡ということが判明したが、遺構 の検出状況から、本年度の調査区は集落の縁辺部に相当すると思われ、今後の調査の進展を待 って総合的な判断を下したい。





- (1) 阿高遺跡調査区 (A地区)全景(西から)
- (2) SK006土壙
- (3) SK041土壙
- (4) SK073土壙





(24) 车田客遺跡 (略号: MTY)

# 遺跡の所在地

佐賀市兵庫町大字瓦町字车田寄

# 調査主体者

佐賀市教育委員会

#### 調杏期間

平成元年6月~11月

# 調查面積

 $3.000 \, \text{m}^2$ 

#### 遺跡の概要



図96 牟田寄遺跡周辺地形図(1:25,000)

年田峇遺跡は、佐賀市街東部の標高3mを測る水田地帯に立地する。

周辺には千住遺跡、(伝)阿弥陀寺跡、(伝)光明寺跡、伽藍遺跡、牟田寄貝塚、平尾遺跡等 が、更に同地区の東側には貴別当神社遺跡(千代田町)がそれぞれ所在しており、柴尾橋下流 遺跡(昭和56年度調査、蓮池町古賀:弥生時代後期-鎌倉時代)、蓮池上天神遺跡(昭和58年度) 調査、蓮池町小松:鎌倉時代)などが調査例として上げられる。

今回の発掘調査では、弥生時代から室町時代にかけての遺構・遺物を確認した。弥生時代の ものとしては溝跡、土壙等を検出したが、中世のある時期に整地が行なわれているため、残存 状態については不良である。なお遺物に関しては高杯、壺、甕、佐製鏡等を検出した。

古墳時代の遺構として明確なものは土壙1基のみである。遺物は調査区内の試掘溝や中世の 溝の埋土中から甕、壺、鉢等が検出している。

奈良時代から平安明代にかけての遺構としては井戸跡、土壙があるが、今回の調査において 最も多く検出した遺構であり、遺物についても須恵器(壺・高杯・甕)、土師器(壺・杯)を中 心に多量に出土している。また、これらの遺物の中には墨書を有するものが含まれる。

中世の遺構としては井戸跡、溝跡、土壙があり、遺物としては瓦器(碗)、磁器(碗・皿)、 土師器(杯・小皿)などが出土している。

このように牟田寄遺跡は弥生時代から中世にかけて営まれた集落跡と考えられるが、住居跡 については全く検出できなかったことから、集落の縁辺部に相当すると推測される。



- (1) 车田寄遺跡調査区(B·C地区)全景
- (2) SK015遺物出土状況
- (3) SK042遺物出土状況(近景)
- (4) SK042遺物出土状況(全景)
- (5) SE047遺物出土状況

(25) 四下大丹遺跡 (略号:SGO)

遺跡の所在地

多久市北多久町大字多久原字大丹

調査主体者

多久市教育委員会

調查期間

平成元年5月~9月

調查面積

1,200 m3

#### 遺跡の概要

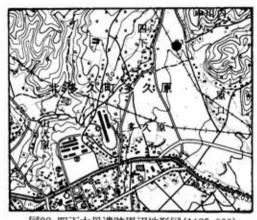


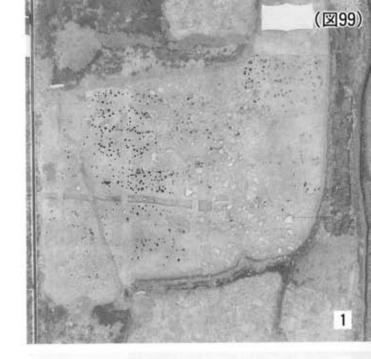
図98 四下大丹遺跡周辺地形図(1:25,000)

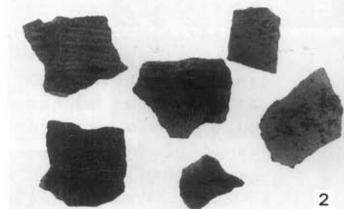
四下大丹遺跡は天山より端を発した今出川により形成された扇状地の端部で、標高72mの水田に位置する。遺跡の周辺には、西500m程の丘陵上に旧石器~縄文時代の散布地として知られる八天山遺跡があるが、この遺跡と本遺跡の北部では遺跡の所在についての報告例はない。

本遺跡は団体営土地改良総合整備事業(四下地区)に伴い、前年度に実施した確認調査により遺跡規模2,100㎡を確認した。その後の個別協議の結果、北半部900㎡は盛土工法により保存された。しかし南半部1,200㎡については削平を受けるため調査を実施した。

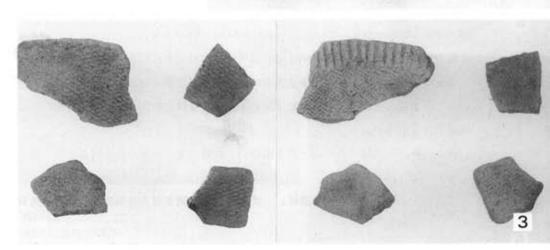
遺構の検出状況についてであるが、水田の耕作土を除去すると、すぐに大型の転石が顔を出し、その石の間隙を縫ってピットや土壌を穿っている。このような状況の中で、約700を数える遺構を検出した。主な遺構は揺立柱建物跡 7 棟、溝跡 6 条、土壌15基、その他ピット等である。また、少量ではあるが、縄文時代早期・中期から後期にかけての遺物が出土している。掘立柱建物跡はその切り合い関係から 2 時期にわたり営まれたことが判明したが、数少ない出土遺物から、13世紀終わりから14世紀初めのものと考えられる。溝跡は、掘立柱建物跡と同時期と思われるが、1 条を除いては出土遺物がないため、明確には特定できない。

また、調査時の検討不足であったが、不整列に位置する多数のピットから柱痕を検出し、これらと調査地区内に点在する転石を礎石と見成せば、ピットと転石の組み合わせによる建造物 が構築される可能性がある。今後このような状況の遺跡で検討すべき点であろう。一方、縄文 時代の遺物については、出土量が少量ながら多時期にわたっていることから、当地で集落跡が 営まれたとは考え難く、むしろ周辺にこれらの遺跡が展開すると考える方が適当であろう。





- (1) 四下大丹遺跡調査区全景
- (2) 出土遺物(縄文土器) (3) 出土遺物(縄文土器)



( 佐賀南部地区における調査 )

(26) 南永野遺跡 (略号: MNG)

#### 遺跡の所在地

武雄市東川登町大字永野字天神皆木

# 調查主体者

武雄市教育委員会

## 調查期間

平成元年7月~8月

# 調查面積

400 m²

## 遺跡の概要

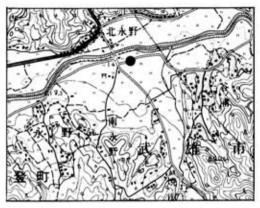


図100 南永野遺跡周辺地形図(1:25,000)

南永野遺跡は六角川右岸の自然提防上に位置し、現況は水田で標高約14.5~14.7mを測る。 武雄平野を貫流する六角川の両側には数多くの遺跡が立地している。しかし川登地区では、遺跡の密度が粗となる。今回調査を行った南永野遺跡は、その空白を埋めるものとして、近接する天神裏遺跡とともに注目を集めた。

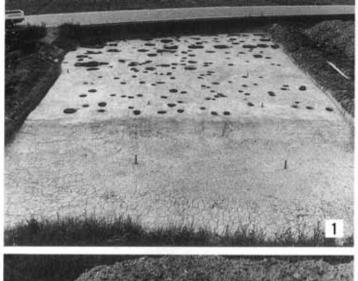
調査は、工事によって削平・掘削される部分を1・2区として実施した。1区で検出された 遺構は、掘立柱建物跡4棟、土壌2基、柱穴等であり、遺物としては須恵器、土師器、青磁、 白磁等の小片が出土している。

2区で検出した遺構は、掘立柱建物跡 2 棟、井戸跡 1 基、土壙 6 基、溝跡 2 条、柱穴等である。S D 201溝跡は途中で消滅するが、この途切れた部分に向い合った形で掘立柱建物跡 2 棟を検出しており、溝に区画された出入口の感がある。遺物については、須恵質土器、土師器、磁器、陶器その他が出土している。また S E 204井戸跡から検出した黄釉の盤は、近年県内でも出土例が増えつつある福建省泉州郊外の磁灶窯の製品と思われる。

南永野遺跡は、立地状況や確認調査時に検出した遺構の埋土・遺物等が玉江遺跡と類似していることから、古墳時代から中世末にいたる複合遺跡の検出も期待されたが、今回の調査では確認できなかった。

- 註1 原田保則編『みやこ・茂手遺跡』 武雄市文化財調査報告書第15集 武雄市教育委員 会 1986年
- 註 2 " 「天神裏遺跡」 武雄市文化財調查報告書第23集 武雄市教育委員会 1990年
- 註3 " 「玉江遺跡」 武雄市文化財調查報告書第16集 武雄市教育委員会 1987年

(参考文献) 坂井義哉編『南永野遺跡』 武雄市文化財調査報告書第22集 1990年



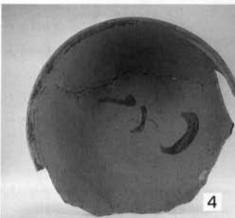






- (2) 2区全景(西から)
- (3) 1 区SB101掘立柱建物跡(東から)
- (4) 2 区SE204出土遺物(黄釉の陶盤)
- (5) 2 区SB209 · 210掘立柱建物跡
- (6) 2 区SE204出土遺物(黄釉の陶盤)







(27) 天神裏遺跡 (略号: TGU)

遺跡の所在地

武雄市東川登町大字永野字今藤

調查主体者

武雄市教育委員会

調查期間

平成元年7月~8月

調查面積

200 m<sup>2</sup>

遺跡の概要

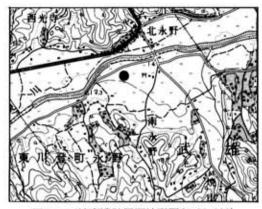


図102 天神裏遺跡周辺地形図(1:25,000)

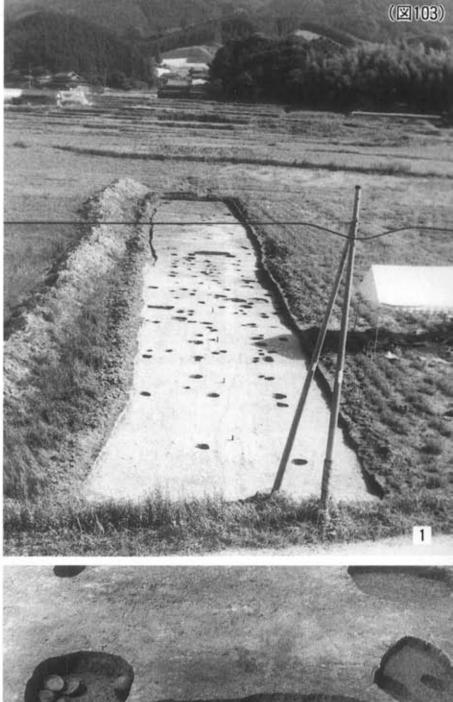
天神裏遺跡は、南永野遺跡同様、六角川の右岸に立地しており、同遺跡の西ほぼ1kmの地点 に位置し、昭和62年度に、農業基盤整備事業に伴う確認調査で発見された。

調査により検出した遺構は掘立柱建物跡2棟、土壙1基、柱穴等で、分布は全体的に粗であり、遺跡の中心は調査区よりやや東側のようである。遺構の大半は柱穴であるが、その中に土師器を埋置していたものがあり、地鎮に関連するものかと思われる。他に青磁、滞石製の石鍋片などが出土した。

当遺跡は中世を主体とした遺跡であるが、東側の羽根木神社は、近世末に武雄鍋島家によって大砲の試射が行われた所であり、当時の遺構・遺物の検出が期待されたが、今回の調査では発見できなかった。

註1 池田史郎「近世」『武雄市史』上卷 武雄市 1972年

(参考文献)原田保則編『天神裏遺跡』 武雄市文化財調査報告書第23集 武雄市教育委員 会 1990年



- (1) 天神裏遺跡調査区 全景(北から) (2) SK101土壙
- (南から)

(28) 不動遺跡 (略号: FDO)

遺跡の所在地

鹿島市大字山浦字不動

調査主体者

鹿島市教育委員会

調査期間

平成元年7月~10月

調查面積

3,200m²

# 遺跡の概要

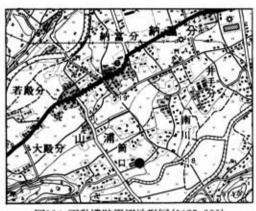


図104 不動遺跡周辺地形図(1:25,000)

不動遺跡は、多良岳山麓から流れ出した中川によって形成された扇状地の中流域に位置しており、標高18.0~20.5mの水田に存在する。この不動遺跡の北西300mに現在連厳院と呼ばれている真言宗仁和寺派の寺院があるが、平安時代末から鎌倉時代には、この付近は京都の仁和寺の荘園であり、その末寺として、金剛勝院という大寺院が建立されていたとの伝承が有る。調査についてはこの金剛勝院との関連性が注目されたが、今回これに関係すると思われる遺構・遺物が認められた。調査は県営圃場整備事業に伴い、A~C地区に分けて実施した。

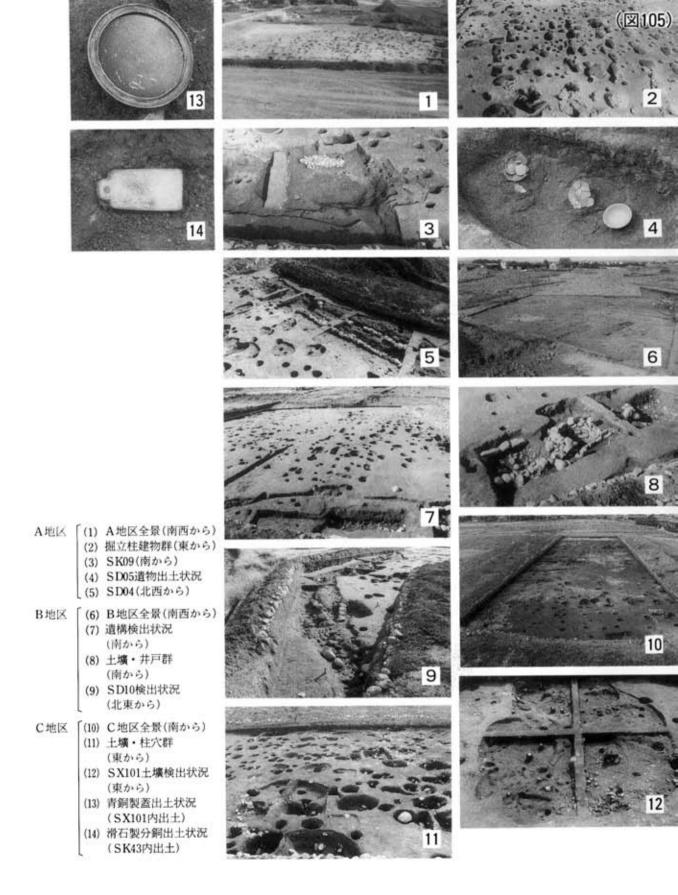
A地区は16世紀後半を中心とする集落跡であり、掘立柱建物跡 9 棟、棚状遺構 2 列、溝跡 7 条、土壙11基、柱穴・小穴多数を検出した。特に、住居のほぼ一軒分の敷地を検出したことが 注目される。また遺物に関しては溝を中心に輸入磁器、国産陶器、土師器、瓦質土器等が出土 しており、16世紀末から17世紀初頭のものが主流を成す。

B地区では敷地を区画すると思われる溝跡10条と掘立柱建物跡 5 棟、土壙21基、井戸 1 基、 棚状遺構 3 列、柱穴・小穴多数を検出し、遺物については土壙及び溝跡を中心に、交趾焼など の輸入磁器、伊万里焼、唐津焼などの国産陶磁器、土師器、瓦質土器などが出土した。

C地区では溝跡2条、掘立柱建物跡1棟、土壙40基、棚状遺構3列、柱穴・小穴多数を検出 した。また遺物としては、主に土壙の中から縄文土器、土師器、輸入磁器、瓦質土器、石製品、 土製品、窯道具、石器、鉄器、青銅器などが出土している。

註 加田隆志『不動遺跡 (A·B地区)』 鹿島市文化財調查報告第5集 鹿島市教育委員会 平成2年

加田隆志『不動遺跡 (C地区)』 鹿島市文化財調査報告書第6集 鹿島市教育委員会 平成2年



(29) 多田遺跡 (略号: TAD)

遺跡の所在地

杵島郡白石町大字今泉字多田

調査主体者

白石町教育委員会

# 調査期間

平成元年8月~平成2年3月

# 調查面積

5,000 m<sup>2</sup>

# 遺跡の概要



図106 多田遺跡周辺地形図(1:25,000)

多田遺跡は杵島山系東方に広がる水田地帯であり、標高約2.0~2.4mを測る。多田周辺は平 安時代初期の文献に「多駄」と記される荘園であった。また、周辺からは土器片が多数採集さ れるなど、早くからその存在が知られていた。

昭和62年度より調査を開始し、古墳時代後期から奈良時代を中心とする集落跡であることが 判明した。平成元年度はF・G・H・Iの3地点を調査した。この内、F地点においては多数 の柱穴、溝跡、土壙を検出し、SD020において「大」と墨書された須恵器を検出した。また、 G地区ではSK207、SK209よりそれぞれ2本、1本の木簡が出土した。SK207の幅約3cm、 現存長約12cmの木簡には、表に「五月八日大神部(以下不明)」、裏には「五□□□前(以下不明)」、また幅約5cm、現存長約27cmの木簡には、表に「道□」、裏には「二月 二月廿日(以下 不明)」と記されている。SK209の木簡には13文字程度が記されているが、月・思・止・丁・ 亦の5文字が辛うじて判読できるにすぎない。これはV字型木製品と見たほうが適当かもしれ ないが、その用途は不明である。

H地区では、溝跡、土壙、柱穴が検出されたが、南北に延びるSD024の南端で、完形の領恵 器大型壺1点が据え置かれた状態で出土した。

I地区においては、古墳時代後期から奈良時代を中心とする土壙、溝跡のほかに、近世の木棺墓1基と溝跡を確認し、奈良時代の土壙より、「大」とへラ書きされた須恵器を検出した。また、幅約3.3~3.5m、深さ約50~80cmの「コ」の字形に巡る古墳時代後期の溝は、調査区南方へ延びて、特定地区を囲む環濠になるのではないかと推定され、その東方では近世の溝がこの溝と交差している。なお女性が埋葬されたと推定される近世の木棺墓の蓋上面には、「十方世界卍 (以下不明)」と墨書されている。

今年度の調査においても、集落の中心となる建物跡は確認できなかったが、墨書土器や木簡等の出土により、当時の有力勢力の集落が付近に存在していたことが推定され得る。







- (1) 多田遺跡 I 地区全景(東から)
- (2) I区内検出木棺墓(蓋除去後:南から)
- (3) G⊠SK209
- (4) G区SK209出土 V字形木製品(赤外線カメラを使用)
- (5) G区SK207出土木簡 (赤外線カメラを使用)





(30) 湯崎 東 遺跡 (略号: YSH)

遺跡の所在地

杵島郡白石町大字湯崎字湯崎

調査主体者

白石町教育委員会

# 調查期間

平成元年6月~平成2年3月

#### 調查面積

3,000m<sup>a</sup>

#### 遺跡の概要



図108 湯崎東遺跡周辺地形図(1:25,000)

湯崎東遺跡は、杵島山系東部に広がる標高約3.4m程度の水田地帯に位置する。平成元年度の 調査対象地は、地元で「ジュッチョウバタケ」と呼ばれている畑地であり、周囲の水田より70~80 cm程高い。昭和62年度には南半分の約3,000㎡を調査し、昭和63年度には西側の南北水路予定地 の調査を行った。検出された遺構は、弥生時代終末から奈良時代を中心とする多数の井戸跡、 溝跡、土壙、柱穴等であり、少数ではあるが近世の遺構も検出した。

調査区南西部から北東方向へ約70m延びた後、北側へと屈曲する幅約1.5~1.7m、深さ約0.5~1.0mのSD228は、弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての環濠と考えられるが、調査区西端より約20m離れた南北水路部分、また調査区北端より約50m離れた東西水路部分においては未確認である。この溝跡が居館、もしくは集落跡を区画する環濠であれば、その規模は最大で約3,500mと推定される。なおその内側では、後世の削平のためか、住居跡等は検出できなかった。

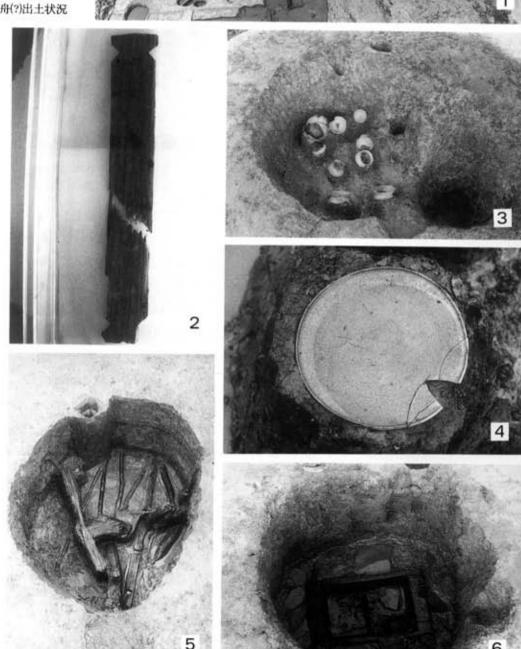
古墳時代の土壙、井戸の底からは壺・甕等の完形品が多数出土しており、なかには山陰系の 壺片など他地域との交流を示す遺物も見られる。

奈良時代の遺物としては「十」と墨書された須恵器杯や、「大」とへラ書きの有る須恵器蓋等がある。「大」という墨書は、昭和62年度の調査において、また多田遺跡からも多数検出している。そのほかに、無記銘ではあるが、全長約20cmの付札木簡が、扇片と共に出土している。

東播系須恵器を出土したSE223の底部で、田舟と思われる木製容器の周辺を、偏平な割石で 囲むと言う構造を検出した。また五輪塔の空・風部、火部を柱の根石として転用している例が 近世の柱穴に見られる。



- (1) 湯崎東遺跡調査区全景 (東から)
- (2) SK440出土付札木簡 (赤外線カメラを使用)
- (3) SK430土器出土状况
- (4) SK596ヘラ書き「大」蓋 出土状況
- (5) SK592木器出土状況
- (6) S E223田舟(?)出土状況



( 佐賀北部地区における調査 )

(31) 川内野遺跡 (略号: KCN)

#### 遺跡の所在地

伊万里市東山代町川内野字平原、松葉

#### 調查主体者

伊万里市教育委員会

#### 調查期間

平成元年7月~12月

#### 調查面積

6,900mt

#### 遺跡の概要

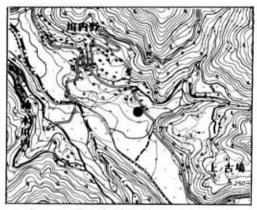


図110 川内野遺跡周辺地形図(1:25,000)

川内野遺跡は伊万里市の西部、佐賀県と長崎県との県境近くに位置する。国見山麓から志佐 川に向かって西北方向に派生した丘陵の先端部付近にあり、標高は約180mである。遺跡の周辺 には山ン寺遺跡など多くの遺跡が所在しているが、そのほとんどは詳しい調査が行われてい ない。今回調査した範囲は遺跡の北側部分で、遺跡総面積の約7割を占める。遺構検出面と各 時代の生活面は削平のため一致しないが、覆土内から縄文時代の石鏃、弥生時代の勾玉・甕の 破片、庄内式の甕などが出土した。

遺構としては掘立柱建物跡9棟(大部分は3間×2間)、廃棄穴と考えられる土壙3基、内部に大小の礫が集積する土壙3基、性格不明の土壙3基、小穴多数(柱根が残存しているもの5箇所)を検出した。廃棄穴と考えられる土壙の内、最大のものは平面プランがほぼ円形で、直径約1.5m、深さ約0.3mを測り、埋土中に古伊万里(碗・皿等)、古唐津(碗・皿・甕・擂鉢等)などの陶磁器片を包含していた。残存している柱根は最大で直径約40cmを測り、面取りを行っている。また建物の柱穴と思われる小穴のなかには、柱を抜き取った後、意図的に石を挿入したものも見られる。

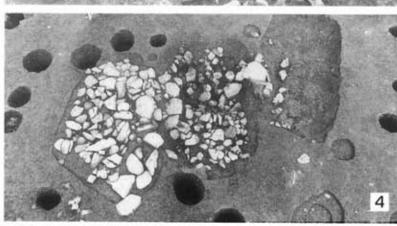
遺構に伴う遺物としては肥前陶磁器(古伊万里・古唐津)、輸入陶磁器〔青花(碗・皿)・白磁(碗・皿)・青磁(竜泉窯系碗・皿)〕土錘などがある。

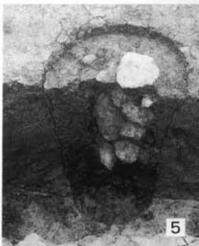
これらのことから遺跡は12~14世紀、17世紀末~19世紀前半の集落跡の一部と考えられる。 とくに柱が残存していた建物跡については、検出状況、立地条件から考えて宗教関係の建物と 思われ、今回の調査によって江戸時代の山間集落の形態や、川内野周辺の歴史を知るうえで 貴重な資料が得られたといえる。











- (1) 川内野遺跡 c 区全景(西から)
- (2) e 区全景(西から)
- (3) b区SP55(西から)
- (4) c 区SK4・5・6 検出状況(南西から)
- (5) c区SP83(北西から)

(32) 平山遺跡 (略号: HLY)

#### 遺跡の所在地

伊万里市脇田町平山字瀬堂、坂ノ前

# 調查主体者

伊万里市教育委員会

#### 調查期間

平成2年1月

# 調查面積

240 m<sup>2</sup>

# 遺跡の概要

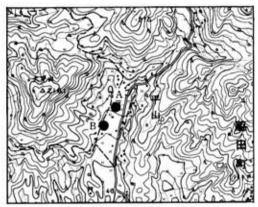


図112 平山遺跡周辺地形図(1:25,000)

平山遺跡は伊万里市街から北方向約2.8kmにあり、城古岳から南北に伸びる丘陵と、太平山に 挟まれた脇田川の右岸に位置する。調査地点は2箇所に及び、調査面積は遺跡総面積の約2割 に相当する。標高はA地区が約76~78m、B地区が約65mである。

A地区(略号: HLY-A)は斜面に位置しており、削平により遺構検出面と生活面は一致しないが、土壙7基を検出した。土壙の内最大のものは長軸約1.9m、短軸約1.1mの楕円形で、深さ約0.2m、最小のものは長軸約0.7m、短軸約0.5mの楕円形で、深さ約0.1mを測り、18世紀頃のものと思われる。覆土内から肥前陶磁器(古伊万里・古唐津)などを検出した。

B地区(略号:HLY-B)はA地区から南西方向約150mに位置する。削平のため遺構検出面と生活面は一致しないが、土壙1基を検出した。規模は長軸約1.5m、短軸約0.8m、深さ約0.55mの楕円形で二段握を呈する。土壙内部に大小の砂岩礫が集積するが規則性は見られない。また、遺物は残存しておらず、性格についても不明である。

調査範囲が限られており、遺構に伴う遺物が少ないため遺跡の全体像は不明確であるが、これらの土壙は集落跡を形成する要素の一部と思われる。





- 3
- (1) 平山遺跡A地区全景 (東から)
- (2) B地区全景 (北から)
- (3) B地区土壙検出状況 (北西から)

(33) 牧の土塁・石塁跡 (略号: MAK) 遺跡の所在地

西松浦郡西有田町大字山谷字楠久保 調査主体者

西有田町教育委員会

# 調査期間

平成2年2月~3月

#### 調查面積

2.000m2

# 遺跡の概要

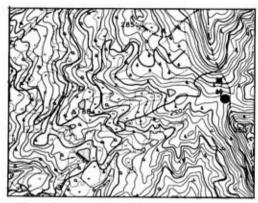


図114 牧の土塁・石塁跡周辺地形図(1:25,000)

牧の土塁・石塁跡は西有田町と伊万里市を隔てる牧山(標高552.6m)から越ノ峠にかけての 北西麓一帯に位置し、その分布面積は120ha以上と推定される。周辺部における周知の埋蔵文化 財包蔵地の存在は現在のところ報告されていないが、牧山の西麓部、西有田町大字山谷字上原、 館中には上原遺跡、館中遺跡等の縄文時代の遺物散布地が点在しており、東麓部の伊万里市大 川内町大川内山地区には近世の古窯跡が集中している。

牧の土塁・石塁跡は鍋島藩祖勝茂によって元和8年(1622年)以降に築かれた、軍馬養成を 目的とした御用牧場の一つである有田牧の一部であり、最も早く開設された楠久牧(現在の伊 万里市牧島)、そして伊万里牧(腰岳南麓一帯)を併せた3牧が明治に至るまで(牧の土塁・石 塁跡の廃絶は明治2年)機能していた。牧場経営の円滑化を図るため牧奉行を配し、種馬の買 い付けに東奔西走している様子が「鍋島勝茂書状」(「多久家文書」)からも読み取れる。

今回の調査は民有林林道大川内~竜門線開設事業に伴って本年8月に実施した確認調査により検出した土塁・石塁跡、及び周囲の地形を含めた2,000㎡について行った。

調査の結果3基の土塁・石塁跡を検出したが、その3基の構築方法について以下のような特 徴が指摘できる。

まず土盛り、石積みの時期に関しては時間差が存在するものの、それは築造の手順の差の中に収斂されるものであること。更に基底部の位置の決定、及び幅の確保については斜面の傾斜角を勘案し、控えの短い粗割石を用いた布積み技法によって天端を水平に揃える工夫を凝らしているが、その上部の2時的な構築においては一部乱積みを行う等、上下の積み方に差異が見られること。また全面の端部同士を合わせるのではなく、腹、及び控えの後端部を重ね合わせるという、元和8年の段階ではむしろ古式ともいえる構築方法を採用していること。

以上のように牧の土塁・石塁跡は近世初期の土木技術を研究する上で貴重な資料であるとと もに、御用牧場という特殊な性格を有する遺跡であるため、広域にわたる分布調査によってそ の全体的な把握を行う一方、保存整備をも併せて考えるべきであろう。



- (1) 牧の土塁・石塁跡所在地 (牧山全景:西から)
- (2) 牧の土塁・石塁跡 (手前より1・2・3号石塁:北から)
- (3) 石塁の接続部分(南から)
- (4) 1号石塁·東面
- (5) 2号石塁·北面
- (6) 3号石塁・東面











( 佐賀上場地区における調査 )

(34) 唐ノ川高峰遺跡 (略号:TOT)

#### 遺跡の所在地

唐津市唐ノ川字高峰

# 調查主体者

唐津市教育委員会

# 調查期間

平成元年10月~平成2年2月

# 調查面積

2,400m2

# 遺跡の概要

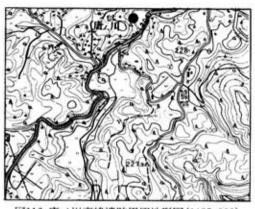


図116 唐ノ川高峰遺跡周辺地形図(1:25,000)

本調査地区は唐津市の西部、上場台地の南東端にあたり、有浦川と松浦川の分水嶺から南に 延びる標高160~170mの緩丘陵面に立地しており、昭和63年度に調査した高峰遺跡の丘陵上部 にあたる。

丘陵は松浦川上流の田中川によって開析されたもので、南北に狭小な谷が侵入している。

唐ノ川地区内には旧石器時代の一の坂遺跡、河川沿いの低丘陵には弥生~古墳時代の西ノ吹 遺跡、旧石器・弥生・室町の各時代の集落跡が検出された丸尾遺跡等が所在する。

昭和63年度の調査では、縄文時代晩期後半を主体とする遺構(柱穴、土壙)と遺物包含層を 検出した。今回の調査はこの広がりを確認することが目的であったが、結果として晩期中頃(黒 川期) ~晩期後半(山ノ寺期)の包含層が丘陵の全体に広がること、中央部は削平が著しいも のの下位層に縄文時代前期の遺構(土壙)が遺存していること等が判明した。また、縄文時代 晩期終末~弥生時代前期初頭、弥生時代中期前半の遺物分布域や室町時代の遺構(水田)も検 出した。更に晩期の遺構も南側谷頭を中心に認められ、木材や木の実(ドングリ類)の貯蔵穴 などを確認することができた。

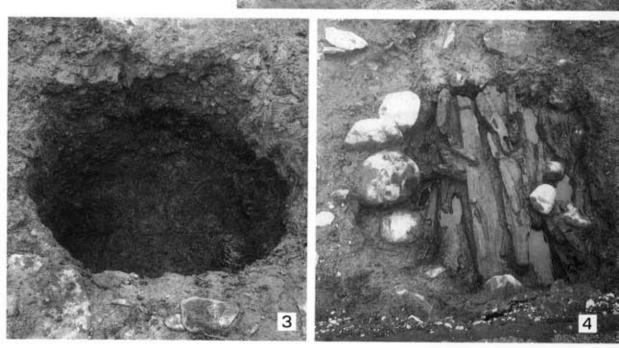
こうした自然遺物の出土は、菜畑遺跡の稲作開始期直前の上場台地を知る上で重要な示唆と いえる。

文献 『唐ノ川遺跡群-唐ノ川高峰遺跡(I)』 唐津市文化財調査報告第40集 1990年





- (1) 唐ノ川高峰遺跡調査区全景
- (2) 遺構分布状況 (貯蔵穴群)
- (3) SK8920貯蔵穴 (ドングリビット)
- (4) SK8922土壙 (木材貯蔵穴(?))



- (35) 唐ノ川丸尾遺跡 (略号: TOM)…A
- (36) 唐ノ川西ノ吹遺跡 (略号: TON)…B

#### 遺跡の所在地

唐津市唐ノ川字丸尾、字西ノ吹

# 調査主体者

唐津市教育委員会

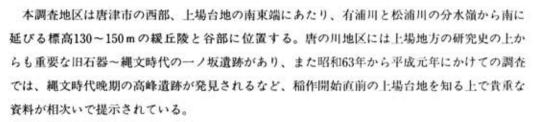
# 調查期間

平成元年6月~平成2年8月

# 調査面積

唐ノ川丸尾遺跡 110m : 唐ノ川西ノ吹遺跡 200m

# 遺跡の概要



#### 唐ノ川丸尾遺跡 (字丸尾)

調査当初に予想した縄文期の包含層の上部に中世(室町時代)と弥生時代の包含層、遺構面を検出し、特に中層の住居状遺構については8軒が認められた。これらは中央部に炉跡状焼土と礫を持ち、平面形態は楕円形~方形となっている。この時代の遺構は、上場台地では数少なく縄文晩期の高峰遺跡とも近接した立地を示し、重要なものである。また下層の旧石器時代の遺物は一ノ坂遺跡と比較できるもので興味深い。

検出遺構:上層-柱穴、土壙、包含層 中層-住居状遺構、土壙、包含層 下層-包含層 遺 物:上層-陶磁器(象眼青磁、青磁、褐釉陶器、土師質擂鉢) 中層-甕、壺、高杯 紡錘車、砥石等 下層-ナイフ形石器、彫器、細石器

唐ノ川西ノ吹遺跡(字西ノ吹)、検出遺構は柱穴、溝跡、土壙、焼土壙(炉跡)等である。主体は弥生から古墳時代で、特に炉跡周辺から古墳時代前期の布留式土器も出土していることから、松浦川下流域平野部とのつながりが推定される。

文献 『唐ノ川遺跡群-唐ノ川西ノ吹遺跡』 唐津市文化財調査報告第38集 1990年

図118 唐ノ川丸尾遺跡・唐ノ川西ノ吹遺跡 周辺地形図(1:25,000)









- (1) 唐ノ川丸尾遺跡遺構検出状況 (北西から)
- (2) 唐ノ川丸尾遺跡下層面グリッド全景 (東南から)
- (3) 唐ノ川西ノ吹遺跡調査区全景 (東から)
- (4) 唐ノ川西ノ吹遺跡検出土壙

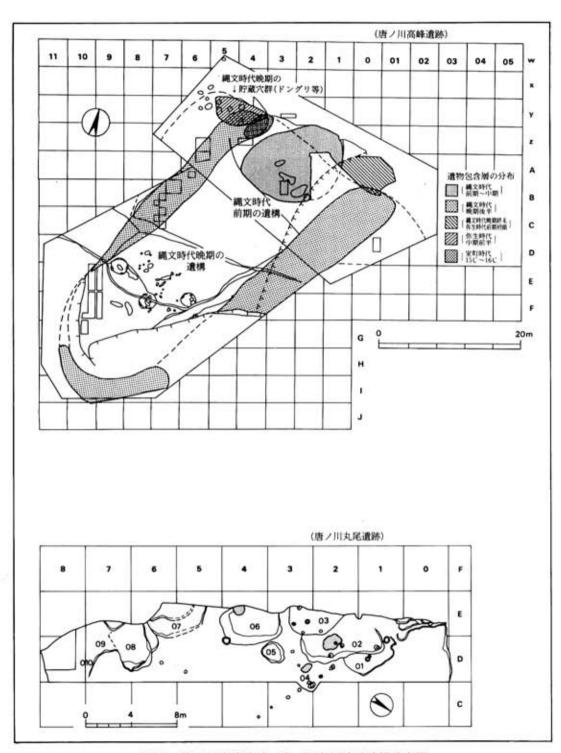


図120 唐ノ川高峰遺跡・唐ノ川丸尾遺跡遺構分布図

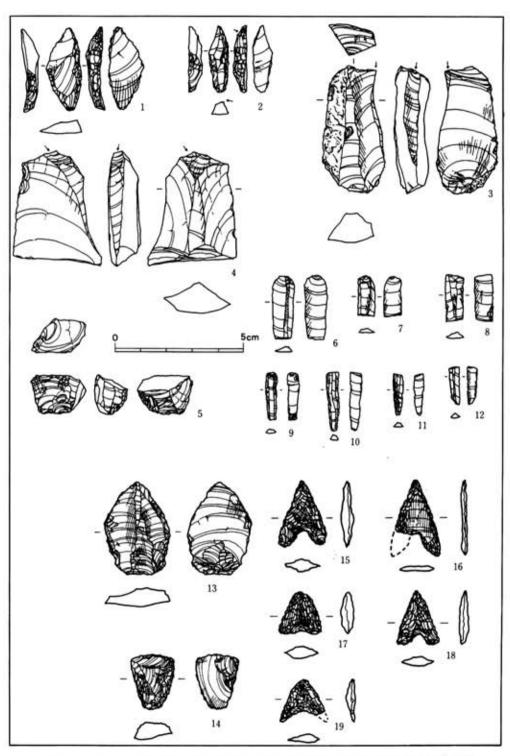


図121 唐ノ川丸尾遺跡(1~12)・唐ノ川西ノ吹遺跡 (13~19) 出土遺物実測図

# (37) 木下利房陣跡 (略号:KTF)

遺跡の所在地

東松浦郡玄海町大字値賀川内字日の出 調査主体者

玄海町教育委員会

#### 調查期間

平成元年6月~11月

# 調查面積

4.000m3

# 遺跡の概要

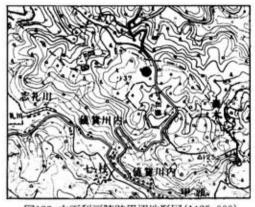


図122 木下利房陣跡周辺地形図(1:25,000)

木下利房陣跡は玄海町大字値賀川内字日の出に位置し、名護屋城跡の南約2.5km、鎮西町との 町境に接しており、標高115~120mの丘陵地に立地している。

周辺には、同じく文禄・慶長の役(1592-1598)に参陳した長谷川秀一、京極高次、毛利輝 元等の陣跡が分布している。

調査は農業基盤整備事業に伴い、削平を受ける部分の畑地の区画をもとに、2地区(西区・ 東区)に分けて実施した。

西区の遺構の石垣は長さ約87mあり、北から南へとほば直線的にのびており、現在国史跡の 指定地となっている地区内に含まれている。

東区の遺構の石垣は長さ約77mの規模を持つが、大部分は崩壊が著しく、転石が多い。しか し、南区からは裏込め石を有する石垣を検出することができた。なお建物跡については、どち らの調査区においても検出することはできなかった。

出土遺物としては瓦片があり、また、表採で陶器類、土師器、摺鉢等を検出した。この他に も表土中より剝片尖頭器、石核、土器片等を採集した。

註1 『木下利房陣跡』玄海町文化財報告書第2集 玄海町教育委員会 1990年







- (1) 木下利房陣跡調査区全景(真上から)
- (2) 西区石垣遺構(南から) (3) 東区石垣遺構(南から)

# (38) 般末場遺跡 (略号:TOK) 遺跡の所在地

東松浦郡肥前町大字入野字殿木場 調査主体者

肥前町教育委員会

# 調查期間

平成元年12月~平成2年3月

# 調查面積

1,700 m<sup>3</sup>

# 遺跡の概要



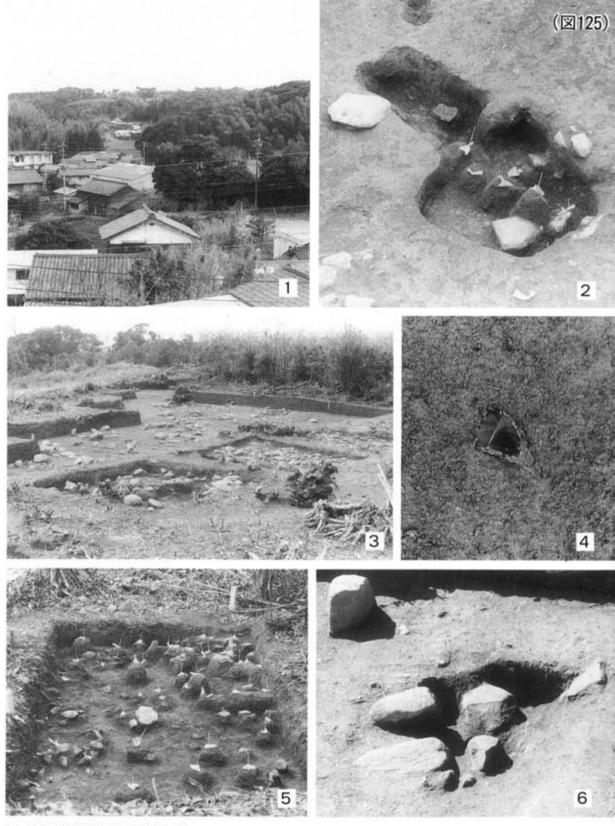
図124 殿木場遺跡周辺地形図(1:25,000)

殿木場遺跡は、佐賀県北西部の東松浦半島(上場台地)の南西から突き出た入野半島の付根 部中央、標高約160mの丘陵上に位置している。この地域は、ほとんどが玄武岩の風化した土壌 で覆われ、標高100~200m内外の起伏の多い丘陵地帯で、遺跡の周辺には、磯道遺跡や田尾遺 跡、尾山遺跡等、旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が点在している。

調査は、ファームポンド工事に伴う1.700㎡を対象にして、4×4mのグリットを基本に遺物 の分布状態を確認したうえで、遺跡東側の平坦な場所を中心に実施した。

その結果、層序は I 層の表土、 II 層 (黄褐色土)、 III 層 (明褐色粘質土)、 IV 層の地由から構成されていることが判明した。 遺構については、挙ほどの礫から、最大長60cmほどの焼石・焼土を含む礫群と、不整形な土壌 7 基を検出した。 遺物はナイフ形石器、台形石器、削器、細石刃、石核、石鏃、磨石などで、石材はほとんど黒曜石であった。 土器は古墳時代から中世にかけてのもので、器形を判別できるものは壺、高杯など一部のもののみであった。 また 2 点の古銭が出土し、 1 点は「熙寧元宝 (北宋)」であったが、 1 点は判読できなかった。

遺物総数は約1,100点で、2~3箇所のユニットが確認できた。調査区の北東側に集中しているため、遺跡の中心は調査区北東部から区外の一帯と考えられる。また、肥前町内での土師器の出土は稀であり、今後の資料の収積を待ちたい。



- (1) 殿木場遺跡調査区全景(西から)
- (2) 土壙(西から)
- (3) 調査区全景(南西から)
- (4) 遺物出土状況(ナイフ形石器)
- (5) 遺物出土状況
- (6) 土壙(東から)

# V. 総 括

平成元年度に実施した農業基盤整備事業に係る文化財調査のうち、確認調査については佐賀 東部地区で鳥栖市・中原町・北茂安町・上峰町・三根町・東脊振村・三瀬村・神埼町・千代田 町の1市6町2村の計21地区、佐賀西部地区では佐賀市・多久市・大和町・川副町・小城町の 2市3町の計14地区、佐賀南部地区においては武雄市・鹿島市・江北町・白石町・嬉野町・太 良町の2市4町の計16地区、佐賀北部地区で伊万里市・有田町・西有田町・厳木町・相知町の 1市4町の計12地区、佐賀上場地区では唐津市・浜玉町・鎮西町・肥前町の1市3町の計9地 区において行い、筑後川下流用水事業に係る調査は佐賀市、北茂安町の2地区で実施した。

また発掘調査に関しては佐賀東部地区17遺跡、佐賀西部地区7遺跡、佐賀南部地区5遺跡、 佐賀上場地区5遺跡について行い、筑後川下流用水事業に係る調査では1遺跡が対象となった。 以下、確認調査に関しては地区毎に、発掘調査については時代毎にそれぞれまとめ、特徴的な 遺跡に関してはその内容について略述したい。

#### ◎ 文化財確認調査

#### (1) 佐賀東部地区

鳥栖市:鳥栖北部地区(山浦地区、原古賀地区、養父地区)・鳥栖西部地区(立石吉原地区、 立石惣楽地区)、中原町;中原北部地区、上峰町;上峰北部地区、三根町;大善寺北部地区、東 春振村:東春振工区、三瀬村;林道・金山~春振線(井手野地区)、神埼町;神埼工区(祇園原 地区)、千代田町;千代田工区(柳島地区、上西地区)の13地区で遺跡が確認された。

これらのうち、鳥栖北部地区(養父地区)では縄文時代、及び奈良時代から平安時代にかけての集落跡を検出したが、これは「養父郡」を追証する新資料となった。上峰北部地区では弥生時代から中世に至る集落跡、及び奈良時代の大規模な土塁(堤土塁)を確認し、土塁の保存整備について現在検討中である。大善寺北部地区では平安時代から中世にかけての集落跡を確認したが、筑後川を隔てた西岸の天建寺周辺に立地している同時期の集落跡との関係が注目される。林道・金山~春振線(井手野地区)では縄文時代の良好な遺物包含層を検出しており、"井手野遺跡"として周知化を図った。神埼工区(祇園原地区)の調査では古墳時代から近世に及ぶ集落跡、及び奈良時代の古代官道の存在を明らかにすることができた。

#### (2) 佐賀西部地区

佐賀市;久保泉東部地区・久保泉西部地区・金立南部地区・北川副地区・兵庫南部地区、多 久市;多久東部地区(別府地区)、大和町;久池井地区、川副町;川副中部地区の8地区におい て遺跡の存在を確認した。

このうち久保泉東部地区では奈良時代の古代官道が遺存しているため、関連施設の検出、及び包括的な保存整備の実施が急務である。北川副地区では古墳時代から中世に至る複合遺跡を確認しており、阿高遺跡の分布範囲の拡大、並びに"梅屋敷遺跡"、"寺裏遺跡"の名称で周知化を図った。また兵庫南部地区においては弥生時代の集落跡を確認したため、"瓦町遺跡"として周知化を行った。更に多久東部地区(別府地区)においても中世の集落跡を確認しており、"四反田遺跡"として周知化した。久池井地区では弥生時代前期末の甕棺(合口式の成人棺で、内部に人骨が遺存)を検出したが、この時期の人骨は類例が少なく、貴重な資料である。

# (3) 佐賀南部地区

武雄市:川登地区(第一工区)、鹿島市:鹿島西部地区(南川地区)、白石町;白石西第一地区・白石西第三地区・白石西第四地区、嬉野町;不動山地区、太良町;糸岐川南地区の7地区において遺跡の存在を確認した。

このうち白石西第三地区では古墳時代から奈良時代にかけての集落跡をそれぞれ確認したが、これは平安時代に存在したとされる荘園 (多駄郷)の一角に相当する可能性がある。不動山地区では隣接する皿屋谷3号窯 (近世磁器窯:"不動山窯跡"の名称で国の史跡に指定)で焼成されたと思われる磁器類、窯道具等を検出した。また糸岐川南地区では平安時代末期から近世に至るまで断続的に営まれた集落跡を確認している。

#### (4) 佐賀北部地区

伊万里市:伊万里地区(大里地区)、西有田町;林道・大川内~竜門線、相知町;農道・岸岳 2期地区の3地区において遺跡の存在が認められた。

伊万里地区(大里地区)では縄文時代の遺物包含層を検出した。林道・大川内〜竜門線では 近世の鍋島藩御用牧場跡(馬牧)関連の石塁(牧の土塁・石塁跡)を検出した。農道・岸岳 2 期地区では岸岳城関連の竪堀と墳墓を確認しており、墳墓の内部より古唐津の碗、片口等を検 出した。なお墳墓については伝承にちなみ、"おまん塚"の名称で周知化を行った。

#### (5) 佐賀上場地区

唐津市;上場Ⅱ期地区(湊工区)・上場IV期地区(梨川内工区)・上倉幹線用水路(唐ノ川高 蜂地区)・新成渕幹線用水路(竹木場前田地区外4地点)の4地区で遺跡の存在を確認した。

上場Ⅱ期地区(湊工区)では弥生時代、及び室町時代の集落跡を確認し、"湊松本遺跡"として周知化を図った。

上場IV期地区(梨川内工区)においては縄文時代及び中世から近世の遺物包含層と、旧石器

から縄文時代にかけての遺物包含層を検出したためそれぞれ"村前(1)遺跡"、"村前(2)遺跡"と して周知化を検討中である。

新成渕幹線用水路(竹木場前田地区外4地点)では旧石器時代から縄文時代に至る集落跡、 遺物包含層、及び中世の遺物包含層を確認し、"一ノ坂遺跡"、"竹木場前田遺跡"、"菅牟田西山 遺跡"、"団六Ⅰ遺跡"、"団六Ⅱ遺跡"として周知化を行った。

#### (6) 筑後川下流用水事業

水路掘削予定の佐賀市の久保泉東部地区内で、中世から近世にかけての集落跡を確認した。

# ◎ 文化財発掘調査

#### (1) 旧石器時代~縄文時代

この時代については八藤遺跡・船石遺跡(以上上峰町)、上石動遺跡(東脊振村)、船塚遺跡 (神埼町)、貴別当神社遺跡(千代田町)、四下大丹遺跡(多久市)、唐ノ川高峰遺跡・唐ノ川丸 尾遺跡(以上唐津市)、殿木場遺跡(肥前町)の9遺跡が調査されている。

これらのうち、船塚遺跡は段丘上に位置し、縄文時代早期から晩期に至る土壙、集石遺構と 国府型ナイフ、曽畑式土器、轟式土器を検出している。また唐ノ川高峰遺跡、唐ノ川丸尾遺跡 は上場台地の南部に立地しており、縄文時代前期の土壙、晩期(黒川期〜山ノ寺期)の遺物包 含層、及びナイフ形石器、彫器、細石等を検出している。殿木場遺跡(肥前町)は入野半島の 付け根部分の、起伏の多い丘陵地帯に位置し、黒曜石製のナイフ形石器、台形石器、細石刃等 を検出している。

#### (2) 弥生時代

この時代については本竿遺跡(基山町)、原古賀一本谷 I・II・III遺跡・原古賀三本谷 II・III 遺跡(以上中原町)、三浦遺跡(北茂安町)、八藤遺跡(上峰町)、右原祇園町遺跡(神埼町)、 貴別当神社遺跡(千代田町)、南宿遺跡・村徳永遺跡・牟田寄遺跡(以上佐賀市)、湯崎東遺跡 (白石町)、唐ノ川丸尾遺跡・唐ノ川西ノ吹遺跡(唐津市)の13件の調査例がある。

原古賀一本谷 I・II・III遺跡、並びに原古賀三本谷 II・III遺跡は切通川により形成された谷 底平野に立地しており、中期の竪穴住居跡、土壙、溝跡、周溝状遺構が確認され、各種土器類、 石包丁、砥石、土弾等が出土している。特に三本谷III遺跡では昨年度に引き続き小河川の埋土 中から多量の土器と共に鐸型土製品が出土しており、佐賀東部地区におけるこの遺跡の特異性 が窺える。貴別当神社遺跡では中期の遺物包含層の中から多量の土器類(壺、甕、鉢、器台 等)、石器類(石包丁、砥石、石鏃等)、木製品(竪杵、自在鈎(?)、柱材等)が出土してい る。村徳永遺跡(佐賀市)では中期後半から後期前半にかけての竪穴住居跡、掘立柱建物跡、 井戸跡、溝跡等を確認しており、土器のほか、木製品(竪杵、槌、鍬、鋤等)が出土している。

#### (3) 古墳時代

この時代については山浦新町遺跡(鳥栖市)、原古賀三本谷II・III遺跡(中原町)、八藤遺跡 (上峰町)、上石動遺跡(東脊振村)、岩田遺跡群・右原祇園町遺跡・船塚遺跡(以上神埼町)、 本村遺跡・古村遺跡・阿高遺跡・牟田寄遺跡(以上佐賀市)、唐ノ川西ノ吹遺跡(唐津市)、殿 木場遺跡(肥前町)の13件の調査報告が提出されている。

右原祇園町遺跡では前期、及び後期の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡等が確認されており、 溝跡の埋土中からは数百個体に及ぶ高杯、小型丸底壺等、この時代の土器組成のほぼ総てに及 ぶ器種が検出されている。本村遺跡では竪穴住居跡、井戸跡、土壌の存在を確認しており、古 式土師器のまとまった資料を検出している。唐ノ川西ノ吹遺跡では前期の布留式土器が検出さ れたことから、松浦川下流域平野部との関連が推測され得る。

#### (4) 古代(奈良時代・平安時代)

この時期の遺跡としては柳ノ元遺跡(鳥栖市)、原古賀一本谷 I・II・III遺跡(中原町)、宝 満谷遺跡・原遺跡(以上北茂安町)、八藤遺跡(上峰町)、本村遺跡・古村遺跡・阿高遺跡・牟 田寄遺跡(以上佐賀市)、多田遺跡・湯崎東遺跡(以上白石町)、殿木場遺跡(肥前町)の12例 が調査されている。

原古賀一本谷 I・II・III遺跡では竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土壙、溝跡等が確認されており、須恵器、土師器、越州窯系青磁碗、緑釉陶器、鉄製紡錘車等に加え、「川□」、「川邊」、「十」、「東」、「□前国□□□」と書かれた墨書土器、及び「那屋ヵ秋ヵ」とへラ書きされた高杯等が出土している。多田遺跡は杵島山系の東側に広がる水田地帯に位置しており、平安時代初期に「多駄郷」と称される荘園が存在したことが文献上から窺える。2基の土壙から、表に「五月八日大神部(以下判読不能)」、裏に「五□□□前(以下判読不能)」と記された木簡や、無記銘の付札木簡、「大」の墨書、及びへラ書きを持つ須恵器等が出土している。また湯崎東遺跡でも溝跡、土壙等を確認しており、「大」、「十」と墨書された須恵器杯や「大」のへラ描きを持つ須恵器杯蓋が出土している。

#### (5) 中世 (鎌倉時代・室町時代)

この時期については山浦新町遺跡(鳥栖市)、立花西遺跡(基山町)、上石動遺跡(東脊振村)、船塚遺跡(神埼町)、本村遺跡・村徳永遺跡・阿高遺跡・牟田寄遺跡(以上佐賀市)、四下大丹遺跡(多久市)、南永野遺跡・天神裏遺跡(以上武雄市)、不動遺跡(鹿島市)、川内野遺跡(伊万里市)、唐ノ川丸尾遺跡(唐津市)、殿木場遺跡(肥前町)の15遺跡の調査例が報告されている。

山浦新町遺跡では勝尾城を主城として展開する総構の空堀、城下町跡等が確認されている。 上石動遺跡においては掘立柱建物跡、円形周溝墓、土壙墓等が確認されており、円形周溝墓や 土壙墓の内部から土師器、青磁碗の完形品等が出土している。また船塚遺跡では石組の石匱や 経塚を確認している。本村遺跡では平安時代後半から鎌倉時代にかけて営まれた、内部に掘立 柱建物跡、井戸跡、土壙等を方形に区画している周溝状遺構の存在が確認されており、土師器、 瓦器、磁器の良好な一括資料を得ることができた。また殿木場遺跡では「熙寧元宝(北宋銭)」 等の古銭が検出されている。

#### (6) 近世 (安土·桃山時代以降)

この時期の遺跡については姉川十二本松遺跡・姉川十三本松遺跡・岩田遺跡・船塚遺跡(以 上神埼町)、本村遺跡(佐賀市)、湯崎東遺跡(白石町)、川内野遺跡・平山遺跡(以上伊万里 市)、牧の土塁・石塁跡(西有田町)、木下利房陣跡(玄海町)の10件の報告例がある。

姉川十二本松遺跡、及び姉川十三本松遺跡は中地江川の西岸に広がる低平な水田地帯に立地しており、調査により江戸時代中期の掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土壙を確認したことから、集落跡の存在が窺える。また岩田遺跡では江戸時代の集落跡が確認され、窯跡の存在を裏付ける窯道具や溶着した磁器類も多量に出土している。湯崎東遺跡では柱穴群が確認されているが、その中に五輪塔の空、風、火の各部が根固石の代用として据えられているものが検出されている。川内野遺跡では掘立柱建物跡、土壙等が確認されており、この時期の山間集落の形態を知る上で貴重な資料となった。また廃棄穴と考えられる土壙の埋土中からは古伊万里、古唐津等が検出されている。牧の土塁・石塁跡は牧山から越ノ峠にかけての北西麓一帯に分布する鍋島藩御用牧場跡であり、3 基の石塁が確認された。木下利房陣跡は名護屋城跡の南方向約2.5㎞の丘陵上に立地しており、裏込め石を有する石垣を検出している。

以上、佐賀県内において平成元年度に実施された農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の確認 調査、及び本調査に関する概略を付記したが、近年少数の市町村に対する基盤整備事業の集中 化傾向が見られ、文化財の保護が、記録保存を含めて一層困難なものとなっている。文化財保 護部局と開発部局との円滑な調整に、更なる努力が求められるところである。

佐賀県文化財調査報告書第101集 佐賀県農業基盤整備事業に係る

文化財調查報告書9

発行/平成3年3月31日 佐賀県教育委員会 佐賀市城内1-1-59

印刷/大成写真製版所 佐賀市巨勢町牛島 TEL0952-23-1846

